THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES KUMAMOTO UNIVERSITY/2014

21

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2014年度

2016　熊本大学埋蔵文化財調査センター

THE ANNUAL REPORT ON ARCHAEOLOGICAL RESEARCHES
KUMAMOTO UNIVERSITY/2014

21

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　2014年度

2016　熊本大学埋蔵文化財調査センター

序　文

本学に埋蔵文化財調査センター（以下「センター」）が発足して３年目を迎えた．昨年（2014年）度は組織としての体裁が定まった１年であり，忙しくも充実した１年であった．トピックを示そう．

・学内事業の大幅な増加により，調査員総出で発掘調査にあたった．

・話題性に富む発見が相次ぎ，発掘調査現場を一般公開し，その後遺構の保護対策がとられた．

・初めてのテーマ展示「大宰府へつながる官道」を五高記念館で開催した．

2014年度は東日本大震災の災害復旧政策の余波か，学内開発等に例年を上回る予算がつき，これに係わる発掘調査が大幅に増えた．センターでは，学長裁量経費(注)による報告書刊行作業の完成を先送りして，全員で現場の対応にあたった．昨年度センターが実施した調査は58件である．

黒髪南地区のライフライン工事の事前調査では，白川の運んだ砂の層の下から縄文時代の墓（3700年ほど前のもの）と人骨が発見された．火山灰の影響の強い熊本平野で縄文時代の人骨が残っていたことは，大きな驚きであった．本荘北地区では，江戸期の井手（用水路）の一部が地下３ｍの地層からそのままの形で発見された．加藤清正の治水事業にかかわる遺構の発見は，市民の注目をあびた．いずれの調査でも，学内の地質学分野をはじめとする教員の方々から積極的な協力をいただき，授業を通した学生の見学もあり，大学ならではの事業展開になった．調査後は施設関係部署の理解を得て，双方の遺構がそのまま地下で保存されることになったのは，何より嬉しいことであった．

五高記念館で開催した特別展は，黒髪地区を南北に貫く古代の官道（政府専用ハイウェイ）にかかわる展示である．センターとして念願の成果発表であり，学内外から多くの見学者をえた．五高記念館ほか関係自治体のご協力に感謝したい．

2014年度も運営基盤管理部をはじめとする関係部局にお世話になった．各位にあつく御礼を申し上げる．

（注）過去の調査の報告書を刊行するための特別予算配当．今年度は３年計画の最終年度であった．

2016年１月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

例　言

1．本書は熊本大学構内において，2014年４月１日から2015年３月末日までおこなわれた埋蔵文化財の調査および熊本大学埋蔵文化財調査センターの活動内容に関する年次報告書である．

2．構内遺跡の調査は，昨年度に引き続き，年次と調査順を示す調査番号で表すこととし，出土遺物や記録類もこの番号で整理・管理している．

3．遺跡略号は，地区ごとにローマ字３文字で以下のように表記した．黒髪町遺跡群黒髪南地区（KKS），同北地区（KKN），本庄遺跡医学部構内（HJM），同病院構内（HJH），医学部保健学科構内（KHJ），京町台遺跡教育学部附属小中学校構内（KMS），大江遺跡群薬学部構内（HJP），大江遺跡群渡鹿宿舎敷地内（OER）．

4．遺物への注記は，遺跡略号＋調査番号＋出土遺構（位置）の順でおこなった．

5．本書に掲載した遺物やその他の出土遺物および調査にかかわる記録類はすべて熊本大学埋蔵文化財調査センターにて保管している．

6．本書の執筆は，序文および跋文を木下，Ⅰ章を山野，Ⅱ章を松田・大坪・山野，付篇および表２を山野・大崎，英文サマリー・ハングルサマリーを山野・松田、抄録を山野がおこなった．

7．本書の編集は山野がおこなった．

目　次

<本文目次>

第Ⅰ章　本年度の調査概要――1
第Ⅱ章　調査の記録――7
Ⅱ－1　黒髪北地区――7
1．(黒髪北)附属図書館中央館雨水排水ポンプ増設工事に伴う立会調査(1401)――7
2．(黒髪北)附属図書館中央館看板補修工事に伴う立会調査(1410)――7
3．(黒髪北)体育館改修電気設備工事(仮設電源)に伴う立会調査(1415)――10
4．(黒髪北)武道場等改修機械設備工事に伴う立会調査(1416)――10
5．(黒髪北)体育館改修工事に伴う立会調査(1427)――15
6．(黒髪北)総合研究棟(教育学系)改修その他工事に伴う立会調査(1438)――16
7．(黒髪北)総合研究棟(教育学系)改修機械設備工事に伴う立会調査(1439)――16
8．(黒髪北)体育館改修電気設備工事に伴う立会調査(1440)――17
9．(黒髪北)法学部サークル棟新営その他工事に伴う立会調査(1444)――19
10．(黒髪北)環境整備(駐車場等)に伴う樹木等移植業務に伴う立会調査(1445)――19
11．(黒髪北)環境整備(駐車場等)工事に伴う立会調査(1446)――20
12．(黒髪他)屋外サイン設置工事(黒髪)に伴う立会調査(1448)――21
13．(黒髪北)全学教育棟屋外ガス漏洩補修工事に伴う立会調査(1449)――22
Ⅱ－2　黒髪南地区――23
1．(黒髪南)ライフライン再生(給水設備等)工事に伴う立会・発掘調査(1310)――23
2．(黒髪南)本部(旧事務局本館)基礎調査に伴う立会調査(1408)――32
3．(黒髪南)国際革新技術研究拠点施設新営機械設備工事に伴う立会調査(1418)――34
4．(黒髪南)国際革新技術研究拠点施設新営電気設備工事に伴う立会調査(1419)――35
5．(黒髪南)本部樹木等撤去その他工事に伴う立会調査(1429)――36
6．(黒髪南)本部屋外スロープ取設工事に伴う立会調査(1430)――39
7．(黒髪南)黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事に伴う立会調査(1434)――40
8．(黒髪南)黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事(電気設備)に伴う立会調査(1435)――41
9．(黒髪南)本部エレベーター棟増築工事に伴う立会調査(1436)――42
10．(黒髪南)本部改修その他機械設備工事に伴う立会調査(1437)――42
Ⅱ－3　本荘北地区――43
1．(医病)環境整備(東側駐車場等)工事(舗装・構築物関係)に伴う立会調査(1320)――43
2．(医病)環境整備(東側駐車場等)工事(人孔・雨水管関係)に伴う立会調査・発掘調査(1321)――45
3．(医病)環境整備(東側駐車場等)工事(樹木関係)に伴う立会調査・発掘調査(1322)――45
4．(医病)基幹整備(東側駐車場等)工事(電気)に伴う立会調査・発掘調査(1325)――46
5．(医病)中央診療棟東側環境整備工事に伴う立会調査(1413)――47
6．(医病)中央診療棟東側環境整備(機械設備)工事に伴う立会調査(1414)――47
7．66kV銀座橋熊大医学部線鉛被OFケーブル改修工事に伴う立会・発掘調査(1423)――48
8．(医病)枯木除根伐採業務に伴う立会調査(1424)――48
9．(本荘北)臨床研究棟新営その他工事(地下躯体撤去・擁壁設置)に伴う立会調査(1425)――49
10．(本荘北)臨床研究棟新営その他工事(本体工事)に伴う立会調査・発掘調査(1426)――51
11．(医病)管理棟改修その他工事(撤去)に伴う立会調査(1432)――52
12．(医病)案内板設置業務に伴う立会調査(1433)――54
13．(本荘北)臨床研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査(1441)――54
14．(医病)管理棟改修その他工事に伴う立会調査(1442)――55

Ⅱ－4　本荘中地区――57
1．(本荘中)国最先端医学研究拠点新営その他工事(外構工事)に伴う立会調査(1406)――57
Ⅱ－5　本荘南地区――60
1．(本荘南)体育館改修機械設備工事に伴う立会調査(1420)――60
2．(本荘南)体育館改修工事に伴う立会調査(1421)――60
3．(本荘南)体育館改修電気設備工事に伴う立会調査(1422)――61
4．(本荘南)ポンプ室設備及び給水設備取替工事に伴う立会調査(1451)――61
Ⅱ－6　大江地区（薬学部）――63
1．(大江北)体育館改修その他工事に伴う立会調査(1402)――63
2．(大江北)体育館改修その他工事(機械設備工事)に伴う立会調査(1403)――63
3．(大江北)体育館改修電気設備工事に伴う立会調査(1404)――65
4．(黒髪他)屋外サイン設置工事(大江)に伴う立会調査(1447)――66
Ⅱ－7　京町地区――67
1．(京町)教育学部附属中学校卒業記念樹再植樹に伴う立会調査(1405)――67
2．(京町)教育学部附属小学校給食センターとりこわしに伴う支障配管撤去工事に伴う立会調査(1407)――67
3．(京町)教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事(機械設備)に伴う立会調査(1411)――68
4．(京町)教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事に伴う立会調査(1412)――69
5．(京町)教育学部附属小学校校舎新営その他工事(建築工事)に伴う立会・発掘調査(1417)―70
6．(京町)教育学部附属教育実践総合センター等外部改修工事に伴う立会調査(1428)――73
7．(京町)教育学部附属小学校校舎新営その他電気設備工事に伴う立会調査(1431)――74
8．(京町)教育学部附属小学校校舎新営その他機械設備工事(その２)に伴う立会調査(1443)――75
Ⅱ－8　渡鹿地区――78
1．(渡鹿２)渡鹿宿舎駐車場増設工事に伴う立会調査(1450)――78
Ⅱ－9　城東地区――79
1．附属幼稚園プール遮光ネット取付に伴う立会調査(1409)――79

跋文――81
Summary――82
付篇１――83
付篇２――86
付篇３――86
報告書抄録――92

＜図版目次＞

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）――2
図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図(1/2000)――8
図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図(1/2000)――9
図４　黒髪南地区における調査地点配置図(1/2000)――24
図５　本荘北地区における調査地点配置図(1/2000)――44
図６　本荘中・南地区における調査地点配置図(1/2000)――58
図７　大江地区(薬学部)における調査地点配置図(1/2000)――64
図８　京町地区における調査地点配置図(1/1500)――68
図９「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」の新聞記事――90
図10「縄文時代後期の埋葬人骨発見」の新聞記事――90
図11「熊本大学病院内で江戸時代の井手発見」の新聞記事――91
図12「2014年度地下の文化財速報展示」の新聞記事――91

＜写真目次＞

写真１　作業風景(北より)――7
写真２　北側管路掘削状況(西より)――7
写真３　南側管路掘削状況(西より)――7
写真４　掘削作業風景(東より)――7
写真５　掘削状況(南より)――10
写真６　掘削作業風景(北東より)――10
写真７　掘削状況(東より)――10
写真８　１区南北ルート掘削全景(南より)――11
写真９　１区南北ルート溝検出状況(南より)――11
写真10　２区東西ルート掘削状況(西より)――11

写真11　３区掘削状況（北より）――11
写真12　３区南端傾斜部掘削状況（北より）――12
写真13　５区掘削状況（西より）――12
写真14　６区掘削状況（北より）――12
写真15　７区西側掘削状況（東より）――12
写真16　７区東側掘削状況（西より）――12
写真17　９区西端掘削状況（東より）――12
写真18　９区東端掘削状況（南より）――12
写真19　10区西側掘削状況（東より）――12
写真20　10区中央掘削状況（西より）――13
写真21　10区北側掘削状況（西より）――13
写真22　11区掘削状況（南より）――13
写真23　12区東側掘削状況（西より）――13
写真24　12区東側土器出土状況（南より）――13
写真25　12区東側南壁土層断面（北東より）――13
写真26　12区東側包含層検出状況（東より）――13
写真27　８区遺物出土状況（南より）――14
写真28　13区西管路全景（北西より）――14
写真29　13区南管路掘削状況（南より）――14
写真30　４区掘削状況（西より）――14
写真31　９区掘削状況（南西より）――15
写真32　６区南端遺構全景（南より）――15
写真33　縁石・アスファルト舗装部分重機掘削作業風景（東より）――15
写真34　縁石・アスファルト舗装部分掘削状況（南より）――15
写真35　アスファルト除去部分掘削状況（東より）――15
写真36　Ｌ字側溝除去作業風景（北より）――15
写真37　建物東側すきとり部分掘削状況（北東より）――16
写真38　建物東側コンクリート舗装部分掘削状況（北より）――16
写真39　建物南東側コンクリート舗装部分掘削状況（東より）――16
写真40　建物西側コンクリート舗装部分掘削状況（南より）――16
写真41　Ⅰ区既設桝撤去作業風景（西より）――17
写真42　Ⅰ区掘削状況（西より）――17
写真43　Ⅰ区道路部分掘削状況（北東より）――17
写真44　Ⅱ区掘削状況（北西より）――17
写真45　Ⅱ区道路部分掘削状況（東より）――17
写真46　Ⅰ区重機掘削作業風景（南西より）――18
写真47　Ⅰ区掘削状況（南西より）――18
写真48　Ⅱ区重機掘削作業風景（南西より）――18
写真49　Ⅱ区掘削状況（東より）――18
写真50　Ⅲ区重機掘削作業風景（西より）――18
写真51　Ⅲ区掘削状況（西より）――18
写真52　熊本市試掘坑の土層断面（調査区北西角）（南より）――19
写真53　調査区中央試掘状況（北より）――19
写真54　マメツゲ抜取り部分掘削状況（西より）――19
写真55　マメツゲ植穴部分掘削状況（西より）――20
写真56　ナナメノキ抜取り部分重機掘削作業風景（南東より）――20
写真57　ナナメノキ抜取り部分掘削状況（東より）――20
写真58　ナナメノキ植穴掘削状況（南より）――20
写真59　ココスヤシ抜取り部分人力掘削作業風景（南より）――20
写真60　ココスヤシ抜取り部分掘削状況（東より）――20
写真61　ココスヤシ植穴部分掘削状況（南東より）――20
写真62　Ｌ字側溝撤去部分掘削状況（西より）――21
写真63　支柱抜取部分掘削状況（西より）――21
写真64　文法棟前作業風景（北西より）――21
写真65　文法棟前掘削状況（南より）――21
写真66　五高記念館前作業風景（南西より）――22
写真67　工学部資料館前作業風景（西より）――22
写真68　重機掘削作業風景（北東より）――22
写真69　掘削状況（南より）――22
写真70　Ⅰ区㊲縄文時代遺物検出状況（東より）――25
写真71　Ⅰ区㊲西側完掘状況（東より）――25
写真72　Ⅰ区㊳完掘状況（南より）――25
写真73　Ⅰ区㊵古代遺構完掘状況（西より）――25
写真74　Ⅰ区㊶掘削状況（西より）――25
写真75　Ⅰ区㊸掘削状況（北より）――25
写真76　Ⅰ区㊻掘削状況（西より）――25
写真77　Ⅱ区⑪完掘状況（北より）――26
写真78　Ⅱ区⑬完掘状況（南東より）――26
写真79　Ⅱ区⑮完掘状況（北東より）――26
写真80　Ⅱ区⑳完掘状況写真（南東より）――26
写真81　Ⅱ区㉑古代遺構完掘状況（北より）――26
写真82　Ⅱ区㉕完掘状況（北より）――27
写真83　Ⅱ区㉝古代遺構完掘状況（南より）――27
写真84　Ⅱ区㊲－２掘削状況（北より）――27
写真85　Ⅱ区㊶掘削状況（南より）――27
写真86　Ⅲ区①完掘状況（西より）――27
写真87　Ⅲ区⑧完掘状況（北より）――27
写真88　Ⅲ区⑪完掘状況（南より）――28
写真89　Ⅲ区⑫完掘状況（北より）――28
写真90　Ⅲ区⑬古代遺構完掘状況（南より）――28
写真91　Ⅲ区㉓古代遺構完掘状況（南より）――28

写真92　Ⅲ区㉖掘削状況(西より)――28
写真93　Ⅲ区㉗－２掘削状況(南より)――28
写真94　Ⅲ区㉚掘削状況(西より)――28
写真95　Ⅳ区⑪３号住居竈完掘状況(南より)――29
写真96　Ⅳ区⑪完掘状況(西より)――29
写真97　Ⅳ区⑭縄文時代遺物出土状況(東より)――29
写真98　Ⅳ区⑭縄文時代遺物出土状況近景(北より)――29
写真99　Ⅳ区⑭縄文土器出土状況(西より)――29
写真100　Ⅳ区㉒古代遺構完掘状況(東より)――29
写真101　Ⅳ区㉔古代遺構完掘状況(西より)――29
写真102　Ⅳ区㉘掘削状況（東より)――30
写真103　Ⅳ区㉚－１完掘状況（西より)――30
写真104　Ⅳ区㉚－２古代遺構完掘状況（南東より)―30
写真105　Ⅳ区31完掘状況（南より)――30
写真106　Ⅴ区⑪古代遺構完掘状況（東より)――31
写真107　Ⅴ区⑪東側先行トレンチ縄文土器出土状況(西より)――31
写真108　Ⅴ区⑪ST01人骨検出状況(南より)――31
写真109　Ⅴ区⑪ST02人骨検出状況(南より)――31
写真110　Ⅴ区⑪拡張区調査終了時状況（北西より)―31
写真111　Ⅴ区⑫完掘状況（南より)――31
写真112　Ⅴ区⑭古代遺構完掘状況（北から)――31
写真113　Ⅴ区⑱完掘状況（北東より)――31
写真114　Ⅴ区㉕掘削状況（北より)――32
写真115　Ⅴ区㉖古代遺構完掘状況（北より)――32
写真116　Ⅴ区㉙－２掘削状況（東より)――32
写真117　Ⅴ区㉝掘削状況（東より)――32
写真118　Ⅵ区排水設置箇所掘削状況（南より)――32
写真119　試掘坑①人力掘削作業風景（北より)――33
写真120　試掘①掘削状況（西より)――33
写真121　試掘②掘削状況（西より)――33
写真122　試掘③掘削状況（北より)――33
写真123　試掘④人力掘削作業風景（東より)――33
写真124　試掘④掘削状況（南より)――33
写真125　試掘⑤掘削状況（南より)――34
写真126　検水槽部分重機掘削作業風景（東より)――34
写真127　近代土坑墓検出状況（南より)――34
写真128　検水槽部分南壁土層断面（北より)――34
写真129　屋外排水管部分掘削状況１（西より)――35
写真130　屋外給水管部分掘削状況２（西より)――35
写真131　屋外桝部分掘削状況（南より)――35
写真132　アスファルト舗装部分掘削状況（北より)―35
写真133　南区重機掘削作業風景（東より)――35
写真134　南区埋設配管配線部分掘削状況（南より)―36
写真135　南区ハンドホール部分掘削状況（西より)―36
写真136　北区ハンドホール部分１掘削状況（西より)――36
写真137　北区ハンドホール部分２掘削状況（西より)――36
写真138　Ⅰ区①掘削状況（北西より)――37
写真139　Ⅰ区②重機掘削作業風景（南より)――37
写真140　Ⅰ区②樹木重機掘削作業風景（東より)――38
写真141　Ⅱ区①掘削状況（北より)――38
写真142　Ⅱ区①南壁赤煉瓦積み基礎検出状況（北より)――38
写真143　Ⅱ区②浄化槽撤去作業風景（南東より)――38
写真144　Ⅱ区③撹乱掘削後褐色粘質土検出状況(南より)――38
写真145　Ⅱ区③掘削状況（南より)――38
写真146　Ⅱ区④掘削状況（南より)――38
写真147　Ⅱ区⑤掘削状況（南より)――38
写真148　Ⅱ区⑥掘削状況（南より)――39
写真149　Ⅱ区⑦重機掘削作業風景（南西より)――39
写真150　Ⅱ区⑦遺構検出状況（東より)――39
写真151　Ⅳ区①南側建物基礎検出状況（東より)――39
写真152　Ⅳ区②掘削作業風景（南より)――39
写真153　Ⅰ区②表土掘削状況（北より)――39
写真154　A区近景（南西より)――40
写真155　A区掘削状況（南より)――40
写真156　B区近景（南西より)――40
写真157　B区掘削状況（南西より)――40
写真158　C区近景（南東より)――41
写真159　C区掘削状況（北より)――41
写真160　A区近景（南より)――41
写真161　A区掘削状況（南より)――42
写真162　Ⅱ区⑨重機掘削作業風景（東より)――42
写真163　Ⅱ区⑨土師器出土状況（北より)――42
写真164　広場中央車止め作業風景（東より)――43
写真165　広場中央車止め掘削状況（東より)――43
写真166　立体駐車場南西隅車止め作業風景（南より)――43
写真167　立体駐車場南西隅車止め掘削状況（南より)――43
写真168　医学部総合研究棟南擁壁試掘状況（東より)――43
写真169　ⅩⅣ・ⅩⅤ区完掘状況(西より)――45
写真170　XXX区作業風景(北より)――45
写真171　XXX区三の井手石垣検出作業風景（西より)――45

写真172　サクラ周囲掘削状況（西より）――46
写真173　ケヤキ周囲作業風景（東より）――46
写真174　ケヤキ周辺完掘状況（北より）――46
写真175　広場中央掘削状況（東より）――46
写真176　基礎医学研究棟西側掘削状況（北より）――46
写真177　基礎医学研究棟西側作業風景（北より）――46
写真178　桝①作業風景（東より）――47
写真179　桝①掘削状況（東より）――47
写真180　桝②掘削状況（西より）――47
写真181　作業風景（北西より ――47
写真182　掘削状況（北西より）――48
写真183　作業風景（南西より）――48
写真184　Ｍ１溝掘削状況（南西より）――48
写真185　作業風景（北東より）――49
写真186　樹痕周囲掘削状況（北東より）――49
写真187　樹痕撤去状況（西より）――49
写真188　シートパイル部掘削状況（南より）――49
写真189　地中梁西側確認状況（西より）――50
写真190　調査区近景（南西より）――50
写真191　南側部分掘削終了状況（東より）――50
写真192　北側部分西部遺構全景（西より）――51
写真193　北側部分西部竪穴住居・溝状遺構（南より）―51
写真194　北側部分検水槽以東撹乱（東より）――51
写真195　北側部分検水槽以東建物基礎（東より）――51
写真196　北東部近景（東より）――52
写真197　東病棟東壁東13m付近遺構全景（西より）
――52
写真198　東病棟東壁東44m撹乱掘削状況（東より）―52
写真199　東病棟東壁東47m付近遺構全景（南より）―52
写真200　調査区近景（東より）――53
写真201　歩行訓練施設撤去部分掘削状況（南より）―53
写真202　花壇部分掘削状況（南より）――53
写真203　障害物撤去部分庭石掘削状況（西より）――53
写真204　渡り廊下中央部南半掘削状況（北より）――53
写真205　調査区近景（西より）――54
写真206　掘削状況（南より）――54
写真207　調査区近景（西より）――55
写真208　1425調査地点重複部分掘削状況（東より）―55
写真209　水道管掘削状況（南より）――55
写真210　調査区近景（北西より）――55
写真211　ライトコート西端掘削状況（南西より）――55
写真212　汚水ピット掘削状況（北より）――56
写真213　中央試掘地点作業風景（北より）――57
写真214　中央試掘地点掘削状況（南より）――57
写真215　西側集水桝部分重機掘削作業風景（北東より）
――57
写真216　西側集水桝部分掘削状況（南西より）――57
写真217　南側集水桝部分重機掘削作業風景（北西より）
――59
写真218　南側集水桝部分掘削状況（南西より）――59
写真219　植樹部分重機掘削風景（東より）――59
写真220　植樹部分掘削状況（北西より）――59
写真221　作業風景（北より）――60
写真222　掘削状況（北より）――60
写真223　作業風景（東より）――60
写真224　調査範囲東側掘削状況（東より）――60
写真225　調査範囲西側掘削状況（南東より）――61
写真226　作業風景（南東より）――61
写真227　掘削状況（南西より）――61
写真228　楷樹開館西側掘削状況（南より）――61
写真229　Ａ棟東側作業風景(北より）――62
写真230　⑦Ａ棟東側掘削状況(北より）――62
写真231　体育館東側作業風景（南より）――62
写真232　体育館東側作業風景（東より）――62
写真233　スロープ部作業風景（西より）――63
写真234　スロープ部試掘状況（西より）――63
写真235　フェンス基礎撤去掘削状況（東より）――63
写真236　④体育館西1作業風景（北西より）――63
写真237　④体育館西1掘削状況（北より）――64
写真238　⑤体育館西2掘削状況（西より）――64
写真239　⑧体育館南西部試掘作業風景（東より）――64
写真240　⑧体育館南西部掘削状況（南より）――64
写真241　汚水桝掘削作業風景（西より）――65
写真242　汚水桝遺構面検出状況（南より）――65
写真243　汚水管路掘削状況（西より）――65
写真244　作業風景（北東より）――65
写真245　掘削状況（南より）――66
写真246　北門前作業風景（南東より）――66
写真247　北門前掘削状況（南より）――66
写真248　東門前作業風景（南東より）――66
写真249　東門前掘削状況（東より）――66
写真250　作業風景（南より）――67
写真251　掘削状況（東より）――67
写真252　作業風景（西より）――67
写真253　掘削状況（西より）――67
写真254　給水止掘削状況（北東より）――68
写真255　給水管周辺掘削状況（南より）――69
写真256　排水管①作業風景（南西より）――69
写真257　排水管①掘削状況（西より）――69
写真258　南東隅基礎撤去作業風景（西より）――69

写真259　南東隅基礎掘削状況（西より）――69
写真260　基礎撤去作業風景（北より）――70
写真261　樹木①撤去作業風景（北西より）――70
写真262　樹木①撤去状況（西より）――70
写真263　調査区近景（北西より）――70
写真264　栅３遺構確認状況（南より）――70
写真265　栅12住居遺物出土状況（北より）――71
写真266　栅15住居遺物出土状況（東より）――71
写真267　栅４柱穴遺物出土状況（南西より）――71
写真268　栅３北壁断面（南より）――71
写真269　調査区北側基礎梁部遺構分布状況（西より）
――72
写真270　栅９・10溝状遺構完掘状況（南より）――72
写真271　スロープ基礎掘削部住居床面（北より）――72
写真272　プラットフォーム部硬化面検出状況（南より）
――72
写真273　プラットフォーム部調査終了状況（南西より）
――72
写真274　中央部遺構確認状況（北より）――73
写真275　アスファルト舗装部掘削状況（北より）――73
写真276　北側基礎掘削部掘削作業状況（西より）――73
写真277　北東部基礎掘削終了（東より）――73
写真278　調査区近景（北東より）――74
写真279　看板北側基礎掘削状況（東より）――74
写真280　花壇掘削状況（東より）――74
写真281　①・②地点調査区近景（南西より）――74
写真282　②地点掘削状況（南より）――74
写真283　③地点調査区近景（南西より）――75
写真284　③地点ピット検出状況（西より）――75
写真285　新築校舎東側近景（北より）――75
写真286　新築校舎東側掘削状況（北西より）――75
写真287　新築校舎西側遺物出土状況（北より）――76
写真288　新築校舎西側マンホール部掘削状況（東より）
――76
写真289　調理室外周西部近景（南より）――76
写真290　調理室外周西部掘削状況（南より）――76
写真291　調理室外周北部掘削状況（西より）――77
写真292　調理室外周北部遺構全景（北西より）――77
写真293　調理室外周東部掘削状況（北より）――77
写真294　キンモクセイ抜根部分重機掘削作業風景
（北より）――78
写真295　キンモクセイ抜根部分掘削状況（北西より）
――78
写真296　塗装中央部掘削状況（東より）――78
写真297　塗装南東部掘削状況（東より）――78
写真298　試掘①作業風景（南より）――79
写真299　試掘①掘削状況（東より）――79
写真300　地下と地上の文化財散歩――89
写真301　黒髪南地区1310調査地点の現地説明会――89
写真302　五高記念館でのテーマ展示展示ガイドツアー――89
写真303　本荘北地区1321調査地点の現地説明会――89
写真304　センターでの速報展示展示解説――89
写真305　授業への協力（黒髪南地区1310調査地点）
――89

＜表目次＞

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧――１
表２　2014年度調査一覧――３

第Ⅰ章　本年度の調査概要

本年度は，表２のとおり，発掘調査７件，立会調査51件を実施した．発掘調査はいずれも立会調査から切り替えたもので，このうち４件は前年度からの継続である．

本年度実施した発掘調査は，黒髪南地区におけるライフライン再生（給水設備等）工事に伴う発掘調査（1310調査地点），本荘北地区における環境整備（東駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）に伴う発掘調査（1321調査地点），環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）に伴う発掘調査（1322調査地点），基幹整備（電気設備）工事に伴う発掘調査（1325調査地点），66kV 銀座橋熊大医学部線鉛被 OF ケーブル改修工事に伴う発掘調査（1423調査地点），臨床研究棟新営その他工事（本体工事）に伴う発掘調査（1426調査地点），京町地区における教育学部附属小学校校舎新営その他工事に伴う発掘調査（1417調査地点）である．

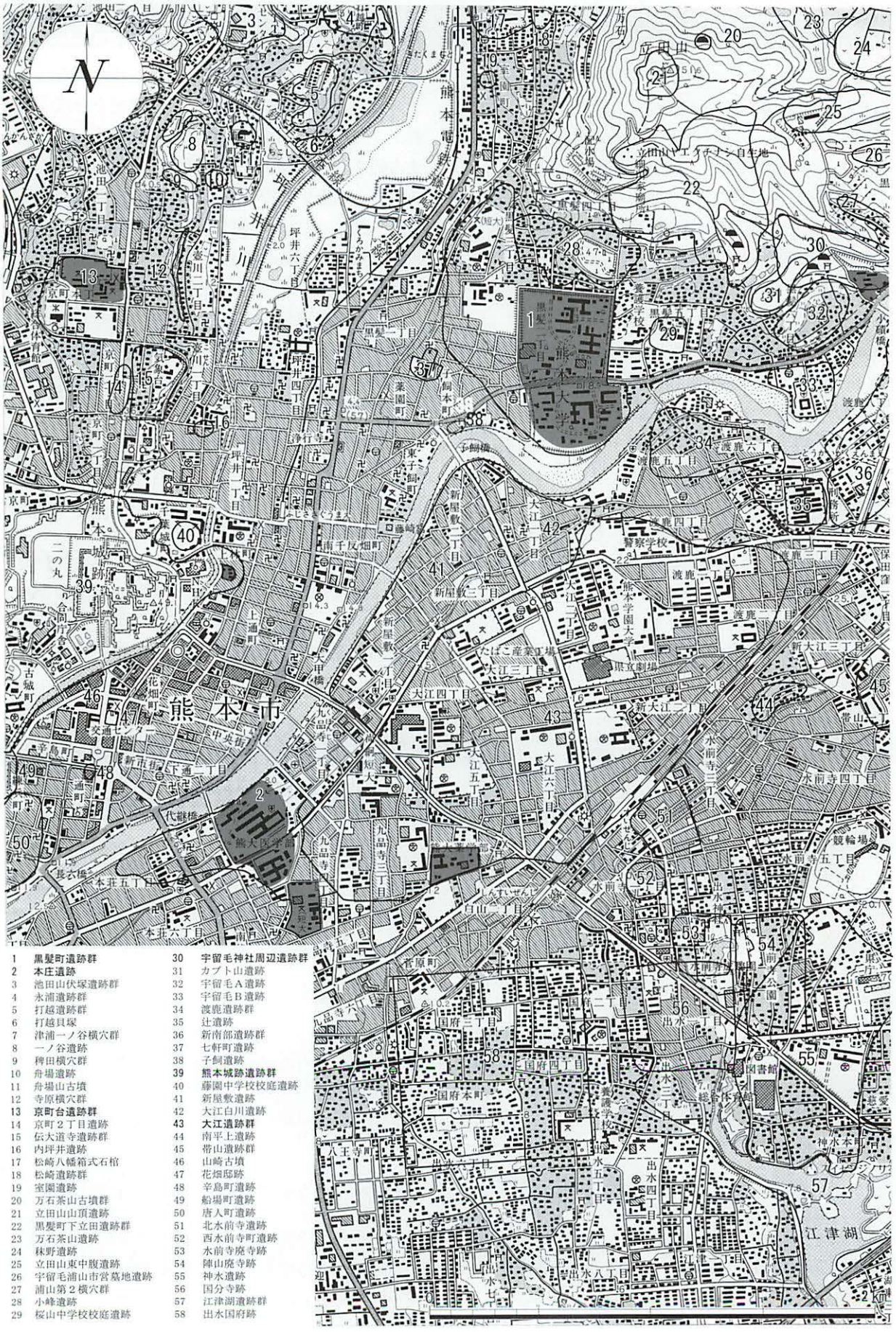
本年度は，昨年度から引き続き1310・1321・1322・1325などの規模が大きな発掘調査が多く，また立会調査も数日を要する規模のものが多かった．

昨年度から継続して実施した黒髪南地区の理学部棟周辺におけるライフライン再生（給水設備等）工事（1310調査地点）では，重要な調査成果が得られた．従前の調査で地山と想定してきた古代の遺構面を形成する褐色砂質土よりもさらに下位から，御手洗Ａ式や出水式を主とする縄文時代後期の土器が大量に出土したのである．加えて，白川沿いに厚く堆積する灰色硬質砂層を掘り下げると，地表下2.2mで縄文時代後期前半の土坑墓や配石墓とこれに伴う人骨を検出した．これまで構内遺跡では，縄文時代後期土器の出土がみられたものの，数量的に乏しく，明白な遺構も検出されていなかったため，遺跡の内容が判然としなかった．本調査地点における墓や土器集中部の発見は，大学構内遺跡における縄文時代後期の集落構成を復元する上での大きな指標となった．人骨の調査においては，土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸名誉館長，NPO 法人人類学研究機構の松下真実氏の協力を得ることができ，形質人類学の重要な所見をいくつもご教示頂いた．配石墓については三次元計測による記録保存をおこなった上で，工事の設計変更を依頼し，現地保存することができた．重要な調査成果が得られた一方，複数の調査区で近世・古代・縄文時代の文化層の調査を実施する必要が生じ，発掘調査には大変な

表１　熊本大学敷地埋蔵文化財包蔵地指定一覧（アミ部分は本年度調査した地区を示す）

No.	地区名（学部名）	所在地	遺跡名称	遺跡の種類	遺跡の時代	備考
1	黒髪北地区（法・文・教・大教センター） 黒髪東地区（教育学部附属特別支援学校）	熊本市中央区黒髪２丁目40-1 熊本市中央区黒髪５丁目17-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
2	黒髪南地区（工・理）	熊本市中央区黒髪２丁目39-1	黒髪町遺跡群	集落址	縄文・弥生・奈良・平安	
3	京町地区（教育学部附属小・中学校）	熊本市中央区京町本丁5-12	京町台遺跡群	集落址	弥生・近世	
4	城東地区（教育学部附属幼稚園）	熊本市中央区城東町5-9	熊本城址	城館址・熊本城関連遺構	近世	
5	教育学部新南部農場	熊本市東区新南部６丁目5-8	新南部遺跡	散布地	縄文・弥生	
6	沿岸域環境科学教育研究センター	上天草市松島町大字合津6061	前島貝塚	集落址	縄文・弥生	1995年度の調査によって貝塚でないことが判明
7	本荘中地区（発生医学研究所，エイズ学研究センター等）	熊本市中央区本荘２丁目2-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	
8	本荘北地区（医学部附属病院・医学部等）	熊本市中央区本荘１丁目1-1	本庄遺跡（熊大病院敷地遺跡）	散布地・集落址・墓地	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・近代	
9	本荘南地区（保健学科等）	熊本市中央区九品寺４丁目24-1	本庄遺跡	散布地・集落址	縄文・弥生・奈良・平安・中世	周辺遺跡
10	大江地区（薬学部等）	熊本市中央区大江本町5-1	大江遺跡群	官衙址	奈良・平安	周辺遺跡
11	渡鹿地区（課外活動施設）	熊本市中央区渡鹿４丁目1-1	大江遺跡群	集落址	奈良・平安	
12	宇留毛地区（学生寄宿舎・職員宿舎等）	熊本市中央区黒髪７丁目	宇留毛神社周辺遺跡群	散布地	弥生・奈良・平安	

図１　黒髪町遺跡群・本庄遺跡の位置と周辺遺跡の分布図（1/25000）



1	**黒髪町遺跡群**	30	**宇留毛神社周辺遺跡群**
2	**本庄遺跡**	31	カブト山遺跡
3	池田山伏塚遺跡群	32	宇留毛Ａ遺跡
4	永浦遺跡群	33	宇留毛Ｂ遺跡
5	打越遺跡群	34	渡鹿遺跡群
6	打越貝塚	35	辻遺跡
7	津浦一ノ谷横穴群	36	新南部遺跡群
8	一ノ谷遺跡	37	七軒町遺跡
9	稗田横穴群	38	子飼遺跡
10	舟場遺跡	39	**熊本城跡遺跡群**
11	舟場山古墳	40	藤園中学校校庭遺跡
12	寺原横穴群	41	新屋敷遺跡
13	**京町台遺跡群**	42	大江白川遺跡
14	京町２丁目遺跡	43	**大江遺跡群**
15	伝大道寺遺跡群	44	南平上遺跡
16	内坪井遺跡	45	帯山遺跡群
17	松崎八幡箱式石棺	46	山崎古墳
18	松崎遺跡群	47	花畑邸跡
19	室園遺跡	48	辛島町遺跡
20	万石茶山古墳群	49	船場町遺跡
21	立田山山頂遺跡	50	唐人町遺跡
22	黒髪町下立田遺跡群	51	北水前寺遺跡
23	万石茶山遺跡	52	西水前寺町遺跡
24	林野遺跡	53	水前寺廃寺跡
25	立田山東中腹遺跡	54	陣山廃寺跡
26	宇留毛浦山市営墓地遺跡	55	神水遺跡
27	浦山第２横穴群	56	国分寺跡
28	小峰遺跡	57	江津湖遺跡群
29	桜山中学校校庭遺跡	58	出水国府跡

表2　2014年度調査一覧

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
14・4・1～15・3・20	1310	（黒髪南）ライフライン再生（給水設備等）工事	立会調査／発掘調査	5275.60㎡	縄文・古代・近世	住居・溝・ピット・土坑墓・配石墓、土師器・須恵器・鉄器・石製品・縄文土器・石器・人骨
14・12・3，15・2・23	1320	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（舗装・構築物関係）	立会調査	3,403.40㎡	古代	土師器・須恵器
14・4・25～12・9	1321	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）	立会調査／発掘調査	1551.50㎡	古代・近世	住居・柱穴・石垣、土師器・須恵器
14・11・27～12・2	1322	（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）	立会調査／発掘調査	230.60㎡	古代	溝・ピット、土師器・須恵器
14・6・3～11・13	1325	（医病）基幹整備（電気設備）工事	立会調査／発掘調査	487.70㎡	古代	住居・溝・ピット、土師器・須恵器
14・4・3	1401	（黒髪北）附属図書館中央館雨水排水ポンプ増設工事	立会調査	4.41㎡	なし	なし
14・4・11	1402	（大江北）体育館改修その他工事	立会調査	60.80㎡	なし	なし
14・4・14～16	1403	（大江北）体育館改修その他工事（機械設備工事）	立会調査	414.00㎡	古代	土師器
14・4・14	1404	（大江北）体育館改修電気設備工事	立会調査	44.29㎡	なし	なし
14・4・17	1405	（京町）教育学部附属中学校卒業記念樹再植樹	立会調査	4.00㎡	なし	なし
14・5・18，5・19	1406	（本荘中）国際先端医学研究拠点新営その他工事（外構工事）	立会調査	1672.70㎡	なし	なし
14・5・30	1407	（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわしに伴う支障配管撤去工事	立会調査	3.50㎡	なし	なし
14・6・9	1408	（黒髪南）本部（旧事務局本館）基礎調査	立会調査	21.00㎡	近代	赤煉瓦積み基礎
14・6・24	1409	附属幼稚園プール遮光ネット取付	立会調査	1.80㎡	なし	なし
14・6・20	1410	（黒髪北）附属図書館中央館看板補修工事	立会調査	0.50㎡	なし	なし
14・6・19,26	1411	（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事（機械設備）	立会調査	16.00㎡	なし	なし
14・6・19,26	1412	（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事	立会調査	396.70㎡	なし	土師器
14・7・8,14	1413	（医病）中央診療棟東側環境整備工事	立会調査	225.40㎡	なし	なし
14・7・8,14	1414	（医病）中央診療棟東側環境整備（機械設備）工事	立会調査	21.60㎡	なし	なし
14・7・25	1415	（黒髪北）体育館改修電気設備工事（仮設電源）	立会調査	2.00㎡	なし	なし
14・9・4～継続中	1416	（黒髪北）武道場等改修機械設備工事	立会調査	1,087.30㎡	古代・近世	ピット、須恵器・土師器・陶磁器・鉄器
14・9・11～継続中	1417	（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）	立会調査／発掘調査	747.90㎡	弥生・古代・近世・近代	住居・溝・ピット・建物基礎、弥生土器・土師器・陶磁器

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
14・9・16～11・20	1418	（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営機械設備工事	立会調査	532.00㎡	近現代	土坑墓・墓石、骨壺・陶磁器
14・10・10,14	1419	（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営電気設備工事	立会調査	49.388㎡	なし	なし
14・10・14	1420	（本荘南）体育館改修機械設備工事	立会調査	26.00㎡	なし	なし
14・10・14,15	1421	（本荘南）体育館改修工事	立会調査	320.02㎡	なし	なし
14・10・14	1422	（本荘南）体育館改修電気設備工事	立会調査	6.48㎡	なし	なし
14・10・16～継続中	1423	66ｋＶ銀座橋熊大医学部線鉛被OFケーブル改修工事	立会調査／発掘調査	148.26㎡	古代	溝、土師器・須恵器
14・10・29～11・26	1424	（医病）枯木徐根伐採業務	立会調査	21.16㎡	なし	なし
14・11・21～継続中	1425	（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（地下躯体撤去・擁壁設置）	立会調査	1,655.00㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ピット・建物基礎、土師器・須恵器
14・11・17,12・24～継続中	1426	（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（本体工事）	立会調査／発掘調査	2,141.00㎡	古代・近世・近代	住居・溝・ピット・建物基礎、土師器・須恵器
14・11・18	1427	（黒髪北）体育館改修工事	立会調査	811.00㎡	なし	なし
14・11・19	1428	（京町他）教育学部附属教育実践総合センター等外部改修工事	立会調査	7.00㎡	なし	なし
14・12・12～継続中	1429	（黒髪南）本部樹木等撤去その他工事	立会調査	282.40㎡	古代・近世・近代	住居 or 溝・ピット・赤煉瓦積み基礎、土師器・須恵器・陶磁器
14・12・12～継続中	1430	（黒髪南）本部屋外スロープ取設工事	立会調査	195.77㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦積み基礎、土師器・須恵器・陶磁器
14・12・15・16	1431	（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他電気設備工事	立会調査	12.50㎡	なし	なし
14・12・18～継続中	1432	（医病）管理棟改修その他工事（撤去）	立会調査	279.70㎡	なし	なし
14・12・19	1433	（医病）案内板設置業務	立会調査	2.00㎡	なし	なし
14・12・22	1434	（黒髪南）黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事	立会調査	77.90㎡	近代	建物基礎、土器
14・12・22,15・1・16	1435	（黒髪南）黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事（電気設備）	立会調査	46.00㎡	なし	なし
15・1・7～継続中	1436	（黒髪南）本部エレベーター棟増築工事	立会調査	60.30㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦積み基礎、土師器・須恵器・陶磁器
15・1・14～継続中	1437	（黒髪南）本部改修その他機械設備工事	立会調査	102.0㎡	古代・近世・近代	赤煉瓦積み基礎、土師器・須恵器・陶磁器
15・2・9	1438	（黒髪北）総合研究棟（教育学系）改修その他工事	立会調査	159.10㎡	なし	なし
15・2・9～2・27	1439	（黒髪北）総合研究棟（教育学系）改修機械設備工事	立会調査	73.00㎡	なし	なし
15・2・10,13 3・4	1440	（黒髪北）体育館改修電気設備工事	立会調査	85.80㎡	なし	なし

調査期日	調査番号	地点名	調査の種類	調査面積	時代	遺構・遺物
15・2・12	1441	（本荘北）臨床研究棟新営機械設備工事	立会調査	40.00㎡	なし	なし
15・2・25～継続中	1442	（医病）管理棟改修その他工事	立会調査	563.40㎡	なし	なし
15・2・26～継続中	1443	（京町）教育学部附属小学校新営その他機械設備工事（その２）	立会調査	241.80㎡	弥生	溝・ピット、弥生土器
15・2・27	1444	（黒髪北）法学部サークル棟新営その他工事	立会調査	64.80㎡	なし	なし
15・3・2～3・6	1445	（黒髪北）環境整備（駐車場等）に伴う樹木等移植業務	立会調査	86.00㎡	なし	なし
15・3・18～3・23	1446	（黒髪北）環境整備（駐輪場等）工事	立会調査	194.00㎡	なし	なし
15・3・3	1447	（黒髪他）屋外サイン設置工事 （大江）	立会調査	32.60㎡	なし	土師器
15・3・4	1448	（黒髪他）屋外サイン設置工事 （黒髪）	立会調査	57.80㎡	なし	なし
14・12・24	1449	（黒髪北）全学教育棟屋外ガス漏洩補修工事	立会調査	3.00㎡	なし	なし
15・3・16	1450	（渡鹿２）渡鹿宿舎駐車場増設工事	立会調査	213.60㎡	なし	なし
14・5・2	1451	（本荘南）ポンプ室設置及び給水設備取替工事	立会調査	180.00㎡	なし	なし

※調査番号1310・1320・1321・1322・1325は2013年度からの継続。
※調査期日の「継続中」は、2015年度まで継続している件。

時間と労力を要した．

昨年度から継続して実施した本荘北地区における環境整備および基幹整備に伴う発掘調査（1321・1322・1325調査地点）では，従前の調査と同様に，竪穴住居や溝などの古代の集落跡を確認した．注目すべき出土遺物として「杦本寺」や「寺」などが刻まれた刻書土器がある．北東側に隣接する基礎医学研究棟（9601調査地点）における発掘調査でも，同様の刻書土器を得ており，当該地区における古代豪族の氏寺などの公的施設，僧侶などの識字層の存在をうかがわせる．

また，1321調査地点では，現在流れる「三の井手」の右岸側の調査区において，江戸時代後期の「三の井手」の石垣を発見した．現在流れている井手とは別に江戸時代に作られた井手が存在することが明らかとなったのである．白川の井手は，加藤清正による灌漑・治水事業によるもので，江戸時代初期に作られたとされる．古地図や文献などでその存在が明らかだが，今回の発見により，これら資料と実際の遺構との比較検証を行えることが重要である．石垣は地表下約３ｍから検出されており，工事に支障がないことから現地保存することができた．今後は掘削深度の深い工事では，状況に応じて遺構の確認を行う必要がある．

本荘北地区の66kV 銀座橋熊大医学部線鉛被 OF ケーブル改修工事（1423調査地点）では，南北軸の古代の溝を確認した．本荘北地区の北東隅にあたるこの調査地点では，従前の調査が少ないため，遺構の有無が判然としなかったが，今回の調査により古代の遺構の広がりを認識する契機となった．

京町地区の教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）（1417調査地点）では，給食センター跡地から，弥生時代の竪穴住居を検出した．給食センターの西に位置する附属中学校南校舎南側（0719調査地点）でも弥生時代の竪穴住居が確認されており，遺物による時期的精査が必要なものの，京町地区に弥生時代の集落が広がっていた可能性が高くなった．

このほか，黒髪南地区の本部改修に係る工事（1429・1430・1436・1437調査地点）では，近代の赤煉瓦積み基礎を検出した．1908年に竣工した熊本高等工業学校の本館の基礎で，大学史上重要な建物に関連する遺構である．2015年度まで調査を継続中のため，調査成果は来年度の年報に譲りたい．

本年度は，とくに黒髪南地区と本荘北地区において重要な調査成果を得た．その成果は，いずれも工事による施工深度の深い調査区において，調査員が細心の注意を

払ったことにより発見された．黒髪南地区および本荘北地区は，白川に隣接して立地していることから，場所によっては，河川作用による厚い堆積層が認められる．その堆積状況は複雑多様であり，今回得た成果を整理しながら，調査員間で層位に対する共通認識を持ち，今後の調査に臨む必要がある．

また，1310調査地点と1321調査地点では，現地説明会を開催したことで，多くの方々に大学の埋蔵文化財に対する理解を得ていただくことができた．今後もこうした広報活動を行い，大学内外へ少しでも還元していきたい．

第Ⅱ章　調査の記録

Ⅱ－1　黒髪北地区　（図2・3参照）

1．（黒髪北）附属図書館中央館雨水排水ポンプ増設工事に伴う立会調査（1401）

＜調査期間＞

2014年4月3日

＜調査面積＞

4.41㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

附属図書館中央館の南東部に，排水管を2本増設する工事である．南北に平行して幅0.7m，長さ2.7mと3.6mの管路を掘削した．深さは0.3～0.5mで現代埋土内であり，遺構・遺物の検出はなかった．

写真1　作業風景（北より）

写真2　北側管路掘削状況（西より）

写真3　南側管路掘削状況（西より）

2．（黒髪北）附属図書館中央館看板補修工事に伴う立会調査（1410）

＜調査期間＞

2014年6月20日

＜調査面積＞

0.5㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

附属図書館南東側の看板の基礎設置に係る工事立会である．0.4×0.4mの調査区を0.75m間隔で東西2箇所に設け，地表下0.45mまで掘削を実施した．過去の看板の基礎杭が残存し，この杭の設置の際に周囲が撹乱されていたため，この撹乱土のみを掘り下げた．全て現代埋土で文化層への影響はない．また，調査区掘方壁面では地表下約0.2mで古代の遺構面を形成すると思われる暗褐色土が確認されている．遺構・遺物の検出はなかった．

写真4　掘削作業風景（東より）

図２　黒髪北地区西半における調査地点配置図（1/2000）

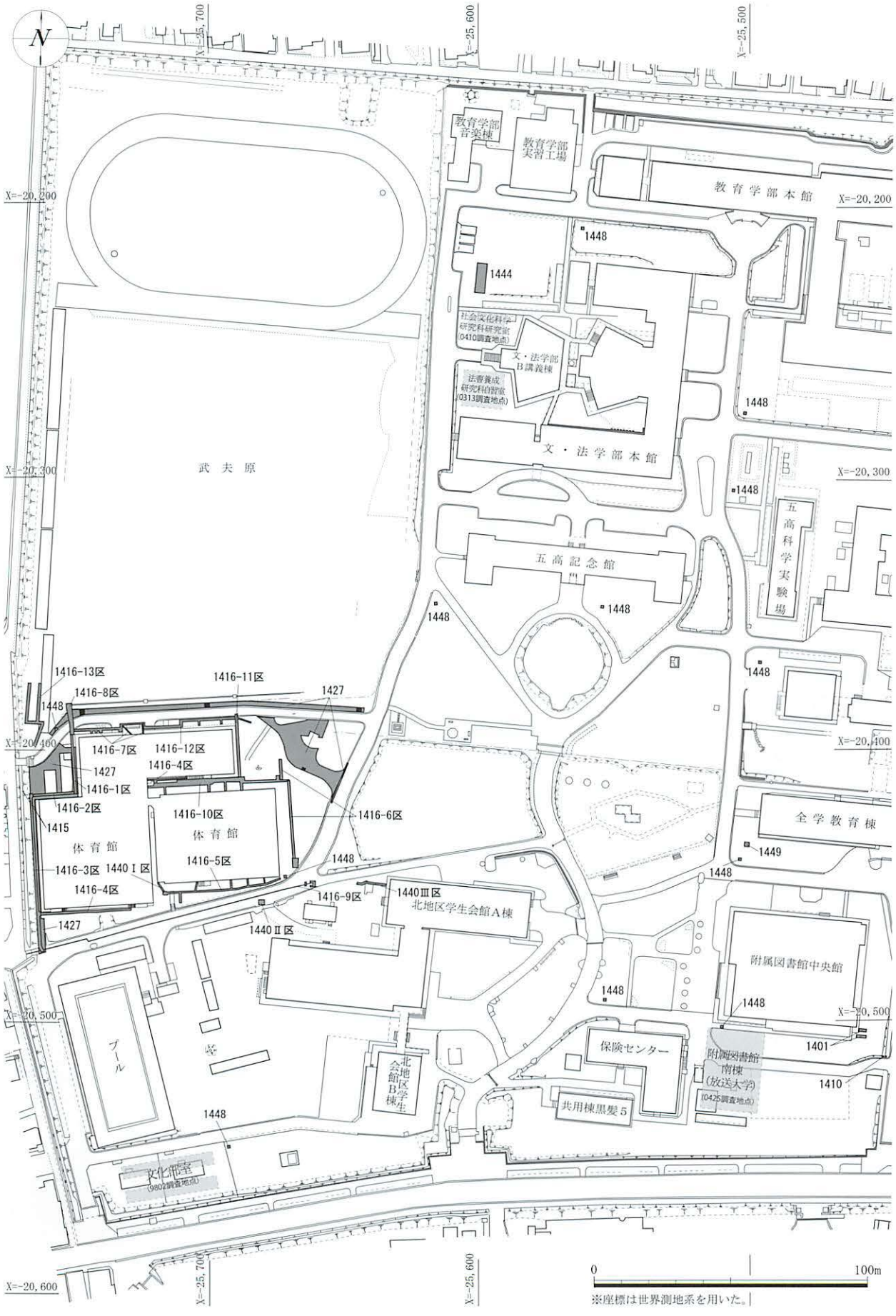


図３　黒髪北地区東半における調査地点配置図（1/2000）

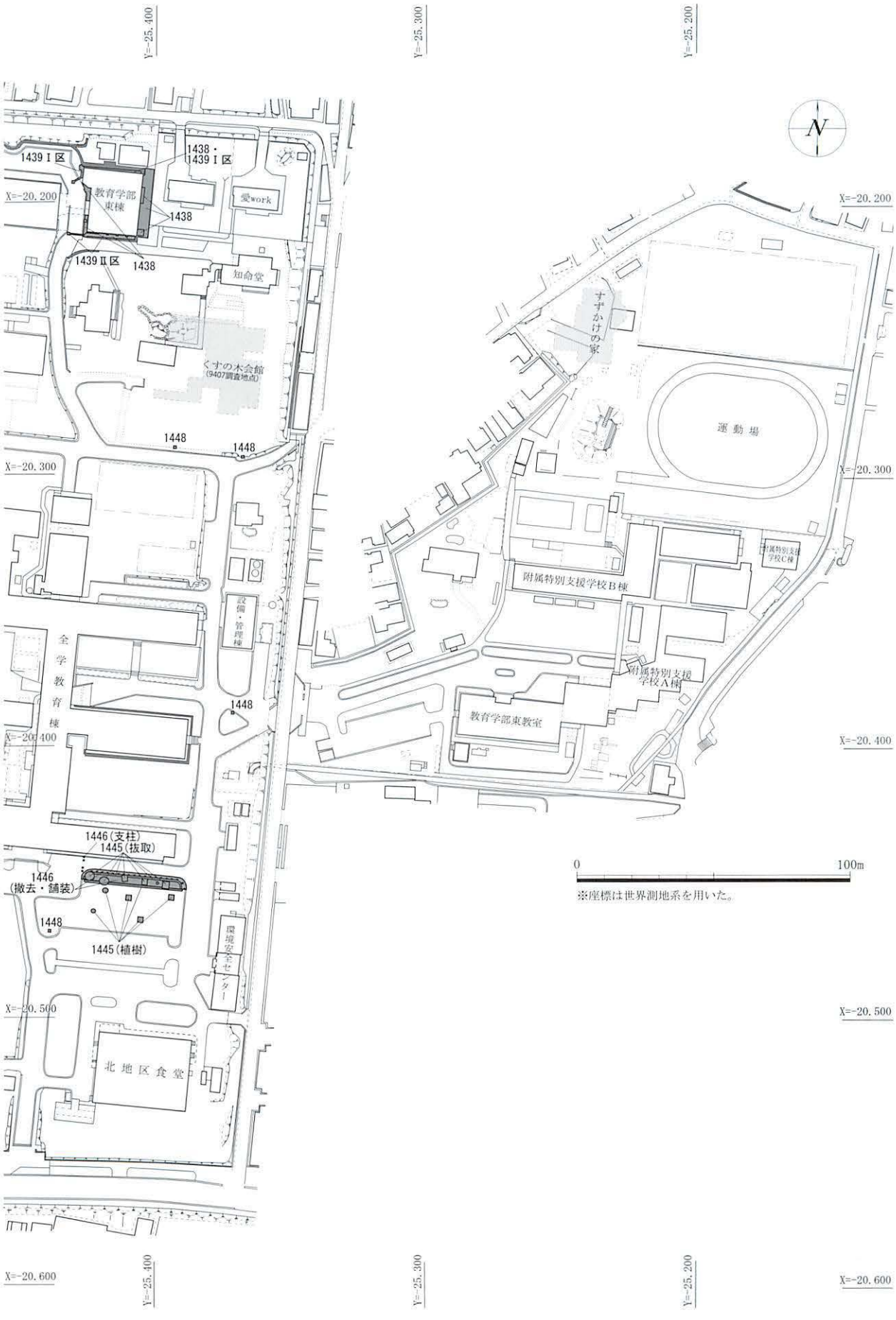
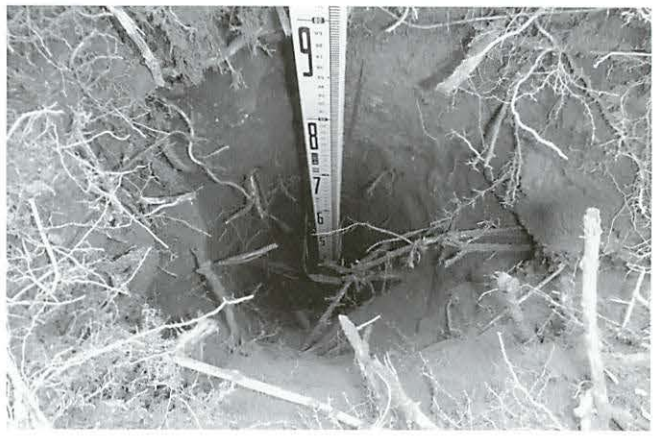


写真５　掘削状況（南より）

写真７　掘削状況（東より）



３．（黒髪北）体育館改修電気設備工事（仮設電源）に伴う立会調査（1415）

＜調査期間＞

2014年７月25日

＜調査面積＞

2.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

黒髪北地区の体育館西側の仮設電柱設置工事に係る立会をおこなった.

大学の外壁の裏込めである造成土斜面に，直径0.25～0.4mの調査区をポール用とアンカー用に１箇所ずつ設けた．ポール用は深さ1.0m，アンカー用は深さ0.5mで，いずれも直径30㎝程の掘削範囲のため，土層の確認はできなかった．ただし，従前の調査や，造成土上の掘削であること，排土中からガラスや磁器片が出土するのみであることなどから，掘削埋土は全て現代埋土中におさまると考えられる．文化層への影響はなく，遺構・遺物の検出はなかった.

写真６　掘削作業風景（北東より）

４．（黒髪北）武道場等改修機械設備工事に伴う立会調査（1416）

＜調査期間＞

2014年９月４日～継続中

＜調査面積＞

1087.3㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・松田光太郎・大坪志子・阿比留士朗（株式会社イビソク)･宮崎拓（株式会社有明測量開発社).

＜調査概要・結果＞

武道場周辺の給水・排水・ガス管，桝の設置に伴う立会調査である.

調査では，重機と動線の都合上，掘削範囲を区分した上で，重機によって現代埋土の掘削をしながら，必要に応じて人力による包含層の掘り下げを実施した後，工事に受け渡す手順を取った.

調査範囲は，体育館壁面あるいは体育館南側の道路に沿うような形で設けられており，これらを１～13区に分けている．このうち１・３・６・８・12・13区では，古代の遺物が出土する包含層まで掘削を行っており，施工深度によっては古代らしき遺構の検出と掘削をおこなっている．以下，各地区の調査成果を述べていく.

武道場の西側，１区の南北ルートでは，撹乱が混在していたが，局所的に地表下0.5～0.8mで包含層を検出，地表下0.8m程度で遺構面に達した．中央付近で住居と考えられる遺構プランを検出したが，撹乱が混在しており全容の把握は困難であった．南端付近で東西方向の溝を検出した．工事は遺構面を削平しないことを確認し，そのまま保存とした.

２区の東西ルートは，全体が近世～近代の耕作土と考えられる．近代の磁器の破片が含まれていた．検出面は遺構面と同じであり，以前の構築物に伴う掘り込みの可

能性が高い．

３区は建物東側の南北56m，東西0.7m の長く幅の狭い調査区である．３区北端部の0.8×1.3m の範囲で古代の遺物包含層を確認した．これ以下の掘削はない．他は近代の土層内であった．３区北側では地表下0.7m 程まで現代埋土が堆積しており，その直下に比較的混じりの少ない暗褐色土が検出された．掘削深度が地表下0.8m であったため，人力で0.1m 程の掘削をおこなったところ，ごく少量の磁器片が出土した．一方，３区南側では，体育館の西南角付近から地形が一段下がっており，土層からも上記暗褐色土が削られて，現代埋土が堆積している状況が確認できた．ただし，この傾斜面では地表下0.5m 程で黒褐色土が局所的に検出されており，施工深度に応じて0.1～0.2m 程掘削したところ，少量の須恵器，土師器片を得ることができた．調査区南端は傾斜面の裾部にあたり，地表下0.6～0.7m でやや粘質のある褐色土が検出された．本層を0.1～0.2m 程，部分的に掘り下げたが遺物は出土しなかったため，地山の可能性が考えられる．遺構として調査区南側から円形のピットが１基検出されたが，掘削の必要がなく，保存した．

12区は建物北側の東西約32m，東西約0.7m の幅狭の調査区である．当初，深い場所で地表下1.2m まで掘削する必要があったが，地表下0.5m 程で土師器片を含む古代の包含層らしき黒褐色土が検出されたため，工事業者に設計変更を依頼した．結果，設計変更が可能となり，浅い場所で地表下0.5m まで，深い場所で0.6m までの掘削を実施することとなった．12区西側では包含層の直上までを重機によって掘削し，調査を終了したが，調査区中央から東端までの東西11m 程は，黒褐色土層を0.1m 程掘削する必要が生じた．後日，人力による掘削をおこなったところ，須恵器や土師器，鉄器などが出土したが，古代の遺構面までは到達することなく，包含層中で掘削を終了した．

この他，体育館の中央エントランスから北東部にかけて設けられた10・11区では，浅い場所で0.5m，深い場所で地表下1.1m まで重機による掘削をおこなった．建物北東の11区では，地表下1.1m で一部に混じりけのない暗褐色土が堆積しており，上面から土師器片が見つ

写真８　１区南北ルート掘削全景（南より）

写真９　１区南北ルート溝検出状況（南より）

写真10　２区東西ルート掘削状況（西より）

写真11　３区掘削状況（北より）

写真12　３区南端傾斜部掘削状況（北より）

写真13　５区掘削状況（西より）

写真14　６区掘削状況（北より）

写真15　７区西側掘削状況（東より）

写真16　７区東側掘削状況（西より）

写真17　９区西端掘削状況（東より）

写真18　９区東端掘削状況（南より）

写真19　10区西側掘削状況（東より）

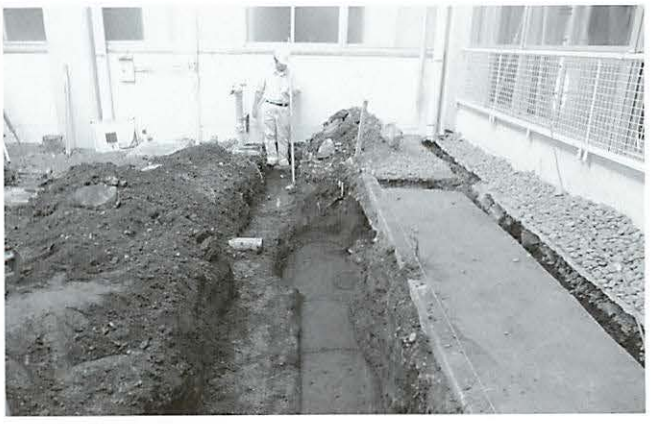


写真20　10区中央掘削状況（西より）

写真21　10区北側掘削状況（西より）

写真22　11区掘削状況（南より）

写真23　12区東側掘削状況（西より）

写真24　12区東側土器出土状況（南より）

写真25　12区東側南壁土層断面（北東より）

写真26　12区東側包含層検出状況（東より）

かっている．しかし，掘削の必要が生じなかったため，写真による記録のみをおこなった．また，玄関から建物北西端の７区では，東西約16m の範囲を掘削した．浅いところでは地表下0.45m 程で混じりの少ない暗褐色土が検出されたが，遺物は陶磁器片のみで，近世・近代の耕作土の可能性が高い．

体育館北西部の８区は幅0.75m，長さ9.7mの範囲を掘削した．地表直下には現代埋土が存在し，地表下0.25mにおいて古代の包含層が存在した．包含層は厚さ約0.3mあり，下半の0.15mは黒味が強い黒褐色を呈していた．

写真27　8区遺物出土状況（南より）

写真28　13区西管路全景（北西より）

写真29　13区南管路掘削状況（南より）

包含層からは土師器が多く出土した．また当該部分の南端から北へ約1.4mの範囲に明るい黒褐色土が存在し，陶磁器が出土した．一方古代の包含層の下には暗～黒褐色粘質土－通称ニガ－が存在し，この土を掘り込んだ径0.3～0.4mのピット２基を確認した．そこで熊本市教育委員会文化振興課に連絡し，立会の中で，記録作成をおこなった．

武夫原南西部の13区は西・東・南の３本の排水管路を掘削した．

西管路は長さ16.5m，幅は北側で1.1m，南側で2.2m，

写真30　４区掘削状況（西より）

深さは北側で地表下1.2m，南側で1.7mであった．掘削したのは大半が現代埋土であり，北側の掘削底面で土師器を包含する古代の包含層を検出した．南側では暗～黒褐色粘質土とそれを掘り込んだ径0.15～0.4mの円形ピット５基を調査した．

東管路は長さ16.5m，幅は北側で1.2m，南側で2.3m，深さは地表下1.1～1.9mであった．掘削したのは全て現代の埋土であった．

南管路は長さ8.7m，幅1.2～1.9mで，地表下1.6m，南端のみ地表下2.1mまで掘削した．掘削したのは全て現代埋土で，南端の西壁断面の地表下1.0～1.9mに暗～黒褐色粘質土の存在を確認した．

またこの南管路掘削中に埋設電線を工事業者が切断した．そこで電線復旧のため，南管路の東西両側において幅0.5m・長さ0.5～0.6m，地表下深度0.5～1.2mの範囲にわたり，トンネル状の掘削をおこなった．掘削したのは全て現代埋土であった．

体育館の南西部の４区では，幅0.7～1.0m，長さ33.3mの掘削に立ち会った．掘削の深さは大半が地表下0.8m，桝部分のみ地表下1.0～1.3mまででであった．掘削したのは既設管の埋土であったが，調査区西側南壁の地表下0.4mおよび，同東側の地表下0.7～1.0mの掘削底面で褐色土の存在を確認した．

体育館南の道路の直下の９区は幅0.7m，長さ約100mの掘削の計画であった．掘削深度が0.5mと浅いため，長さ7～16mの掘削５箇所に立ち会った．掘削したのは全て現代の埋土であった．その他の部分の掘削も遺跡に影響はしないと判断し，９区全体の施工の了承を工事業者に伝え，現地を引き渡した．

６区南端は，幅1.5m，長さ2.2mの長方形部分と，その南側の幅0.7m，長さ1.0mの張出部を掘削した．調査区西際から0.25mまでの範囲は深い撹乱が入っていたが，それ以東では，地表下0.5～0.6mを上面として古代の包

写真31　9区掘削状況（南西より）

写真32　6区南端遺構全景（南より）

含層と考えられる黒褐色土が厚さ0.1m残存していた．その下は暗褐色粘質土が存在し，この土を掘り込んだピット８基が確認された．ピットは調査区の北側に３基，中央部に４基，張出部に１基検出された．

５．（黒髪北）体育館改修工事に伴う立会調査（1427）

＜調査期間＞

2014年11月18日

＜調査面積＞

811㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

体育館および武道場周辺の縁石の設置，インターロッキング，アスファルト舗装などに係る立会である．

掘削範囲は体育館および武道場北半におよぶ広い範囲で，体育館西側は1416調査地点の１～３区の掘削範囲と重複している．掘削深度は最深で地表下0.35m程であったため，既存のアスファルト舗装の剥ぎ取りやＬ字側溝の撤去，表土の掘削に限られた．

調査範囲が広いものの，掘削深度が浅いことから，立

写真33　縁石・アスファルト舗装部分重機掘削作業風景（東より）

写真34　縁石・アスファルト舗装部分掘削状況（南より）

写真35　アスファルト除去部分掘削状況（東より）

写真36　Ｌ字側溝除去作業風景（北より）

会は５箇所で試掘をおこなうに留めた．全てクラッシャー等，現代埋土中におさまっており，1416調査地点における調査成果を加味すると，文化層への影響もないため，工事業者に掘削深度の厳守を指導し，受け渡した．遺構・遺物は検出されなかった．

６．（黒髪北）総合研究棟（教育学系）改修その他工事に伴う立会調査（1438）

＜調査期間＞

2015年２月９日

＜調査面積＞

159.1㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

教育学部東棟周辺のコンクリート舗装および地盤すきとりに係る立会である．

建物の北および南側の調査範囲は，後述する1439調査地点の掘削範囲に重複しており，掘削深度も深いため，そちらに記載する．東側の調査では25×4m 程の範囲を表土のみ５㎝程掘削した．また，建物東側中央やや北よりに，1.3×5.9m の範囲を地表下0.1m 程，建物東南隅に

写真37　建物東側すきとり部分掘削状況（北東より）

写真38　建物東側コンクリート舗装部分掘削状況(北より)

写真39　建物南東側コンクリート舗装部分掘削状況(東より)

写真40　建物西側コンクリート舗装部分掘削状況(南より)

2.2× ２m の範囲を地表下0.15㎝まで掘削したが，いずれも礫混じりの現代埋土の掘削におさまった．

建物西側では1.9×2.5m 程の範囲を地表下0.25m まで掘り下げたが，現代埋土内におさまった．

遺構・遺物は検出されず，文化層への影響も一切なかった．

７．（黒髪北）総合研究棟（教育学系）改修機械設備工事に伴う立会調査（1439）

＜調査期間＞

2015年２月９日～２月27日

＜調査面積＞

73㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

教育学部東棟の屋外排水管および桝の新設に係る工事の立会を実施した．

Ⅰ区は，建物北壁とその北にある塀の間の東西22.6m，幅１m 程の幅狭の調査区と，その西端から南西方向の道路上に位置する既存の桝までの調査区を含む．掘削は

動線と調査範囲の都合上，重機の動線が確保できないため，人力掘削によっておこなわれた．本調査区には東西方向に既設配管と桝が設置されており，これらの撤去を先行しておこなった．既設の桝底が一部地表下0.9m 程まで及んだが，掘削は全て建物や配管，桝の掘方埋土内におさまっており，遺構・遺物の検出はなく，文化層への影響もなかった．

Ⅱ区は建物南壁とその南にある塀の間の18.7×1.5m 程の幅狭の調査区と，その西端から約５m 西に位置する既設の桝まで道路を横断する形の調査区を含む．Ⅰ区と

写真41　Ⅰ区既設桝撤去作業風景（西より）

写真42　Ⅰ区掘削状況（西より）

写真43　Ⅰ区道路部分掘削状況（北東より）

写真44　Ⅱ区掘削状況（北西より）

写真45　Ⅱ区道路部分掘削状況（東より）

同様，既設配管や桝が設置しており，これらを人力や重機によって撤去した後に，施工深度まで掘り下げた．最深で地表下0.95m まで掘削をおこなったが，いずれも既設配管等の掘方埋土内におさまった．道路側にも既設配管があり，この掘方埋土のみ地表下0.8～１m まで掘削したが，すべて現代埋土であった．

遺構・遺物は検出されなかった．

８．（黒髪北）体育館改修電気設備工事に伴う立会調査（1440）

＜調査期間＞

2015年２月10・13日，３月４日

＜調査面積＞

85.8㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

体育館周辺の埋設配管配線の設置および既設ハンドホールのかさ上げに係る立会をおこなった．

調査区は新体育館の南西隅のⅠ区，新体育館と学生会館Ａ棟の間の道路のⅡ区，学生会館Ａ棟の北側のⅢ区の

写真46　Ⅰ区重機掘削作業風景（南西より）

写真47　Ⅰ区掘削状況（南西より）

写真48　Ⅱ区重機掘削作業風景（南西より）

写真49　Ⅱ区掘削状況（東より）

写真50　Ⅲ区重機掘削作業風景（西より）

写真51　Ⅲ区掘削状況（西より）

計３箇所にわけた.

Ⅰ区では埋設配管敷設のため，新体育館の南西隅から南東方向へ４ｍに位置する既設のハンドホールまでを重機と人力により掘削した．調査区全体を地表下0.6～0.7m まで掘削したが，全て現代埋土内におさまり，遺構・遺物も検出されなかった.

Ⅱ区では，道路地下にある既設のハンドホールの位置を確認するために，2.2×1.8m の調査区を設けた．重機により地表下0.3m 程まで掘削をおこなったところ，調査区北側で混じりのない暗褐色土を，南と東側では撹乱土を検出したため，調査区東側のみを掘り下げたところ，地表下0.35m でハンドホールの上面を発見した．施工ではハンドホールの内側の掘削と地表下0.3m までの掘削で済むとのことだったので，掘削深度と範囲について指導し，工事業者に受け渡した.

Ⅲ区は，電気配管の埋設のため，既設のハンドホールから学生会館Ａ棟の西壁に向けて約11×0.7m の範囲を重機と人力で掘削した．途中，既設ハンドホールから東に1.7m の位置に土中へ埋設された桝があり，掘削の障害となったため，わずかに北に調査区をずらして掘り進めた．全体を地表下0.7m まで掘削し，調査区東端の石垣の下部のみ地表下1.05m まで掘削したが，全て現代埋

土内におさまった.

遺物や遺構の検出はなく，文化層への影響もなかったため，立会を終了した.

9．（黒髪北）法学部サークル棟新営その他工事に伴う立会調査（1444）

＜調査期間＞

2015年２月27日

＜調査面積＞

64.8㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

文・法学部棟の北西にあるスペースに，サークル棟用プレハブを新築する工事である．先に，熊本市教育委員会文化振興課により試掘が実施され，古代の遺物包含層が確認されていた.

地表下0.55mで古代の遺物包含層に達するが，工事では地表下0.7mまで掘削予定であった．このため，施工業者から0.15m掘削深度を浅くする設計変更の申し出があった．この，新たな設計にもとづき，建設予定地の中央に南北のトレンチを設定して掘削をおこなった．掘削の結果，埋土や撹乱のみで，この掘削深度では包含層には達しないことを確認できた．熊本大学担当者および施工業者と設計変更と深さの確認を行い，施工よしとして立会を終えた.

写真52　熊本市試掘坑の土層断面(調査区北西角)(南より)

写真53　調査区中央試掘状況（北より）

10．（黒髪北）環境整備（駐車場等）に伴う樹木等移植業務に伴う立会調査（1445）

＜調査期間＞

2015年３月２～６日

＜調査面積＞

86㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

全学教育棟の南東広場の環境整備に伴う樹木の移植に係る立会である．広場に植えられているナナメノキ，キンモクセイ，モチノキなど計６つの樹木と，低木のマメツゲの抜取りと植樹先の植穴の掘削を実施している．このうちマメツゲは根が浅く，人力掘削により抜取っており，地表下0.3m程までの掘削で終了した．また，移植穴は東西方向に約37×0.5m程，掘削深度が0.25mだったため，現代埋土内におさまった．その他の樹木は，いずれも抜根可能な深さまで根の周りを円形あるいは方形に地表下0.3～0.9mまで掘削した．根の周りは撹乱を受けているものの，その周囲には0.35m程で暗褐色土が，0.6m程で褐色粘質土が確認できた．当初，前者が遺構面を形成する土層と想定したため，これらの層については掘り下げをおこなわないよう注意した．ただし，西端のナナメノキ抜取りにおいて暗褐色土から近代の陶磁器片が出土したため，この層は現代埋土の可能性がある．抜取り後に褐色粘質土を清掃し平面での遺構検出をおこなったが，遺構は検出されなかった．この他，移植先の植穴のため２×２m程，深さ0.8mを基準に５箇所の掘

写真54　マメツゲ抜取り部分掘削状況（西より）

写真55　マメツゲ植穴部分掘削状況（西より）

写真56　ナナメノキ抜取り部分重機掘削作業風景（南東より）

写真57　ナナメノキ抜取り部分掘削状況（東より）

写真58　ナナメノキ植穴掘削状況（南より）

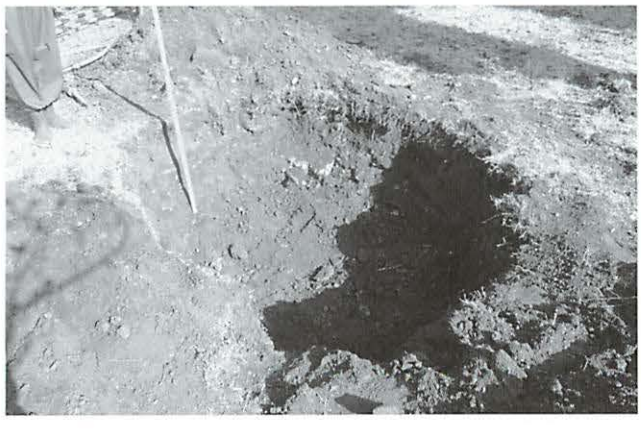


写真59　ココスヤシ抜取り部分人力掘削作業風景（南より）

写真60　ココスヤシ抜取り部分掘削状況（東より）

写真61　ココスヤシ植穴部分掘削状況（南東より）

削をおこなった．掘削に際しては，現代埋土中にコンクリート基礎およびその破片がみつかることが多く，必要に応じて電動ピックなどで破壊しながら撤去した．掘削は全て現代埋土内におさまり，いずれの調査区でも遺物・遺構は検出されず，文化層への影響はなかった．

11.（黒髪北）環境整備（駐車場等）工事に伴う立会調査（1446）

＜調査期間＞

2015年３月18～23日

＜調査面積＞

写真62　L字側溝撤去部分掘削状況（西より）

写真63　支柱抜取部分掘削状況（西より）

194㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

全学教育棟の南東広場の環境整備に伴うアスファルト舗装，摸木支柱移設，L字側溝撤去・新設に係る工事である.

全学教育棟の南東側，39×４m程の東西に長い調査区で，掘削深度が最深で0.4mである．1445調査地点の調査成果によって地表下0.4mまでの掘削では文化層への影響がないことが判明していたため，工事業者への掘削深度を厳守するよう指導をおこなった上で，掘削後の状況を確認するに留めた．掘削後，写真記録をおこなって，立会を終了している.

遺構・遺物の検出はなかった.

12.（黒髪他）屋外サイン設置工事（黒髪）に伴う立会調査（1448）

＜調査期間＞

2015年３月４日

＜調査面積＞

57.8㎡（0.75㎡）

写真64　文法棟前作業風景（北西より）

写真65　文法棟前掘削状況（南より）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

屋外サイン設置のために，黒髪北地区の文・法学部棟前の掘削について立会調査をおこなった．サインは全部で17箇所に設置したが，このうち文化層に影響をおよぼす可能性がある３箇所について立会った．また，国指定重要文化財に指定されている五高記念館，化学実験場，工学部資料館の前に設置されている看板の撤去作業について立会った.

文・法学部棟の東側，教育学部本館南側の緑地帯の中で，駐輪場の北側に位置する箇所を掘削した．昨年，同様のサインを既に設置しており，今回はその西側に隣接する位置である．縁石沿いに1.0×0.75mの範囲を深さ0.53mまで掘削した．北西隅の0.3m四方に遺構面と思われる土層が確認されたが，遺構は検出されなかった．他は撹乱を受けていた．遺物は土師器片が１点出土した.

五高記念館前，化学実験場西側，工学部資料館前に設置されていた看板は，掘削をおこなわず直接引き抜く方法をとった．いずれも，問題なく施工できた.

写真66　五高記念館前作業風景（南西より）

写真67　工学部資料館前作業風景（西より）

写真68　重機掘削作業風景（北東より）

写真69　掘削状況（南より）

13.（黒髪北）全学教育棟屋外ガス漏洩補修工事に伴う立会調査（1449）

＜調査期間＞

2014年12月24日

＜調査面積＞

3㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

全学教育棟の南西隅付近の屋外ガス漏洩の補修工事に係る立会である.

破損したガス管の配置が不明確であったため，事前に土壌のガス濃度の高い箇所を調査した後，そこを中心に1.7×1.7mの調査区を設定した．掘削は，重機と人力によって慎重におこなった．結果，地表下１m程で調査区東側に目的とする南北方向のガス管を検出することができた．補修施工のためガス管周辺を管底から0.1m下，地表下1.3mまで掘削したが，周囲はガス管の埋土であった．掘削埋土は全て現代埋土あるいは配管の掘方埋土内におさまっており，遺構・遺物の検出もなく，文化層への影響はなかった.

Ⅱ－２　黒髪南地区　（図４参照）

１．（黒髪南）ライフライン再生（給水設備等）工事に伴う立会・発掘調査（1310）

＜調査期間＞

2014年４月１日～2014年３月20日

＜調査面積＞

5275.6㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎・大坪志子・宮崎拓・横田光智・島浦健生・米村大（株式会社有明測量開発社）.

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区の東部，理学部棟周辺を中心に実施した排水・ガス・電気管，排水桝，側溝，点検口，検水槽，インターロッキング・アスファルト舗装，電柱移設などの整備事業に関わる立会・発掘調査をおこなった.

本事業は昨年度に引続き実施された．工事範囲が広く，その内容が多岐にわたるため，施工期間を勘案し，多地点における工事・立会調査・発掘調査を同時に実施する必要が生じた．また，昨年度の調査により，掘削箇所の多くが，古代の遺構面に到達する上に，遺構密度が多い状況が確認できた．加えて，古代の遺構面より下位からは，縄文時代後期を主体とする遺物包含層，および遺構が確認されており，その調査に時間を要した.

調査は山野が担当し，必要に応じて大坪が補助に入った．また，複数個所の調査を同時に進めるため，４月１日以降，株式会社有明測量開発社に補助業務を委託して対応した．調査区名は工事範囲が広範であり，調査地点も多いため，昨年度から継続して，Ⅰ～Ⅵ区に区分し，さらに工事単位ごとに枝番号を付した．ここでは概要を区毎に記載するが，その詳細については，報告書の刊行を待たれたい.

発掘調査では，重機による現代埋土の掘削後，近世・近代の包含層である暗褐色土の人力掘削を行い，少数ながら認められる近世の遺構の調査を実施した．次に古代の包含層である黒褐色土の検出・掘削をおこない，直下に堆積する褐色砂質土上面で古代の遺構検出・掘削をおこなった．ただし，白川から離れた理学部棟２号館南東隅付近から北側では，自然堤防と考えられる褐色砂質土は堆積しておらず，火山灰由来と思われる暗褐色土層上面で古代の遺構を検出している．また，昨年度から継続して調査のおこなわれたⅢ区①では，褐色砂質土より下位から，縄文時代後期の遺物を含む包含層が検出された．この調査成果に基づき，褐色砂質土を掘り下げる必要のある調査区は，施工深度まで掘削をおこなっている．白川に近い理学部３号館以南では褐色砂質土より下位から無遺物層である灰色硬質砂層が確認されており，厚いところで0.7～0.8m 程堆積している．この直下からは，縄文時代後期前葉の遺物を含む黒褐色砂層が検出された．掘削深度がとくに深いⅤ区⑪・⑬やⅣ区⑭では，これら黒褐色砂層の調査も実施している．最も深い場所では地表下約３ｍまで調査しており，黒褐色砂層のさらに下位には，河川堆積層と考えられる灰色砂礫層が堆積しており，その直下のオリーブ黒色粘質土層からも縄文土器を数点得ることができた．今回の調査によって，縄文時代後期以降，白川の河川作用によって形成された河岸段丘上に，縄文時代の遺跡が形成されていたことが明瞭となり，黒髪南地区の今後の調査を実施する上での大きな指標となった.

遺物として，暗褐色土からは近世・近代の陶磁器や金属製品，砥石，古銭等が出土している．黒褐色土および古代の遺構埋土中からは，土師器，須恵器，鉄器，砥石，土製品などが出土している．褐色砂質土およびその下位の層からは縄文時代後期を中心とする土器や石器，土製品が出土した．遺構は，近世の溝や土坑，ピット，古代の住居や溝，土坑，ピットが検出されたほか，Ⅴ区⑪では黒褐色砂層を掘り込む形で縄文時代の墓と人骨が検出されており，特記すべき調査成果といえる.

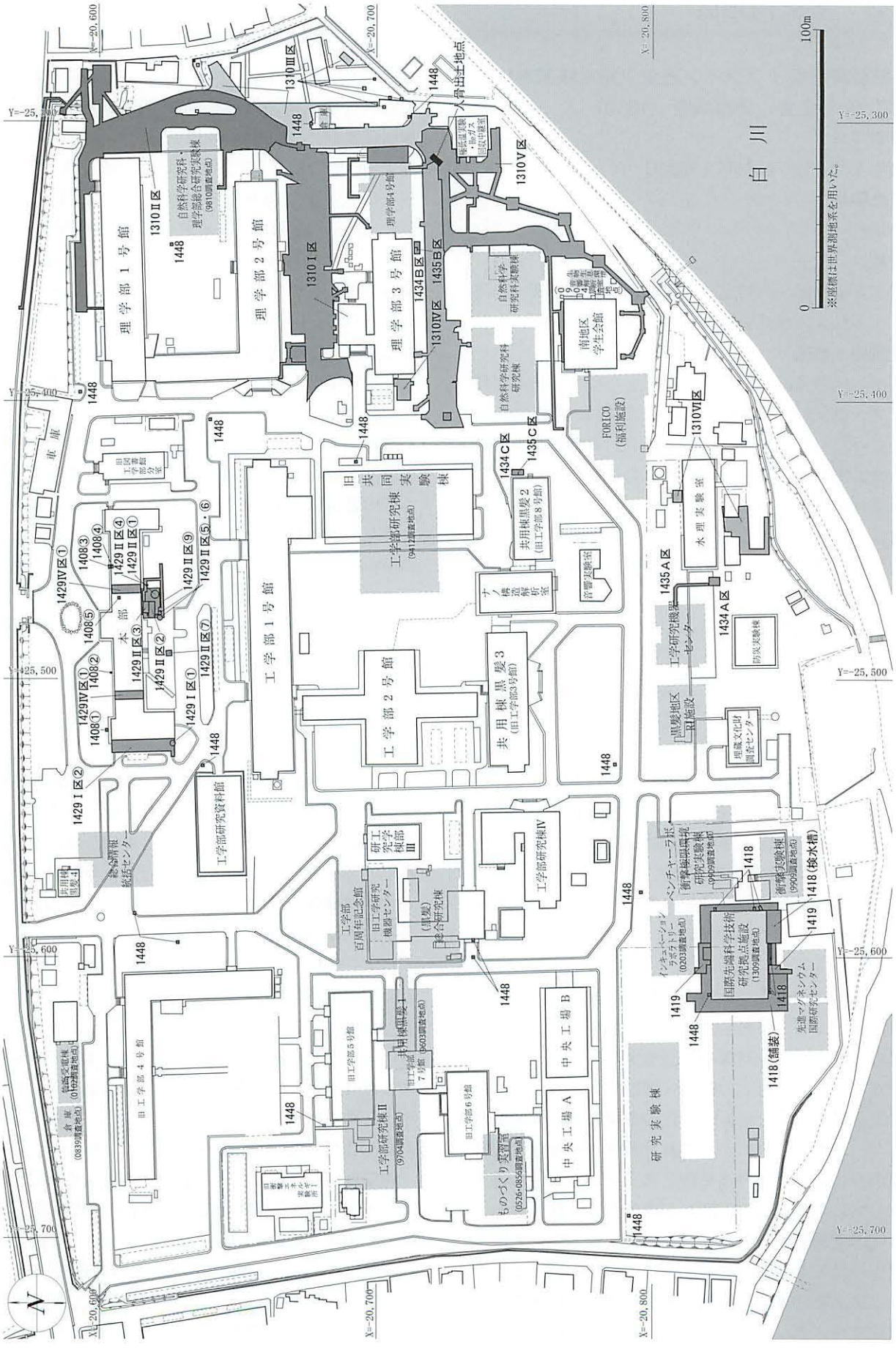
【Ⅰ区】

Ⅰ区は，黒髪南地区の東側に相当し，北側に理学部１・２号館，南側に理学部３・４号館が位置する校舎間の道路部分に相当する．排水管，側溝，集水桝などの埋設やアスファルト舗装，植樹などの工事に伴い，立会調査・発掘調査を実施した．本年度は㉟～㊻の調査区の調査をおこなっている.

地表下0.25～0.5m 程で古代の包含層が，地表下0.4～0.6m 程で遺構面が検出された．また，古代の包含層の直上に近世・近代の遺物を含む暗褐色土が0.1～0.2m 程堆積することがあり，古代の包含層上面での遺構検出もおこなっている．遺構として，近世の溝や，古代の竪穴住居，溝，ピット，土坑が確認された．ただし，調査区が矮小なため住居や溝の全容把握にはいたっていない.

昨年度，Ⅲ区①において古代の遺構面を形成する褐色砂質土の下位に堆積するオリーブ褐色砂層から，縄文時代後期前半の遺物が多く出土したため，隣接するⅠ区㊲・㊳区など，工事の掘削深度が深い調査区では，古代の遺構を記録保存した後，縄文時代の文化層の調査もおこなっている．地表下0.4～0.5m で検出されたオリーブ

図４　黒髪南地区における調査地点配置図（1/2000）



褐色砂層からは，縄文時代後期前葉の出水式や御手洗A式を主とした土器や石器が多数出土した．また，Ⅲ区①から南の調査区では白川方向に向かうにつれ，灰色硬質砂層が0.7～0.8m 程堆積しており，その下位の黒褐色砂層からも縄文時代後期前葉の土器が出土していたため，西側に隣接するⅠ区㊲・㊳でも地表下2.2m 程まで掘り下げた．しかし，灰色硬質砂層や縄文時代の文化層を検出できず，Ⅲ区①とは異なる堆積状況であった．

この他，アスファルト舗装や植樹に伴う掘削は，掘削深度が0.2～0.4m 程で，いずれも現代埋土の掘削に留まった．

写真70　Ⅰ区㊲縄文時代遺物検出状況（東より）

写真71　Ⅰ区㊲西側完掘状況（東より）

写真72　Ⅰ区㊳完掘状況（南より）

写真73　Ⅰ区㊵古代遺構完掘状況（西より）

写真74　Ⅰ区㊶掘削状況（西より）

写真75　Ⅰ区㊸掘削状況（北より）

写真76　Ⅰ区㊻掘削状況（西より）

【Ⅱ区】

Ⅱ区は黒髪南地区の北東部に相当し，理学部１・２号館，自然科学研究科・理学部総合研究実験棟の東側および，58号線の道路沿いに相当する．排水桝，排水管，ガス管，集水桝，側溝などの埋設およびアスファルト舗装などの工事に伴い，立会調査・発掘調査を実施した．本年度は⑨～㊷の調査区の調査をおこなっている．

地表下0.2～0.3m で近世・近代の遺物を含む暗褐色土が0.1～0.2m 堆積することがあり，これについては，掘削の上，必要に応じて近世の遺構の検出と調査も実施した．また，地表下0.5～0.6m 程で古代の包含層が，地表下0.6～0.8m 程で遺構面が検出された．遺構として，古代の竪穴住居や溝，ピット，土坑が複数基確認された．こちらも他の調査区と同様，調査範囲が矮小なため住居や溝の全容把握にはいたっておらず，狭い範囲であることと，大量の既設配管の存在が，調査の弊害になった．

Ⅱ区でも古代の遺構の記録保存終了後，工事の掘削深度に応じて，縄文時代の文化層の確認をおこなった．結果，Ⅱ区北半では，古代の遺構面を形成する土層は，Ⅱ区南半でみられた褐色砂層ではなく，比較的多く火山ガラスを含む暗褐色土層であった．この土層は，過去に調査をおこなった9810調査地点でも確認されており，立田山により近いⅡ区と，白川により近いⅠ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ区の堆積状況とが大きく異なっていることが推定できる．Ⅱ区北半の複数の調査区における暗褐色土層の掘り下げにおいて，縄文時代の遺物がほとんど出土しなかった状況は，自然科学研究科・理学部総合研究実験棟の南付近から白川右岸沿いにおける縄文時代後期前半の遺跡範囲を示すか，あるいは当該時期の文化層が，Ⅱ区北側付近では後世に削平された可能性を示している．

この他，アスファルト舗装や植樹に伴う立会調査をおこなっており，近世の遺物を含む暗褐色土層を掘削する必要が生じた調査区については，人力によって掘り下げ

写真77　Ⅱ区⑪完掘状況（北より）

写真78　Ⅱ区⑬完掘状況（南東より）

写真79　Ⅱ区⑮完掘状況（北東より）

写真80　Ⅱ区⑳完掘状況写真（南東より）

写真81　Ⅱ区㉑古代遺構完掘状況（北より）

写真82　Ⅱ区㉕完掘状況（北より）

写真83　Ⅱ区㉝古代遺構完掘状況（南より）

写真84　Ⅱ区㊲－２掘削状況（北より）

写真85　Ⅱ区㊶掘削状況（南より）

をおこない，遺物を取り上げた．

【Ⅲ区】

Ⅲ区は黒髪南地区の東部に位置し，理学部２号館および理学部３・４号館の東側の道路部分と，さらに東に位置する駐車場の南北端に相当する．排水桝，排水管，ガス管，集水桝，側溝などの埋設および，樹木撤去，植樹，電柱撤去，電柱移設，アスファルト舗装などの工事に伴い，立会調査・発掘調査を実施した．本年度は①，②，⑥～㉛の調査区の調査をおこなっている．

地表下0.15～0.2m で近世・近代の遺物を含む暗褐色土が0.1m 程堆積することがあり，これについては，掘削の上，必要に応じて近世の遺構の検出と調査を実施している．また，地表下0.2～0.5m 程で古代の包含層が，地表下0.4～0.6m 程で遺構面が検出された．遺構として，近世の溝，古代の竪穴住居や溝，ピット，土坑などが複数基確認された．

Ⅲ区では，古代の遺構掘削後に，遺構面を形成する褐色砂層を掘り下げる必要のある調査区が多かったが，縄文時代後期の遺物が含まれるオリーブ褐色砂層まで掘り下げることが少なかったため，Ⅲ区①を除くと，縄文時代の遺物出土量は比較的少なかった．

写真86　Ⅲ区①完掘状況（西より）

写真87　Ⅲ区⑧完掘状況（北より）

写真88　Ⅲ区⑪完掘状況（南より）

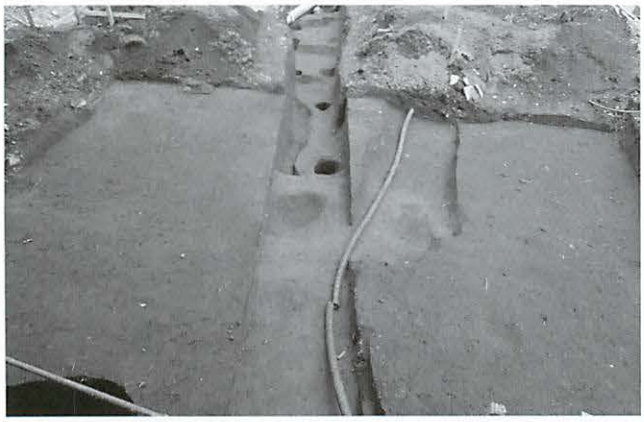


写真89　Ⅲ区⑫完掘状況（北より）

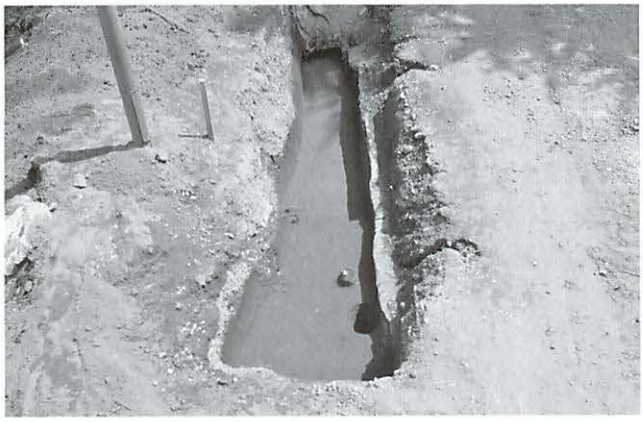


写真90　Ⅲ区⑬古代遺構完掘状況（南より）

写真91　Ⅲ区㉓古代遺構完掘状況（南より）

写真92　Ⅲ区㉖掘削状況（西より）

写真93　Ⅲ区㉗－２掘削状況（南より）

写真94　Ⅲ区㉚掘削状況（西より）

この他，樹木撤去，植樹，電柱撤去，電柱移設，アスファルト舗装を実施したが，一部近世の包含層を掘削したのみに留まり，遺構は検出されなかった．

【Ⅳ区】

Ⅳ区は黒髪南地区東側に位置し，理学部３・４号館と自然科学研究科研究棟および実験棟の間の道路部分にほぼ相当する．排水桝，排水管，ガス管，側溝，集水桝，検水槽などの埋設，アスファルト，インターロッキング舗装などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．本年度は⑩～㊶の調査区の調査をおこなった．

地表下0.4～0.5m で近世・近代の包含層である褐色土が検出されており，その直下，深さ0.6～0.7m 程で古代の包含層が，0.7～0.9m 程で遺構面が検出された．遺構として，古代の竪穴住居や溝，ピット，土坑などが複数基確認されている．

検水槽の埋設箇所であるⅣ区⑭では，工事施工深度が地表下約3.6m であったため，調査区の四方に土止めのための矢板を施工した上で掘削をおこなった．その結果，古代の遺構の調査後，遺構面を形成する褐色砂層より下位の各層から鐘崎式や御手洗 A 式，出水式などの土器と土製品，石器などが数多く出土し，大きな成果となった．

写真95　Ⅳ区⑪３号住居竈完掘状況（南より）

写真96　Ⅳ区⑪完掘状況（西より）

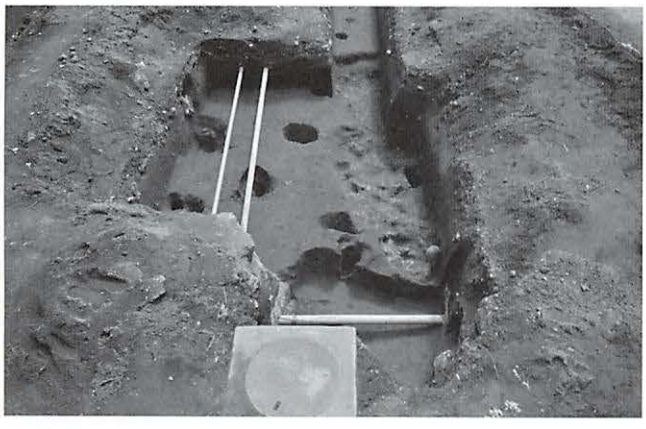


写真97　Ⅳ区⑭縄文時代遺物出土状況（東より）

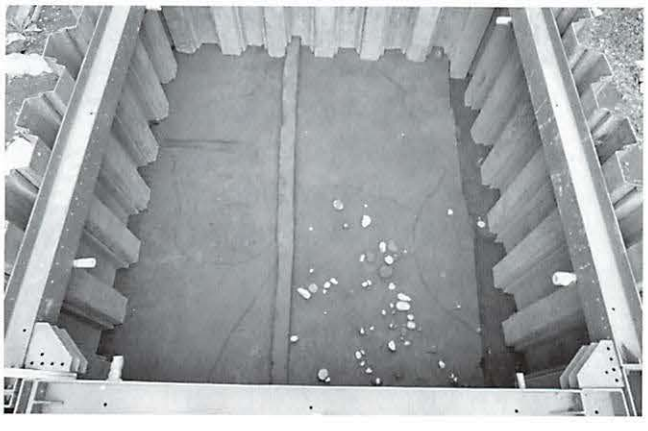


写真98　Ⅳ区⑭縄文時代遺物出土状況近景（北より）

写真99　Ⅳ区⑭縄文土器出土状況（西より）

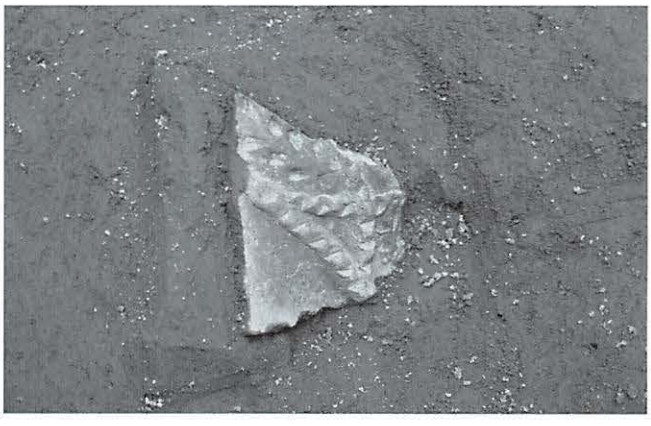


写真100　Ⅳ区㉒古代遺構完掘状況（東より）

写真101　Ⅳ区㉔古代遺構完掘状況（西より）

写真102　Ⅳ区㉘掘削状況（東より）

写真103　Ⅳ区㉚－１完掘状況（西より）

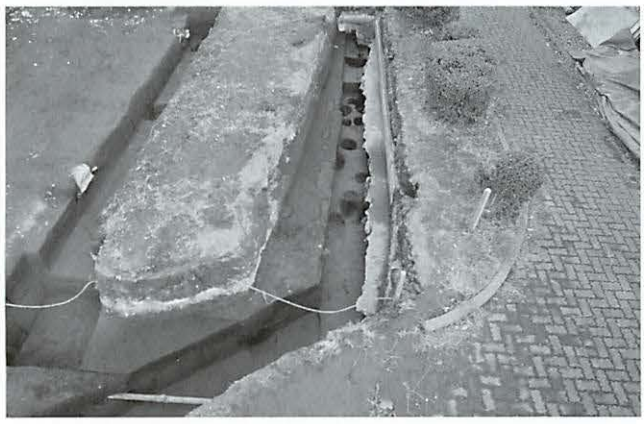
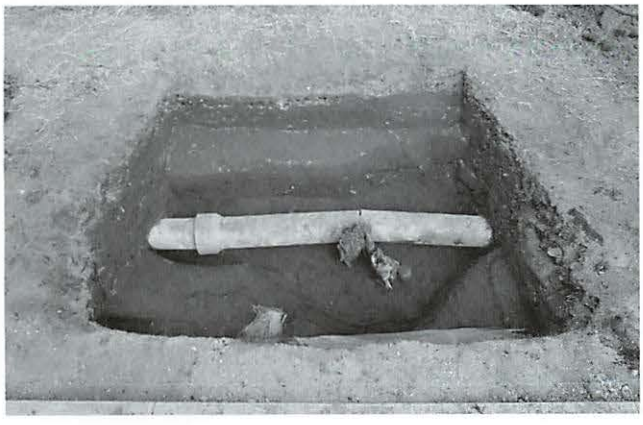


写真104　Ⅳ区㉚－２古代遺構完掘状況（南東より）

写真105　Ⅳ区31完掘状況（南より）



この他，アスファルトやインターロッキングの舗装に伴う工事では，掘削深度が0.2～0.3m と浅いことから，文化層には到達しなかった．

【Ⅴ区】

Ⅴ区は黒髪南地区南東部に位置し，白川沿いの極低温実験・He ガス回収中継室周辺付近から南地区学生会館，FORICO と自然科学研究科実験棟・研究棟の間の道路部分にほぼ相当する．排水桝，排水管，ガス管，集水桝，側溝などの埋設，移植およびアスファルト施工などの工事に伴い，立会・発掘調査を実施した．本年度は，⑪～㉜の調査区の調査をおこなった．

排水桝や排水管等の埋設に伴う工事では，掘削深度が古代の遺構面までおよぶことが多かった．地表下0.6～0.7m 程で古代の包含層が，地表下0.8～0.9m 程で遺構面が検出された．遺構として，古代の竪穴住居やピット，土坑，柱穴，溝などが複数基確認されている．

この調査区で特記すべき調査成果として，縄文時代後期の人骨と墓の発見が上げられる．極低温実験・He ガス回収中継室の北西に設けられた，排水管に伴う調査区であるⅤ区⑪では，掘削深度が2.3～2.4m と深く，古代の遺構掘削の後に縄文時代の文化層の調査をおこなう必要が生じた．

昨年度，Ⅲ区②の調査によって，縄文時代後期前半の遺物が出土するオリーブ褐色砂層の下位に，無遺物層である灰色硬質砂層が白川へ向かって傾斜するように堆積しており，その直下の黒褐色砂層からも縄文時代後期前葉の遺物が出土することが判明した．よって，Ⅴ区⑪では灰色硬質砂層を重機で掘削した後，黒褐色砂層の掘り下げをおこない，縄文時代後期の文化層の調査も実施した．その結果，調査区中央付近で人骨の四肢骨を検出した．人骨は調査区外に続いており，この調査をおこなうため，調査区北西側へ拡張区を設けた．結果，土坑墓に埋葬された成人男性（ST01）と配石墓に埋葬された成人女性（ST02）を一体ずつ検出した．人骨はいずれも屈葬で，頭位が西を向いており，人骨の四肢骨は消失，あるいは本来の位置から動いているものもあった．この他に拡張区北側から大腿骨と土坑墓らしきプラン（ST03）を検出しており，狭い調査区に墓が複数基存在することから，墓域が形成された可能性が高い．人骨の取り上げ後，ST03と ST02の配石墓は，工事の設計変更を依頼し，厳重に養生をおこなった上で現地にて保存している．また，本調査で出土した人骨に関しては，土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアムの松下孝幸氏，NPO 法人人類学研究機構の松下真実氏に分析を依頼しており，本報告の際

写真106　Ⅴ区⑪古代遺構完掘状況（東より）

写真107　Ⅴ区⑪東側先行トレンチ縄文土器出土状況(西より)

写真108　Ⅴ区⑪ ST01人骨検出状況（南より）

写真109　Ⅴ区⑪ ST02人骨検出状況（南より）

写真110　Ⅴ区⑪拡張区調査終了時状況（北西より）

写真111　Ⅴ区⑫完掘状況（南より）

写真112　Ⅴ区⑭古代遺構完掘状況（北から）

写真113　Ⅴ区⑱完掘状況（北東より）

写真114　Ⅴ区㉕掘削状況（北より）

写真115　Ⅴ区㉖古代遺構完掘状況（北より）

写真116　Ⅴ区㉙－２掘削状況（東より）

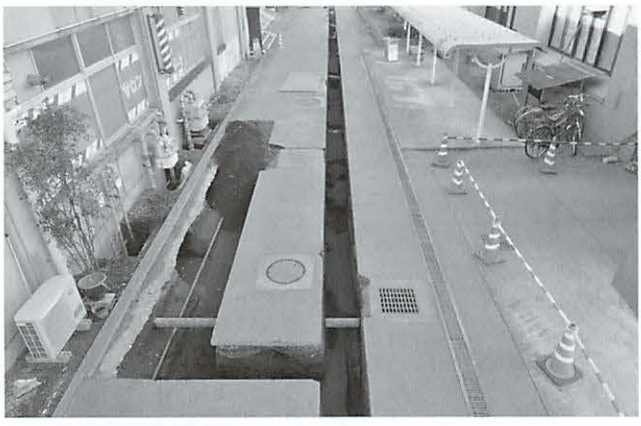


写真117　Ⅴ区㉝掘削状況（東より）

写真118　Ⅵ区排水設置箇所掘削状況（南より）

に合わせて成果を述べる予定である．

この他，アスファルトやインターロッキングの舗装，植樹に伴う工事では，掘削深度が0.2～0.3m と浅いことから，文化層には到達しなかった．

【Ⅵ区】

Ⅵ区は黒髪南地区南端に位置し，南地区水理実験棟周辺の給水管を埋設するための工事に伴い，調査を実施した．20×20m 程の範囲に掘削深度が0.3～0.5m の調査区を設けたが，いずれも現代埋土内で文化層には到達せず，遺構・遺物は検出されなかった．

２．（黒髪南）本部（旧事務局本館）基礎調査に伴う立会調査（1408）

＜調査期間＞

2014年６月９日

＜調査面積＞

21.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

本部棟の耐震工事に伴う事前基礎調査に係る工事に伴って立会をおこなった．本部棟の北壁外面に３箇所，建物床下に２箇所の試掘を設けた．掘削は重機と人力の両方で実施した．

試掘①は，本部棟西端に位置し，約0.5×0.4m の範囲を深さ0.55m まで掘削した．東西方向に据えられた縁石の軸に平行する赤煉瓦積み基礎を，地表面から約0.2m 下位より検出，上から１段，２段と階段状に積まれていた．さらに地表下0.45m では赤煉瓦の下に円礫混じりのコンクリートが検出されている．埋土中からは赤煉瓦の破片が出土したが，重要な遺構と想定していなかったため，取り上げはおこなわなかった．これらは後述する

1429調査地点などで検出された赤煉瓦積み基礎に関連するものと考えられ，1907年に竣工した熊本高等工業学校の旧本館の基礎の一部と推定される．掘削目的が建物の基礎調査であるため，赤煉瓦積み基礎の掘方埋土までの掘削を実施し，立会を終了した．

試掘②は本部棟中央やや西よりで，約0.8m ×1.1m の調査区である．地表下0.15m 程で土管を検出，また，地表下0.2m 程で古代の包含層と思しき暗褐色土が検出され，一部掘削したが遺物は出土しなかった．調査区南壁では，縁石に沿う形で東西方向に円礫混じりコンクリート基礎が検出され，その埋土を地表下0.75m まで掘り下げたが，基礎の底部は確認できなかった．本コンクリート基礎は，位置や軸方向から，試掘①で検出した赤煉瓦積み基礎の下位にあるコンクリート基礎と同様の者と考えられるまた，一部撹乱を掘り下げたところ，地表下0.5m 程で，地山らしき褐色土が検出されている．

試掘③は本部棟東側で，約0.45×0.9m の調査区である．試掘②と同様，縁石に沿って円礫混じりコンクリート基礎が検出され，この基礎と地山の間の埋土が５㎝もないことから，基礎掘方に直接コンクリートを流しこんでいたことがわかる．掘方埋土を0.75m まで掘削したが，基礎の底部は確認できなかった．埋土中には赤煉瓦の破片

写真119　試掘坑①人力掘削作業風景（北より）

写真120　試掘①掘削状況（西より）

写真121　試掘②掘削状況（西より）

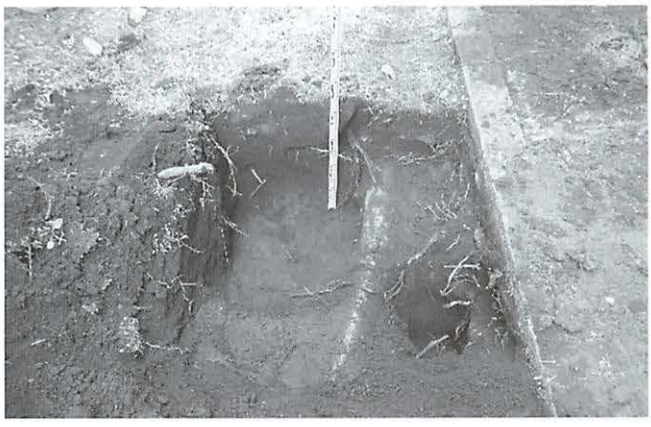


写真122　試掘③掘削状況（北より）

写真123　試掘④人力掘削作業風景（東より）

写真124　試掘④掘削状況（南より）

写真125　試掘⑤掘削状況（南より）

が出土したが，取り上げはおこなっていない．

試掘④は，試掘③の南側の建物内床下，0.3m ×0.8m の調査区である．梁に隣接する部分を掘削したところ，深さ0.75m まで全て角礫の混じる現代埋土であり，その底からは現本部棟の鉄筋コンクリートの基礎を検出した．

試掘⑤は試掘④の南に２m，西へ10m 程の建物床下，0.4×0.5m の調査区である．試掘④と同様，角礫の混じる現代埋土で，地表下0.7m から鉄筋コンクリートの基礎を検出した．以上，試掘②のみ古代と思われる文化層を掘削したが，他は全て現代埋土であった．遺構として近代の赤煉瓦積み基礎を検出したが，遺物の出土はなく，事前調査を終了した．

３．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営機械設備工事に伴う立会調査（1418）

＜調査期間＞

2014年 9 月16・17日，10月 3 ・15・16日，11月 4 ・10・17～20日

＜調査面積＞

532㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

国際革新技術研究拠点の建物周囲の，屋外排水管，給水管，検水槽，アスファルト舗装，縁石設置等の工事に係る立会である．

このうち検水槽は工事掘削予定深度が2.95m と深く，昨年度実施した国際先端科学技術研究拠点施設（1309調査地点）における発掘調査成果により，近代墓の土坑が検出されることが予想されたため，他の工事に先行して調査をおこなった．また，掘削深度が深いことから，南と東に十分な法面を設け，重機の降車のため，調査区西側を一部拡張し掘削を実施した．基本層序は，上から現代埋土，昭和28年の白川洪水の堆積層，ガラスを含む現代埋土の順に堆積しており，地表下2.5m 程まで下げた段階で，調査区北側に半円形の土坑プランが検出されたため，この面を遺構検出面とした．

遺構面では平面プランが円形あるいは瓢箪形を呈する土坑が22基確認できた．また，小範囲５箇所に灰と焼けた骨が検出されており，遺構配置が東側に集中することからも1309調査地点で検出された近代土坑墓群の南側延長と考えられる．また，調査区中央付近で土が陥没した箇所があり，内面を確認したところ，骨壺が確認できた．本工事は工期が短く，掘削予定深度が遺構面より深かっ

写真126　検水槽部分重機掘削作業風景（東より）

写真127　近代土坑墓検出状況（南より）

写真128　検水槽部分南壁土層断面（北より）

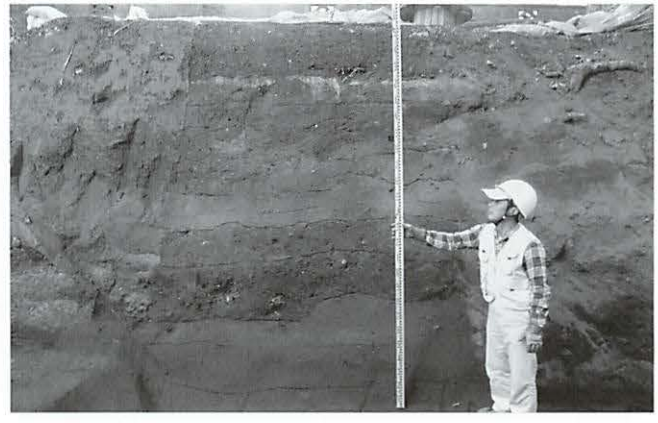


写真129　屋外排水管部分掘削状況１（西より）

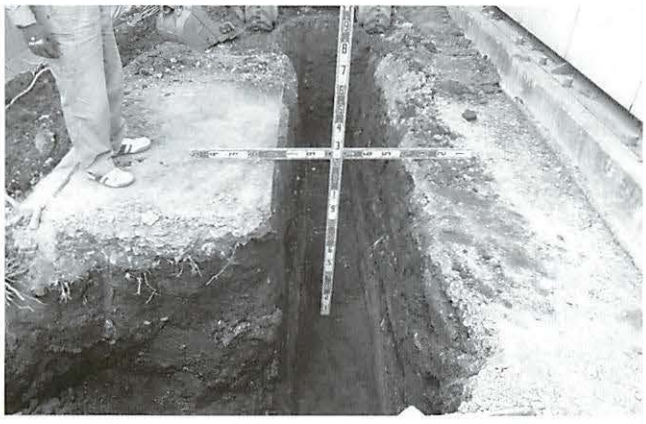


写真130　屋外給水管部分掘削状況２（西より）

写真131　屋外桝部分掘削状況（南より）

写真132　アスファルト舗装部分掘削状況（北より）

たため，遺構の保存を目的とし，設計変更を実施した．調査は遺構検出状況および土層断面の写真・実測記録のみをおこない，遺構の発掘調査をおこなうことなく終了した．施工にあたっては，熊本市教育委員会文化振興課に相談し，遺構面から30㎝の暑さで山砂を敷き，この上に検水槽を設けることとなった．

屋外排水管，桝類新設に伴い，建物の南側，検水槽の西側に1×1.25m と7.5×2.5m の範囲の２箇所について掘削を実施した．掘削深度が最深い箇所でも1.25m で，近代の遺構面よりも浅く，文化層への影響はなかった．また，調査区東側では，排水管敷設に伴い0.4×0.4m，深さ0.5m の掘削をおこなったが，現代埋土中におさまった．この北側にも排水管敷設のため，1.8×1.6m の調査区を設けた．掘削深度は最深で1.2m あり，調査区北西隅では地表下0.75m で芳名の彫られた墓石が検出された．墓石の大部分は調査区北壁に埋まっており，工事の施工に影響しないため，写真記録のみ実施し，現地保存した．

この他，アスファルト舗装および縁石設置に伴う調査では，重機により現存の舗装を剝で５㎝程地表面を掘削し，写真記録のみ実施している．検水槽以外の調査区では遺物・遺構の検出はなく，文化層への影響は一切なかった．

４．（黒髪南）国際革新技術研究拠点施設新営電気設備工事に伴う立会調査（1419）

＜調査期間＞

2014年10月10・14日

＜調査面積＞

49.388㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

国際革新技術研究拠点施設の配管およびハンドホール

写真133　南区重機掘削作業風景（東より）

写真134　南区埋設配管配線部分掘削状況（南より）

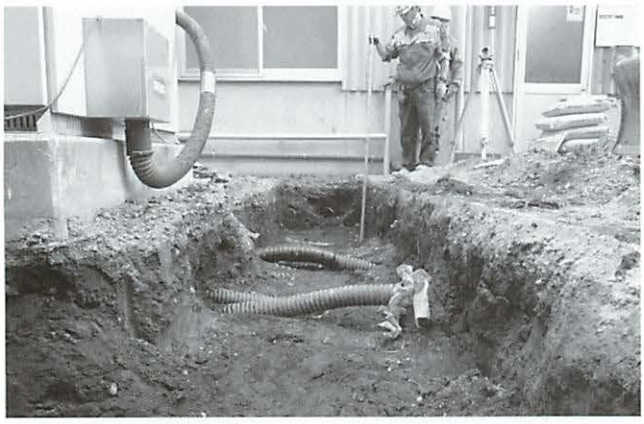


写真135　南区ハンドホール部分掘削状況（西より）

写真136　北区ハンドホール部分１掘削状況（西より）

写真137　北区ハンドホール部分２掘削状況（西より）

埋設に伴う立会である．建物南側では約3×8m の範囲を最深で約1.55m，建物北側では，約5.9×10.8m の範囲を，最も深い場所で地表下1.4m まで掘削をおこなったが，全て現代埋土内におさまった．1309・1418調査地点などの従前の調査で明らかとなった近代の土坑を含む文化層への影響はなく，遺構・遺物も検出されていない．

5．（黒髪南）本部樹木等撤去その他工事に伴う立会調査（1429）

＜調査期間＞

2014年12月12日～継続中

＜調査面積＞

282.40㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

本部棟周辺の樹木，塗装，土間，側溝，雨水桝等の撤去と本部棟内の基礎，基礎梁等設置に係る立会調査を実施した．これらの工事は，建物東西へのスロープ設置と，建物南へのエレベーター増設，建物内部における耐震補強工事の実施に先行しておこなわれた．本調査では，調査範囲を４区に分けた．すなわち建物西側の掘削範囲がⅠ区，建物南側がⅡ区，建物東側がⅢ区，そして建物内の掘削範囲がⅣ区である．また，このうちⅠ～Ⅲ区は，部分的，あるいは広い範囲で1430・1436・1437調査地点と重複していたため，これらの調査地点でも上記区分にならってⅠ～Ⅳ区の名称を使用し，必要に応じて個々の調査区に枝番号を付した．また，このうち1430・1437調査地点と調査範囲が重複するⅢ区については，次年度に調査を持ち越した．

建物西側のⅠ区では樹木，土間，アスファルト舗装の撤去を行い，調査区①・②に区分した．Ⅰ区①は建物南西角のスギの抜根に伴う調査である．樹木周囲を直径約２ｍの円形の範囲で重機や人力によって根を切りながら掘削したところ，深さ約0.4m で包含層と思わしき黒褐色土を検出した．そのため，この深度でチェーンソウによる根の伐採を行い，重機による抜根をおこなった．遺構・遺物は検出されていない．

Ⅰ区②は，土間・アスファルト舗装，桝，樹木の撤去に伴う調査である．東西4.5，南北25m の範囲の土間とＬ字側溝の撤去を重機によって実施した．本調査区は1430・1437調査地点のスロープ設置，給水配管設置の調査範囲とも重複している．また，調査区北西ではイヌマキの抜根を重機によって試みたが，地表下0.4m 程で古代の包含層らしき黒褐色土が検出し，この層に根が深く

食い込んでいたため，人力による包含層の掘削後，根の抜根をおこなう必要があった．本年度は根の周囲の撹乱土を掘削するに留まり，その後の調査は次年度に持ち越した．

建物南側のⅡ区では，浄化槽の撤去，４本のキンモクセイの抜根，加えてモミジの抜根と移植に伴う掘削をおこない，調査区を①～⑦区に区分した．

Ⅱ区①は大型のキンモクセイの抜根に伴う掘削である．樹木の根回りを直径2.8m の範囲で重機と人力による掘削をおこなった．深さ約0.8m で樹木が抜根できたため，掘削を終了した．全て現代埋土で，現代のガラスなどの他に少量の土器片が出土している．また，調査区南壁では４，５段分の赤煉瓦積み基礎が検出された．後述する1430・1436調査地点における調査時に，この赤煉瓦積み基礎が熊本高等工業学校の旧本館に係る遺構と判明し，図面を含む記録保存をおこなったが，当初は，重要な遺構とは判断しておらず，写真記録のみを実施し，立会を終了している．

Ⅱ区②は浄化槽の撤去に伴う掘削である．重機により浄化槽の破砕をおこない，その後瓦礫を取り上げた．撤去の際には掘削が浄化槽の掘方埋土内におさまるよう注意した．遺構・遺物は検出していない．

Ⅱ区③はモミジの抜根に伴う掘削である．樹木の周囲を４×２ｍの範囲を掘削したところ，地表下約0.5m まで現代埋土で，その直下には地山と思われる褐色粘質土層が検出され，この層に根が一部食い込んでいた．また，同レベルで樹木南側の浄化槽に係るコンクリート基礎が検出されたため，重機による撤去をおこなった．この後，遺物の有無を確かめるため根の周囲の褐色粘質土層を10㎝程掘り下げたところで，樹木の移植作業をおこない，掘削状況を記録し，調査を終了した．

Ⅱ区④・⑤・⑥はキンモクセイの抜根に伴う掘削である．いずれの樹木も小型のため，直径約0.5～1.8m，深さ約0.3m の掘削に留まり，重機によって容易に抜き取ることができた．掘削は全て現代埋土中におさまり，遺構・遺物の検出はなかった．

Ⅱ区⑦はモミジの移植に伴う掘削である．２×２ｍの範囲で重機による掘削を実施した．地表下約0.5～0.6m で近世・近代の包含層と思われる暗褐色土を検出したため，人力掘削により撹乱を除去し，暗褐色土を掘り下げた．深さ約0.7m で古代の包含層である黒褐色土を検出し，これを掘り下げたところ，少量の土器片が出土した．深さ約0.8m では，褐色粘質土層を検出し，遺構の精査を行っている．遺構として，調査区東側に南北方向の溝あるいは住居の端と，これに切られたピットを１基検出した．本調査区は，遺構面上面で樹木移植のための掘削深度に達したため，遺構の掘削はおこなわず，写真と図面による現状の記録作業を実施し，調査を終了した．

建物内部のⅣ区は耐震補強に係る基礎，基礎梁等設置に伴う掘削である．西側を①区，東側を②区と区分した．

Ⅳ区①は建物内の２×7.5m の範囲のコンクリート床を撤去し，床下に2.5×7.5m の調査区を設けた．調査区南北端は建物壁の基礎の掘方によって撹乱されていた．また，本部棟の床を支える鉄筋コンクリート製基礎柱が９本あり，その周囲もこれらの掘方によって撹乱していた．これら撹乱土を人力によって掘削したが，建物下の配管や排土の排出に大変な苦労を要した．建物床下のため，表面には細かい砂埃が５～10㎝程堆積しており，その下位には，乾燥した固く密な暗褐土が検出できた．その上面には灰と炭片が薄く堆積している様子も確認できた．本年度の調査では，これら建物の基礎に係る現代埋土を掘削するに留まったが，次年度には，古代と近代の遺構を対象とした発掘調査を実施した．

Ⅳ区②はⅣ区①と同様，建物内の２×7.5m の範囲のコンクリート床を撤去し，床下に2.5×7.5m の調査区を設けた．調査区南北端は，建物壁の基礎の掘方によって撹乱されており，中央部分も２箇所，鉄筋コンクリート

写真138　Ⅰ区①掘削状況（北西より）

写真139　Ⅰ区②重機掘削作業風景（南より）

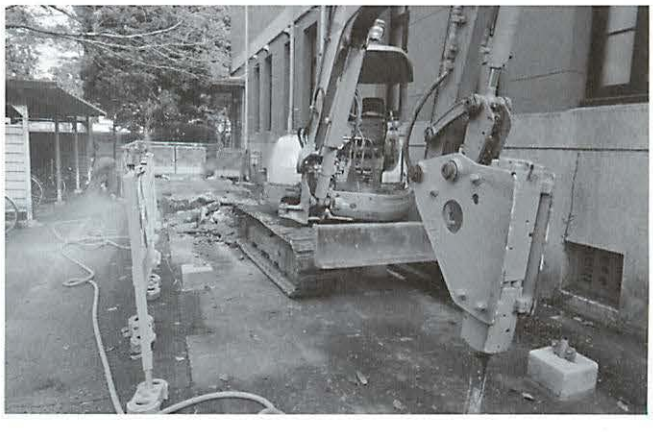


写真140　Ⅰ区②樹木重機掘削作業風景（東より）

写真141　Ⅱ区①掘削状況（北より）

写真142　Ⅱ区①南壁赤煉瓦積み基礎検出状況（北より）

写真143　Ⅱ区②浄化槽撤去作業風景（南東より）

写真144　Ⅱ区③撹乱掘削後褐色粘質土検出状況（南より）

写真145　Ⅱ区③掘削状況（南より）

写真146　Ⅱ区④掘削状況（南より）

写真147　Ⅱ区⑤掘削状況（南より）

写真148　Ⅱ区⑥掘削状況（南より）

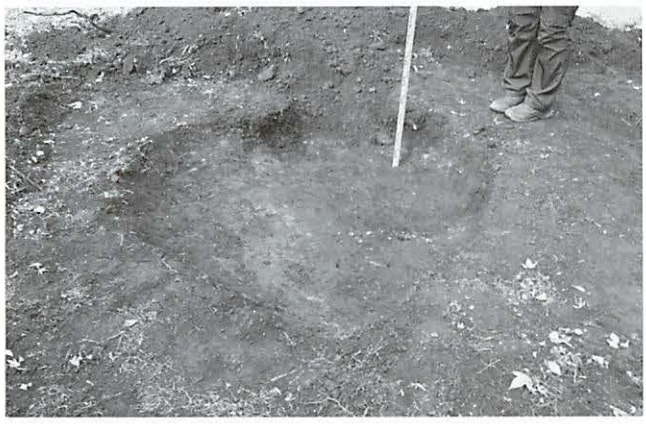


写真149　Ⅱ区⑦重機掘削作業風景（南西より）

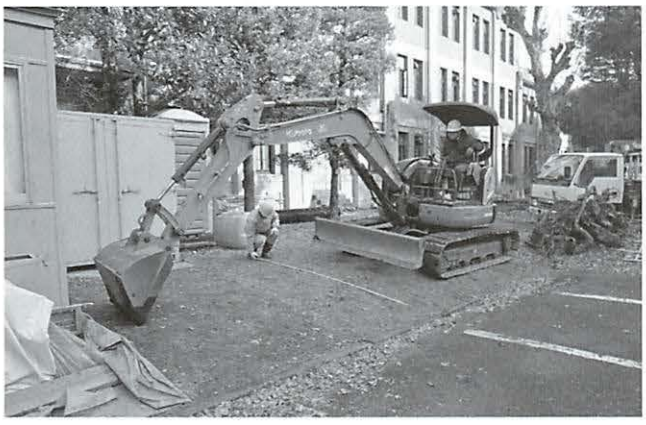


写真150　Ⅱ区⑦遺構検出状況（東より）

写真151　Ⅳ区①南側建物基礎検出状況（東より）

写真152　Ⅳ区②掘削作業風景（南より）

製基礎柱の掘方で撹乱されている．Ⅳ区①と比べると破壊を受けている範囲が少ない．また，基礎柱の掘方埋土を掘削したところ，残りのよい赤煉瓦積み基礎とその掘方が３基確認された．これらは検出した層位や状況から，先述したⅡ区①と，後述する1430・1436・1437調査地点で検出した赤煉瓦積み基礎と同時期のものと推定でき，熊本高等工業学校の旧本館の基礎であることが後日に判明した．これら赤煉瓦積み基礎の調査は，次年度におこなわれたため，来年度の年報にて詳細を記載する．

６．（黒髪南）本部屋外スロープ取設工事に伴う立会調査（1430）

＜調査期間＞

2014年12月12日～継続中

＜調査面積＞

195.77㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

本部棟の東西への塗装，土間，縁石，側溝，雨水排水管，雨水桝，屋外スロープなどの設置に係る立会調査を

写真153　Ⅰ区②表土掘削状況（北より）

実施した．

本調査地点は，建物東側と西側に分かれており，1429・1437調査地点の調査範囲と重複している．調査区西側が1429調査地点のⅠ区②，東側がⅢ区に各々相当する．Ⅰ区②では地表下0.2～0.3mで赤煉瓦積み基礎が南北方向に約６m検出できた．これは1429他調査地点で検出された赤煉瓦積み基礎と同様，熊本高等工業学校の旧本館の西端の基礎と考えられる．これら赤煉瓦積み基礎の調査は，次年度に実施したため，来年度の年報にて詳細を記載する．

７．（黒髪南）黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事に伴う立会調査（1434）

＜調査期間＞

2014年12月22日

＜調査面積＞

77.9㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

黒髪南地区の太陽光発電システムの基礎を設置する工事に伴う立会である．調査はＡ・Ｂ・Ｃ区の３箇所からなる．

Ａ区は水理実験室の南西隅から西へ0.9mの所に位置する．工事は東西3.5m・南北4.5mの範囲の外周に，基礎埋設用の溝を方形に掘削するものであった．溝の幅は0.9m，溝の深さは地表下0.6mで，北東部および南部でコンクリートが検出された．コンクリート以外の部分は配管やそれに伴う現代埋土であった．コンクリートはそのまま残置した．遺構・遺物の検出はなかった．

Ｂ区は理学部３号館の南側に位置する．理学部３号館の南東隅の犬走りに接して，東西4.5m・南北3.6mの範囲の外周に，幅0.9mの溝を掘削した．溝の深さは地表下0.5mであった．北辺および東辺は掘削深度まで全て現代の埋土からなっていた．南辺および西辺の南半では地表下0.4mで，洪水によると思われる砂があり，下で近世～近代の土が検出された．そこで範囲の記録をとり，その後，その土を慎重に掘削深度まで掘り下げた．遺構は検出されず，終了した．遺物は土器片が出土した．

Ｃ区は共用棟黒髪２の北東隅の犬走りからわずかに東に位置する．東西3.5m・南北4.3mの範囲の外周に沿うように，幅0.9mの溝を方形に掘削した．溝の深さは地表下0.5mであった．東辺は栗石を含む攪乱埋土からなり，近代の建物の基礎と思われた．西辺は建物に近いことも

写真154　Ａ区近景（南西より）

写真155　Ａ区掘削状況（南より）

写真156　Ｂ区近景（南西より）

写真157　Ｂ区掘削状況（南西より）

写真158　C区近景（南東より）

写真159　C区掘削状況（北より）

あり，全て現代埋土であった．北辺および南辺も大半は現代埋土であったが，北辺で幅0.5m，長さ0.9m，南辺で幅0.2m，長さ約0.3mの範囲にわたり近世～近代の土の存在を確認した．この土は掘削底面で検出されたもので，掘削により削られることはなかった．遺物の検出はなかった．

8．（黒髪南）黒髪南S1等太陽光発電システム基礎設置その他工事（電気設備）に伴う立会調査（1435）

＜調査期間＞

2014年12月22日，2015年1月16日

＜調査面積＞

46.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・山野ケン陽次郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

黒髪南の太陽光発電システムに係る電気設備を設置する工事に伴う立会である．

調査はA・B・C区の3箇所からなり，その区分は1434調査地点と共通する．B・C区は1434調査地点の掘削と重複し，新たに掘削した箇所は極めて少なく，掘削深度も1434地点より浅かった．本調査で主に調査したのはA区である．

A区は工学研究機器センター東壁と水理実験室の南西部に設置する太陽光発電システムまでの間に電線を設置するための溝を掘削する工事であった．12月22日に工学研究機器センターと水理実験室の間のルート上に1.0×1.0mで掘削をおこなったところ，障害物がみつかった．そこで文化財保護法第93条の申請範囲を西側に変更して再度届出をおこない，1月16日に改めて掘削をおこなった．

A区の工学研究機器センターに近い部分は，同センター東壁から東に向かって直線的に長さ3.3m，幅1.1m掘削した．掘削したのは現代埋土であった．それ以東は南東方向に向きを変えて1.3m掘削した．当該地区東側では地表下0.3mでコンクリートが検出された．掘削深度を0.3mに浅くしても工事はできるとのことであったので，掘削はコンクリート上面までとなった．それ以南は直線的に10m南下し，太陽光システムへつなげるものであった．地表下0.5mまで掘削したところ，当該部分において南北に走る既設ケーブルが3本検出された．それは残置して工事を進められるとのことであったので，掘削は現代埋土を掘ったのみで終わった．また接続のため，1434調査地点の範囲内も1.3m×0.9mの範囲を掘削したが，ここも現代埋土であった．

さらに水理実験室西側0.2mに存在する直径0.7mのハンドホールの蓋をあけるため，ハンドホールの上面付近を0.1m掘削した．現代埋土を少し掘削しただけでハンドホールの蓋を検出することができ，掘削は終了した．

B区は理学部3号館の南側に位置する．1434調査地点で掘削した東西4.5m・南北3.6mの範囲の中央に，幅0.6m，長さ1.2m，L字状に掘削した．掘削深度は地表下0.4mまでであり，現代埋土のみを掘削して，終了した．

C区は共用棟黒髪2の東側に位置する．東西3.5m・

写真160　A区近景（南より）

写真161　A区掘削状況（南より）

南北4.3mの範囲の中央を幅0.6m，長さ1.0m掘削した．掘削したのは現代埋土であった．

以上３箇所を掘削したが，遺構・遺物の検出はなかった．

9．（黒髪南）本部エレベーター棟増築工事に伴う立会調査（1436）

＜調査期間＞

2015年１月７日～継続中

＜調査面積＞

60.3㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

本部棟南側へのエレベーター棟増築に伴う基礎工事と地盤改良に係る立会調査を実施した．

調査は，基礎工事が6.7×９mの範囲を地表下0.7mまで掘削する必要があり，地盤改良が基礎工事の調査範囲内の５×８m，深さ5.5mまで杭打ちがおこなわれる予定であった．さらに，前者の西側は，1437調査地点の排水管設置に伴う掘削範囲と接するため，これら３つの工事範囲をⅡ区⑨として総称し，一括して重機による掘削をおこなった．

調査区南壁側では地表下約0.3～0.4mで５～６段分が積まれた赤煉瓦積み基礎が広い範囲に検出されている．この基礎は東西方向へ約10m伸びており，これに付随する形で中央やや西よりに1×0.9mの赤煉瓦積み基礎が検出された．この他に0.7×0.7mの独立した基礎が，一部破壊を受けているものの３箇所に確認できた．これら赤煉瓦積み基礎は1429・1430調査地点で検出した赤煉瓦積み基礎と同様，熊本高等工業学校の旧本館の基礎と考えられる．

この他，重機掘削中に現代埋土と古代包含層の境目から土師器坏の完形品が出土するなど，古代の遺構の存在

写真162　Ⅱ区⑨重機掘削作業風景（東より）

写真163　Ⅱ区⑨土師器出土状況（北より）

も想定できた．これらの調査は古代の遺構の掘削も含めて次年度におこなっているため，報告は次年度の年報に記載する．

10．（黒髪南）本部改修その他機械設備工事に伴う立会調査（1437）

＜調査期間＞

2015年１月14日～継続中

＜調査面積＞

102.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎．

＜調査概要・結果＞

本部棟周辺の給水・排水管の新設に係る立会調査を実施した．調査は1429調査地点で設定したⅠ・Ⅱ・Ⅲ区に分かれており，1429・1430・1437調査地点の調査範囲と重複する部分があった．本年度は1429調査地点に記載したⅠ区②，および1436調査地点のⅡ区⑨と重複しており，それぞれの調査地点で詳細を記載している．その他，Ⅱ区⑨周辺の給水・排水管の設置に係る掘削やⅢ区の掘削は，翌年度に実施したため，次年度の年報に詳細を記載する．

Ⅱ－3　本荘北地区　（図5参照）

1.（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（舗装・構築物関係）に伴う立会調査（1320）

＜調査期間＞

2014年12月3日・2015年2月23日

＜調査面積＞

3403.4㎡（約20㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

旧中央診療棟東側にある広場を，新しい外来診療棟のロータリーとするため，舗装や車止めの設置工事等をおこなった．また，擁壁やスロープの撤去をおこなった．

車止め設置のための掘削を広場中央と第一立体駐車場南西隅付近でおこなった．広場中央では，車止め設置のための掘削をおこなったところ，地表下0.55mで包含層に達した．遺構がないことを確認して，地表下0.65mまで掘削した．土師器皿が出土した．

第一立体駐車場の南西隅付近では，0.5×0.5mの掘削を3本分おこなった．最も南で地表下1.1mまで掘削した．包含層のような綺麗な土層内までの掘削であった．この土層は，この付近を通る大溝の埋土である可能性が高い．古代の土師器片・須恵器片が出土した．

医学部総合研究棟南側の擁壁撤去も，試掘を行い埋土内で施工できることを確認した．施工業者には慎重に工事を進めるよう指示して，調査を終了した．

写真164　広場中央車止め作業風景（東より）

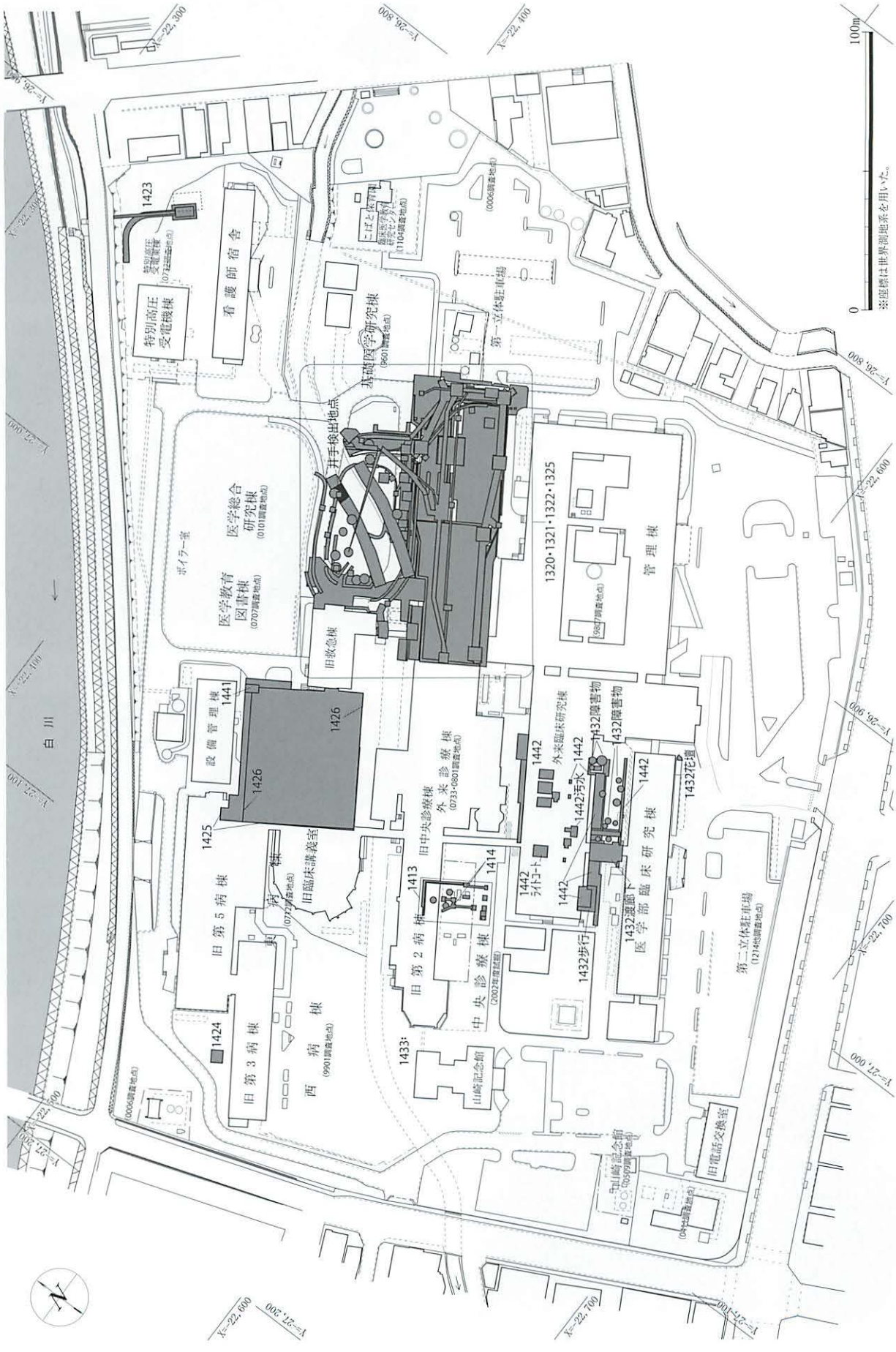
写真165　広場中央車止め掘削状況（東より）

写真166　立体駐車場南西隅車止め作業風景（南より）

写真167　立体駐車場南西隅車止め掘削状況（南より）

写真168　医学部総合研究棟南擁壁試掘状況（東より）

図５　本荘北地区における調査地点配置図（1/2000）



2．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（人孔・雨水管関係）に伴う立会調査・発掘調査（1321）

＜調査期間＞

2014年４月25日～12月９日

＜調査面積＞

1551.5㎡（912.8㎡）

＜調査員＞

大坪志子・西谷彰（九州文化財研究所）・島浦健生・米村大（株式会社有明測量開発社）.

＜調査概要・結果＞

外来診療棟の新営・開院に伴い，旧中央診療棟東側にある広場の東側と南側に雨水管および人孔を設置する工事，またカルバート（暗渠）の改修工事に伴い立会調査を実施し，遺構が検出された箇所については発掘調査に切り替えた．工事の行程に合わせて調査区は全部で43区設定した．

人孔および雨水管は，西側から掘削を開始した．途中までは撹乱により，遺構の検出はなかったが，広場の中央付近より東側で検出された．検出した遺構は古代の住居，柱穴，溝が主で，土師器・須恵器が出土した．墨書や刻書のある土器もある．

カルバート改修では，現在流れる三の井手の右岸と左岸をそれぞれ２分し，４分割で調査をおこなった．このうち，北東に位置するXXX区では，現在の水路・三の井手の脇で，石垣を検出した．石垣は間知石を使用しており，約７ｍの長さを確認した．間知石は控えが長めですぼまらない，やや形態の古いもので江戸時代後期の所産と考えられる．現在の三の井手の前身と考えられ，現在の三の井手がある時期に造り替えられたことが初めて確認された．

写真169　ⅩⅣ・ⅩⅤ区完掘状況（西より）

写真170　XXX区作業風景（北より）

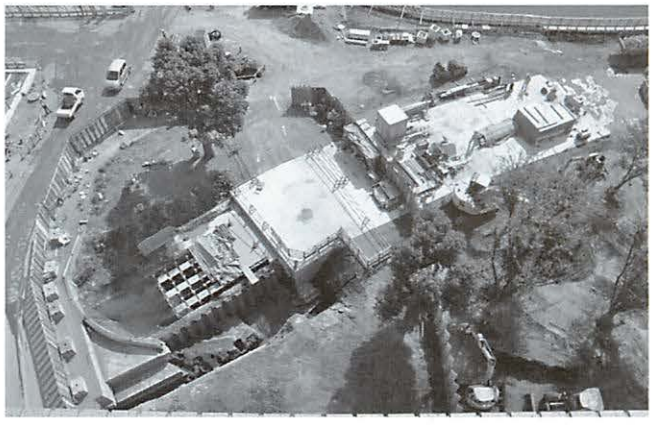


写真171　XXX区三の井手石垣検出作業風景（西より）

3．（医病）環境整備（東側駐車場等）工事（樹木関係）に伴う立会調査・発掘調査（1322）

＜調査期間＞

2014年11月27日～12月２日

＜調査面積＞

230.6㎡（9.42㎡）

＜調査員＞

大坪志子・西谷彰（九州文化財研究所）・島浦健生・米村大（株式会社有明測量開発社）.

＜調査概要・結果＞

旧中央診療棟東側にある広場に植樹されている樹木を移植するため，周囲の掘削に立会った．２本の樹木のうち西側のサクラは，掘削が埋土中におさまった．東側のケヤキは掘削途中で遺構面に達したため，発掘調査に切り替えた．

精査の結果，溝１条と数個のピットが検出された．溝は東西方向に走り，二段掘りになっている．北側の溝の肩は調査区外で，正確な幅は不明であるが，２ｍ程度と予想される．

写真172　サクラ周囲掘削状況（西より）

写真173　ケヤキ周囲作業風景（東より）

写真174　ケヤキ周辺完掘状況（北より）

4．（医病）基幹整備（東側駐車場等）工事（電気）に伴う立会調査・発掘調査　(1325)

＜調査期間＞

2015年６月３日～11月13日

＜調査面積＞

487.7㎡（158.1㎡）

＜調査員＞

大坪志子・西谷彰（九州文化財研究所）・島浦健生・米村大（株式会社有明測量開発社）.

＜調査概要・結果＞

医学部基礎医学研究棟西口付近および第一立体駐車場西側に大型のハンドホールを設置して，新しい外来診療棟東入り口から配線する工事である．1321調査地点と同様に，工事行程にわせて調査区を設定した．

外来診療棟側から掘削を開始した．工事範囲のおおむね東半分で遺物包含層および遺構面・遺構が検出された．一部は，1321調査地点と合同で調査をおこなった．検出された遺構・遺物は1321調査地点と同様，古代の住居や溝，ピットで，土師器・須恵器が出土した．

写真175　広場中央掘削状況（東より）

写真176　基礎医学研究棟西側掘削状況（北より）

写真177　基礎医学研究棟西側作業風景（北より）

5．（医病）中央診療棟東側環境整備工事に伴う立会調査（1413）

＜調査期間＞

2014年７月８・14日

＜調査面積＞

225.4㎡（1.8㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

中央診療棟東側の中庭を整備する事業である．スロープや花壇，集水桝などを設置するが最も掘削深度が深い集水桝の掘削に立会うことにした.

桝は２か所で，1.3×1.3の範囲を0.7ｍの深さまで掘削したが，埋土内であり，遺構・遺物の検出はなかった.

写真178　桝①作業風景（東より）

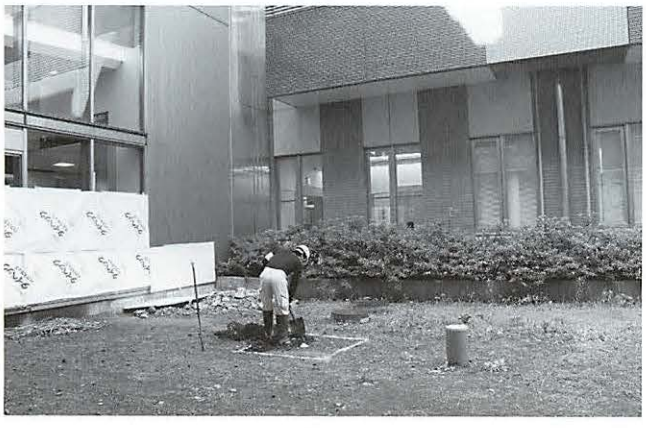
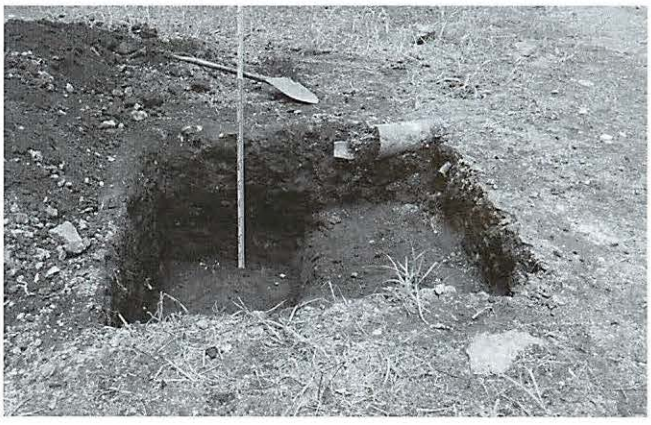


写真179　桝①掘削状況（東より）

写真180　桝②掘削状況（西より）



6．（医病）中央診療棟東側環境整備（機械設備）工事に伴う立会調査（1414）

＜調査期間＞

2014年７月８・14日

＜調査面積＞

21.6㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

中央診療棟東側の中庭を整備する事業である．排水管，雨水浸透桝，給水管などの新設工事であるが，1413調査地点の工事内容のほうが掘削深度が深いため，1413調査地点の試掘で，本調査地点の試掘を兼ねた．給水管の建物への取り込み箇所が深いため，その部分について立会調査を実施した.

1.2×0.8ｍの範囲を地表下0.85ｍまで掘削したが，埋土であった．遺構・遺物の検出はない．これより浅い配管については，そのまま施工良しとした.

写真181　作業風景（北西より）

写真182　掘削状況（北西より）

写真183　作業風景（南西より）

写真184　M１溝掘削状況（南西より）

7．66kV 銀座橋熊大医学部線鉛被 OF ケーブル改修工事に伴う立会・発掘調査（1423）

＜調査期間＞

2014年10月16・17日（継続中）

＜調査面積＞

37.2㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

ケーブル埋設のための竪坑は，地表下17mまでの掘削で，矢板を打ち込むために周囲も地表下１mまで掘削する必要があった．既往の調査において周辺では遺物は確認されるが明確な遺構面や遺構は確認されていないため，4.65×8mの掘削範囲内でトレンチを設定して試掘をおこなうことにした．

調査区の中央を長軸（南東－北西）に沿って掘削すると，地表下0.65mで古代の遺物包含層が検出された．このため，矢板のための掘削でも影響があるため，全範囲を確認することにした．ただし，包含層は次の掘削で一度掘り起こした発生土であることがわかった．

竪坑の範囲を最小限に設定し，4.65×８mの範囲のうち，周囲を0.7m前後の幅で残して中央を掘り下げた．地表下１m程度で一部包含層を検出し，地表下1.2mで遺構面に達し，調査区の南東側で溝が検出された．溝は北東－南西方向を向いている．二段掘りになっており，底は幅0.5m，深さ0.3～0.6mの溝で，上部に向かってなだらかに広がり，左岸は調査区範囲外で不明である．最も深いところでは，地表下約2.6mである．遺物は須恵器・土師器が出土している．付随する工事とそれに伴う調査は来年度まで継続予定である．

8．（医病）枯木除根伐採業務に伴う立会調査（1424）

＜調査期間＞

2014年10月29日

＜調査面積＞

21.16㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

西病棟の北側駐車場にある緑地帯に移植された樹木が，立ち枯れし危険が生じたため撤去をおこなうこととなった．地上部分は伐採し，地中に残った樹根の撤去に立会った．

樹根の周囲を地表下1.1～1.3mほど掘削し，樹根を重機で撤去した．この掘削では，遺物包含層や遺構面に達することはなく，遺物の出土もなかった．既往の調査成果からすれば，本来なら遺物包含層や遺構面に達する深さであった．旧第３病棟・第５病棟に囲まれた箇所であるため，撹乱内であったと考えられる．

写真185　作業風景（北東より）

写真186　樹痕周囲掘削状況（北東より）

写真187　樹痕撤去状況（西より）

9．（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（地下躯体撤去・擁壁設置）に伴う立会調査（1425）

＜調査期間＞

2014年11月17,21,25,26日，2015年２月９日～24日（継続中）

＜調査面積＞

1655㎡

＜調査員＞

大坪志子・松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

臨床研究棟新営工事の本体部掘削に先立ち，シートパイル設置，地上構造物撤去および一部工事用擁護壁設置のための掘削に立会った．

調査区南側中央部で旧第６病棟の地下躯体がシートパイルと交差し障害となるため，先行してシートパイルの工事ができるよう，旧第６病棟の地下躯体の一部撤去のために掘削した．地下躯体から南側に４×３ｍの範囲を掘削した．地表下4.5mまで掘削したが，基礎はまだ下に続く状態であった．この深さでは，遺物包含層および遺構面が残されている可能性はないため，この範囲内で慎重に躯体の撤去をするよう確認した．

写真188　シートパイル部掘削状況（南より）

調査区北西角では，使用しないスロープの撤去と擁護壁設置のための掘削をおこなった．調査区の北西角から東側への擁護壁の予定線上に以前の建築物の地中梁と思われる構造物が検出された．地中梁の東側の一部はすでに遺構面に達する深さである．大半は破壊を受けていることを確認したが，梁の直下に残されている可能性があったため，撤去に際は確認のために掘削した深さを遵守しておこなうよう指示した．東側へ掘削を進めると，新たに構造物が検出された．このため，擁護壁の杭を南側へずらすこととしたが，南側でも障害物が検出されたため，保留となった．これより以東は一部包含層が検出されたため，掘削を止め，本調査をまって工事を再開することとして，先行工事のための立会を終えた．

写真189　地中梁西側確認状況（西より）

その後，地下躯体撤去のための掘削に立会った．

地下躯体のうち西側の外壁基礎については東病棟がある関係で，撤去されていたため，旧第６病棟の南西側・南東側・東側・北側の基礎が撤去対象となった．南西側部分は建物の基礎支柱が残っており，支柱の撤去とシートパイル打設のため，支柱より南側へ3.7～4.5mの範囲を長さ約20mにわたり，最深部が地表下3.0～6.0mになるまで掘り下げた．掘削したのは全て現代埋土であった．南東側部分は幅3.7m，長さ約24mを，深さ地表下3.0mまで掘削した．ここには南北方向に走るコンクリート基礎が数本残っており，コンクリートは地表下3.0m以上を斫りで撤去するとのことであったので，コンクリート以外の土の部分を掘削した．掘削したのは全て現代埋土であった．

写真190　調査区近景（南西より）

写真191　南側部分掘削終了状況（東より）

東側部分は旧救急棟の西側に当たる．幅約２m，長さ約20mを，深さ３mまで掘削した．南端から6.9mの所に長さ７mのコンクリート基礎が埋まっていた．コンクリート基礎は地表下３m以上を斫りで撤去するとのことであったので，掘削はコンクリート基礎以外の土に関しておこなった．掘削したのは現代の埋土であった．

北側部分は地下躯体撤去および擁壁設置のための掘削部分である．旧第６病棟跡地と設備管理棟の間に位置し，西側に所在する東病棟を起点に，東西長さ48mまでが掘削対象であった．そのうち東病棟東壁から東へ９m付近には検水槽を設置するため，検水槽付近の約８m×６mの範囲を深さ1.9mまで掘削する工事に立ち会った．この北側部分西部の調査範囲の西半は地下に埋設された共同溝掘削に伴う現代埋土のみであったが，東半では地表下1.0mで古代の包含層が確認された．包含層を少し掘り下げたところ，黄褐色砂質土を検出面として古代の遺構を検出した．そこで熊本市教育委員会文化振興課職員に現地確認を得，立会のまま記録調査を進めることになった．当該部分で確認した遺構は竪穴住居２基，溝状遺構１条，ピット20基であった．このうち溝状遺構は当該部分の東側に存在し，北北西－南南東方向に走るものであり，竪穴住居２基を切って構築されていることを確認した．包含層・遺構が検出された部分はそれらを調査し，土師器や須恵器が出土した．その後，地山の黄褐色砂質土を地表下1.9mまで掘り下げた．黄褐色砂質土には遺構はなく，当該部分の調査を終了した．

写真192　北側部分西部遺構全景（西より）

写真193　北側部分西部竪穴住居・溝状遺構（南より）

写真194　北側部分検水槽以東撹乱（東より）

写真195　北側部分検水槽以東建物基礎（東より）

北側部分の検水槽以東は，東病棟北壁の延長線以南２～５ｍまでの間の幅約３ｍを調査した．当該部分も深さ1.9mまで掘削する工事であったが，大部分は撹乱で，東病棟東壁から44～48mの範囲にのみ遺構や包含層が存在した．遺構は地表下約0.8mで近世～近代と思われる栗石の集積を伴う建物基礎を２箇所検出した．２基の基礎は長方形をなし，北側の基礎と南側の基礎がお互いに平行するものであったが，南側に存在する建物基礎はＬ字状に曲がって1426調査地点で検出された建物基礎につながっていた．この建物基礎は古代の包含層を削平して構築されていた．また古代の包含層直下の地表下１ｍ付近には，明るい黄褐色砂質土が存在していた．

この黄褐色砂質土を掘り込んで古代のピット３基が検出された．そのうち１基は規模が大きく，1426調査地点で別に発見された大型柱穴と南北線上に並ぶため，掘立柱建物と考えられた．遺構が検出された部分は遺構の調査後，砂質土層を地表下1.9mまで掘り下げた．黄褐色砂質土は若干の暗い部分を挟んで地表下1.6mまで続き，そこから下にはにぶい黄褐色の硬い砂層が存在していた．最下層には硬い暗褐色土層が存在したが，遺物は出土しなかった．地表下1.9mまで掘り下げ，最下底面に遺構が無いことを確認し，調査を終了した．

遺物は古代の包含層や遺構から土師器・須恵器が，建物基礎を覆う土層などから近世以降の陶磁器などが出土した．

10.（本荘北）臨床研究棟新営その他工事（本体工事）に伴う立会調査・発掘調査（1426）

＜調査期間＞

2014年11月17日，12月24～2015年１月９日，２月９～24日（継続中）

＜調査面積＞

2141㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

臨床研究棟本体を建設する工事に伴い立会を実施した．臨床研究棟本体建設予定には以前第６病棟が存在し，第６病棟には地下室があった関係で，大部分は調査の必要がなかった．しかし臨床研究棟建設予定地は第６病棟所在地の北側にも延びているため，本体工事エリアの北側は立会調査の対象域とした．

調査の結果，東病棟東壁直下から東側へ13mにかけて

写真196　北東部近景（東より）

は，東病棟北壁の延長線から南へ約５ｍまでの間で，古代の遺物包含層および遺構が残存していることが明らかになった．包含層は地表からの深さ0.8mにおいて，幅３ｍ，長さ11mの規模で存在していた．それ以南は攪乱が深く，旧第６病棟の壁から約３ｍまでは第６病棟建設時の掘削で壊されていることが判明した．そこで熊本市教育委員会文化振興課および熊本県教育庁文化課の許可を得，12月26日より発掘調査に切り替えて調査をすることになった．当該区で確認された遺構は，近世以降の栗石を伴う建物基礎２基，古代の竪穴住居３基，溝状遺構１条，ピット31基であった．溝状遺構は北北西―南南東に軸をもつものであった．竪穴住居は掘方がかろうじて確認されたのみであった．遺構からは土師器や須恵器が出土した．

また東病棟東壁直下を起点として東へ14mから44m付近にかけては攪乱が深くまでおよんでいた．また東病棟東壁から東へ44mから47m付近において，東西方向３ｍ，南北方向４ｍの範囲にわたって地表下0.8mで栗石を伴う近世～近代の建物基礎とその直下の古代遺物包含層が確認された．そのうち建物基礎は1425調査地点で検出された南側の建物基礎と連続するものであった．また当該部分では，古代の遺物包含層を少し下げた段階で，ピットが９基確認された．そのうちの１基は規模が大きく，隣接する1425調査地点で確認された大型ピットと共に南北線上に並ぶことから，掘立柱建物の柱穴であると考えられた．古代の遺構の調査終了後，地山を掘り下げた．当該地区も1425調査地点同様，地表下1.2mで黄褐色砂質土層になり，同1.6mでにぶい黄褐色の硬い砂層に移行していた．地表下1.9m付近には硬い暗褐色土層が存在したが，同層からは遺物は出土せず，調査を終了とした．

写真197　東病棟東壁東13m付近遺構全景（西より）

写真198　東病棟東壁東44m撹乱掘削状況（東より）

写真199　東病棟東壁東47m付近遺構全景（南より）

11.（医病）管理棟改修その他工事（撤去）に伴う立会調査（1432）

＜調査期間＞

2014年12月18・19日，2015年１月23日，２月16日（継続中）

＜調査面積＞

279.70㎡

＜調査員＞

松田光太郎・山野ケン陽次郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）・阿比留史朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

外来臨床研究棟を管理棟に改修するため，不要な構造物を撤去する工事に伴い実施した立会である．2014年度内に調査した箇所は，外来臨床研究棟南西部南端の歩行訓練施設撤去部分，医学部臨床研究棟前の花壇部分，外来臨床研究棟と医学部臨床研究棟の間の中庭の障害物撤去部分，外来臨床研究棟中央南側の渡り廊下撤去部分の４箇所からなる．

歩行訓練施設撤去部分の工事は東西9.3m，南北6.3mの範囲にある長方形の基礎の撤去であった．コンクリート基礎を撤去するため，コンクリート部分とその外側を含め，幅0.6～0.8mの部分を深さ0.55mまで掘削し，コンクリート基礎を露出させた．掘削したのは現代埋土のみであった．その後基礎は重機の先に取り付けたハサミで割り壊した．

医学部臨床研究棟前の花壇部分は，三角形に張り出した花壇先端3.5m×3.5mの範囲の撤去工事であった．花壇縁石部分および花壇中央部分において，一辺0.4～0.6mの方形の範囲内を深さ最大0.6mまで，スポット的に３箇所掘り下げた．縁石部分は0.3m掘り下げた段階で縁石を抜き取ることができ，掘削を終了した．花壇中央部分は，花壇地表面下0.3mまでは花壇埋土，その下0.6mまでは旧表土が存在していた．その他の部分も含め，掘削は遺跡に影響しないと判断し，工事業者に花壇全体の掘削の了承を伝え，当該部分の立会を終了した．

中庭の障害物撤去部分は西側のコンクリート壁基礎１箇所，庭石６箇所，樹木６箇所からなっていた．コンクリート壁基礎はコンクリート部分を含め，長さ11mにわたり，幅1.8m，深さ0.6～0.7m掘削し，コンクリート壁基礎を露出させるための掘削をおこなった．掘削したのは現代埋土であった．その後は重機のはさみで基礎を破壊し，撤去した．庭石は６箇所にある13個の石の周りを

写真200　調査区近景（東より）

写真201　歩行訓練施設撤去部分掘削状況（南より）

写真202　花壇部分掘削状況（南より）

写真203　障害物撤去部分庭石掘削状況（西より）

写真204　渡り廊下中央部南半掘削状況（北より）

地表下0.3～0.6m掘削した．掘削したのは現代埋土であった．石はその後重機で除去した．樹木６箇所のうち５箇所に関しては地表下0.4～0.6mまで掘削し，抜き取った．掘削したのは現代埋土のみであった．残りの１箇所は竹の除去のため，外来臨床研究棟南壁に平行して幅3.7m，長さ21.4mの範囲を掘削する工事であった．１箇所掘削した結果，深さ0.5～0.8mの現代埋土を掘削すれば除根できることがわかり，その他の部分の掘削も遺跡に影響ないと判断し，当該部分の工事を慎重に進めるように指示し，立会を終了した．

渡り廊下撤去部分は東西幅3.25m，南北長11.6mの範囲に設置された渡り廊下の基礎を撤去する工事であった．基礎はコンクリート壁体が東西両側縁に，平行するような形で，埋設されていた．掘削したところ，基礎壁体間は深さ2.4mまで攪乱埋土となっていた．撤去工事は壁体間内部の攪乱埋土を除去し，重機で壁体を内側に倒すようにして撤去した．

遺構・遺物の検出はなかった．

12.（医病）案内板設置業務に伴う立会調査（1433）

＜調査期間＞

2014年12月19日

＜調査面積＞

2.0㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

中央診療棟西側の時間外出入口南側に案内板を設置する工事に伴う立会である．

看板の基礎を設置するために掘削した箇所は南北２箇所である．北側の箇所は時間外出入口前の通路から南に2.8m，西側の花壇縁石から東に0.5mの位置に径0.25m，深さ0.75mの穴を掘ったものである．地表下0.4mまでは

写真205　調査区近景（西より）

写真206　掘削状況（南より）

花壇の表土，その下0.55mまでは砕石が入っており，その下の土も小石の混じる現代埋土であった．

南側の箇所は北側の穴より1.5m南に位置する．径0.25mの穴を地表下0.75mまで掘削した．地表下0.35mまでは花壇の表土，0.5mまでは砕石，その下は現代の埋土であった．

遺構・遺物の検出はなかった．

13.（本荘北）臨床研究棟新営機械設備工事に伴う立会調査（1441）

＜調査期間＞

2015年２月12日

＜調査面積＞

40㎡

＜調査員＞

松田光太郎・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

建設中の臨床研究棟用の配管を設置する工事に伴う立会であった．既設配管を探し，その配管に新規配管を接続するための工事であった．掘削した場所は設備管理棟南東隅から西へ3.0m，南へ3.7mの所に位置する．1425調査地点に重複する部分と，その東側からなる．

1425調査地点に重複する部分は東西長2.6m・南北幅0.4m，深さ地表下0.7～0.85mまで掘削し，既設水道管を検出したが，目的の水道管ではなかった．掘削したのは全て現代埋土で，水道管の掘方には山砂が入っていた．

1425調査地点の東側は，新たに東西長約2.1m・南北幅約0.9m，深さは地表下0.6～0.8mまで掘削した．地表下0.8mで，Ｔ字状に交わる配管を検出したが，これも目的の配管ではなかった．そこでその場所の北隣に0.7×0.5mの範囲を方形に地表下0.8mまで掘削したところ，東西に走る水道管を検出した．この水道管は現在使用中の目的の水道管であり，それまでに掘削したスペースが

写真207　調査区近景（西より）

写真208　1425調査地点重複部分掘削状況（東より）

写真209　水道管掘削状況（南より）

あればこの配管に接続する工事はできるとのことであったので，掘削はこれ以上おこなわないことになった．掘削したのは現代埋土のみであった．

遺構・遺物の検出はなかった．

14.（医病）管理棟改修その他工事に伴う立会調査（1442）

＜調査期間＞

2015年２月25日（継続中）

＜調査面積＞

563.4㎡

＜調査員＞

松田光太郎・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

外来臨床研究棟を管理棟に改修する工事に伴う立会である．ライトコート基礎および汚水ピットの掘削に立ち会った．

ライトコートは地表下2.1ｍを掘削上面として掘削した．掘削箇所は４箇所あるが，東西両端２箇所の掘削に立ち会った．西端のものは5.0×3.7ｍの範囲を掘削するものであったが，その中でも最も深く掘削される部分の2.2×1.6ｍの範囲を深さ2.7ｍ掘削した．掘削したのは全て現代埋土であった．東端のものは1.5×1.6ｍの範囲を深さ2.7ｍ掘削した．こちらも掘削したのは現代埋土であり，遺構・遺物の検出はなかった．これら２箇所のライトコート基礎部分は掘削上面が地表下2.1ｍと深い上，掘削の結果，地下深くまで現代埋土が存在していて，遺構・包含層は存在しないので，他の部分の掘削も遺跡に影響しないと判断し，ライトコート全体の掘削を了承し，現地を工事業者に引き渡した．

汚水ピットは汚水ピット予定地3.7×1.9ｍの範囲を有していたが，床のコンクリートを剥がし，0.7ｍ四方，

写真210　調査区近景（北西より）

写真211　ライトコート西端掘削状況（南西より）

写真212　汚水ピット掘削状況（北より）

深さ0.7mの掘削をおこなった．結果，床面下0.4mまではコンクリートが存在し，その下0.7mまでは黒褐色砂質土が存在した．砂質土中には高師小僧が含まれていたが，遺構・遺物の検出はなかった．ここはライトコートより１階下にあたり，この砂質土は自然の堆積物と考えられた．掘削は遺跡に影響ないことから，汚水ピット全体の掘削を慎重に進めるよう指示し，立会を終了した．

Ⅱ－４　本荘中地区　（図６参照）

１．（本荘中）国最先端医学研究拠点新営その他工事（外構工事）に伴う立会調査（1406）

＜調査期間＞

2014年4月18日，５月19日

＜調査面積＞

1672.7㎡

＜調査員＞

大坪志子・山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

国際先端医学研究拠点新営に伴う，アスファルト舗装，インターロッキング舗装や縁石，Ｕ字溝，集水桝の設置，植樹に係る立会調査を実施した．まず，新営建物北側に側溝を通すための立会を実施した．３箇所に試掘トレンチを設定して，それぞれ0.8×0.7ｍの範囲を掘削した．0.6～0.7ｍの深さまでを掘削したが，各地点とも埋土内でおさまり，遺構・遺物の検出はなかった．旧医学部講義棟の南では集水桝とこれに伴うＵ字溝の設置のため，３箇所に試掘坑を設置，掘削した．集水桝設置地点には既存の管が埋設されていたため，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，掘削位置を東へ３ｍ程ずらすなど掘削範囲の変更が生じた．集水桝設置箇所には約1.1m × 0.8m の試掘坑を設け，地表下約1.1m まで掘削したが，全て現代埋土であった．また，Ｕ字管設置箇所には約５ｍ間隔で約1.5m × １ｍの２つの試掘坑を設けた．地表下約0.7m まで掘削したが，いずれも近代埋土であった．

国際先端医学研究拠点の南側において，東西方向４箇所で集水桝の設置に伴う立会を実施した．いずれも約１ｍ ×1.4m で，地表下0.75m まで掘削をおこなったが，全て現代埋土であり，最下層には山砂が堆積していた．

建物東側では，南北方向３箇所で植樹に伴う立会を実施した．いずれも直径約２ｍの円形で，地表下約0.5m まで掘削をおこなったが，全て現代埋土であった．

新営建物北側では，側溝を通すための掘削に伴う立会を実施した．３箇所に試掘トレンチを設定して，それぞれ0.8×0.7ｍの範囲を掘削した．0.6～0.7ｍの深さまでを掘削したが，各地点とも埋土内でおさまっている．

この他，アスファルト舗装，インターロッキング舗装，縁石，ブロックの設置に係る掘削が，建物周辺の広い範囲でおこなわれたが，従前の調査および今回の立会の結果，全地点で地表下0.5～0.7m まで現代埋土であることが確認できたため，文化層への影響は一切ないと判断し，工事業者に慎重に掘削するよう指示した．いずれの調査

写真213　中央試掘地点作業風景（北より）

写真214　中央試掘地点掘削状況（南より）

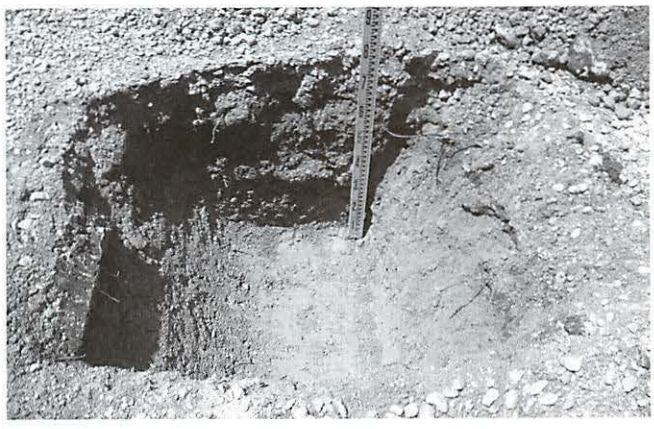


写真215　西側集水桝部分重機掘削作業風景（北東より）

写真216　西側集水桝部分掘削状況（南西より）

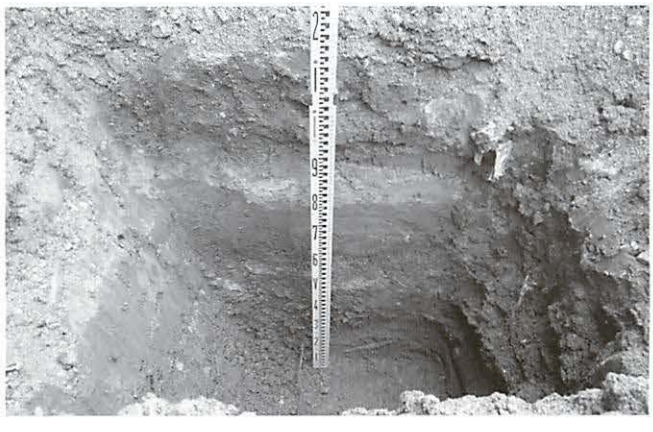


図６　本荘中・南地区における調査地点配置図（1/2000）

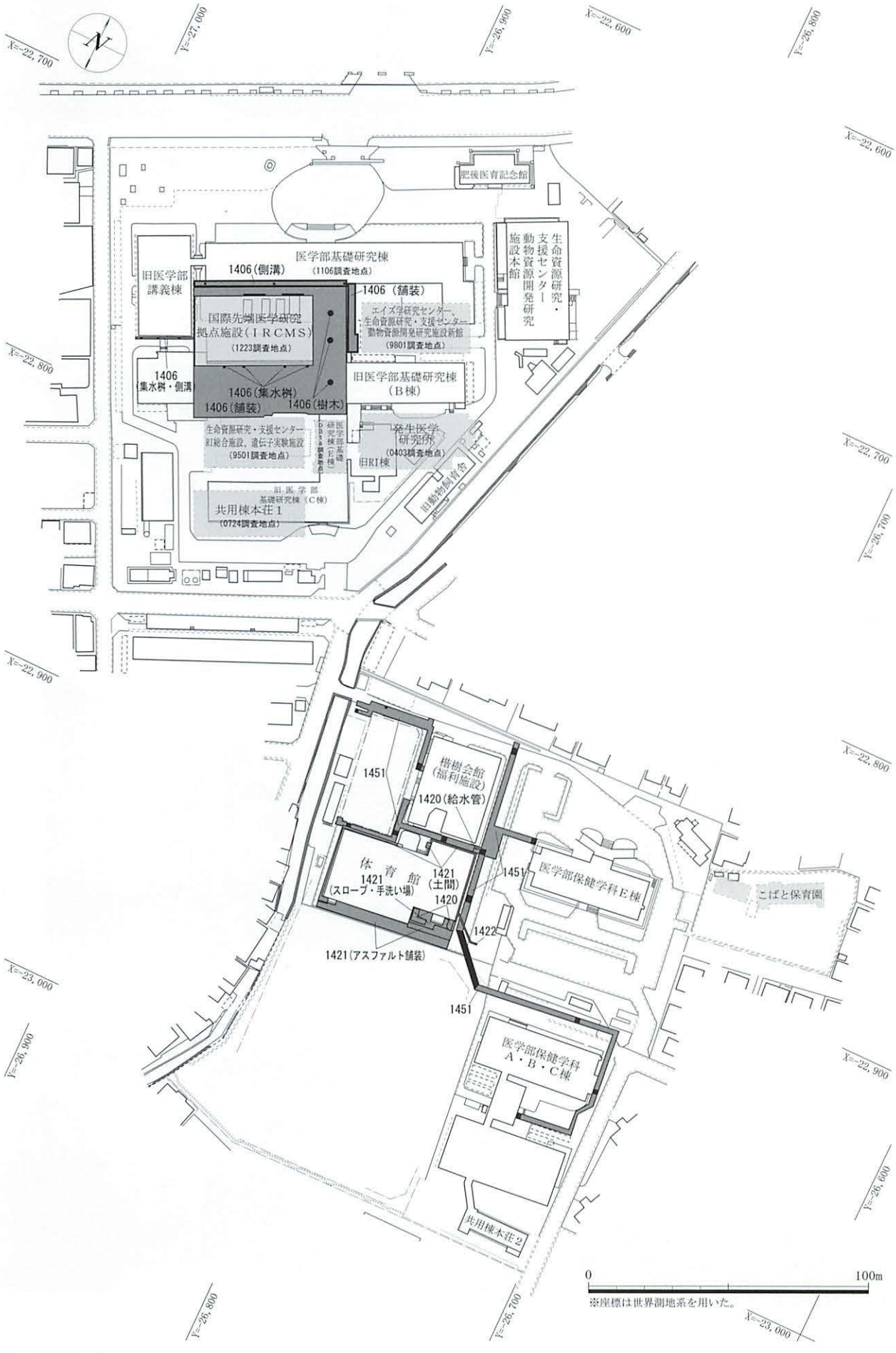


写真217　南側集水桝部分重機掘削作業風景（北西より）

写真218　南側集水桝部分掘削状況（南西より）

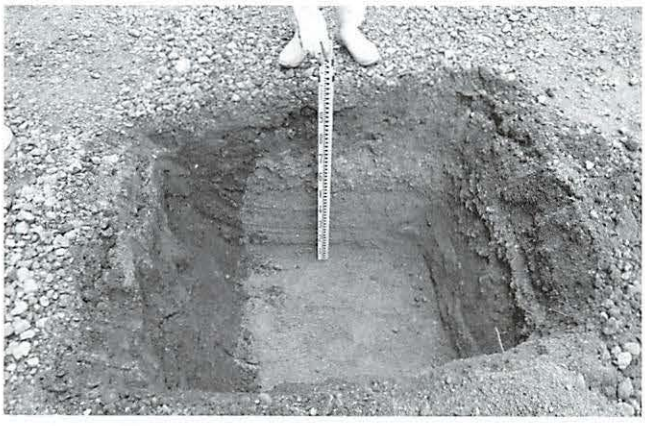
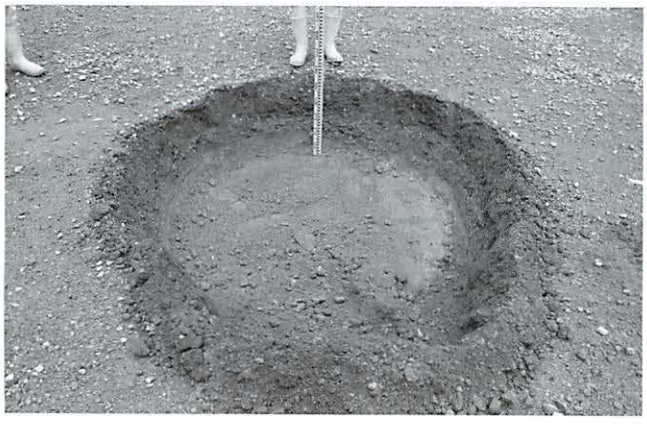


写真219　植樹部分重機掘削風景（東より）

写真220　植樹部分掘削状況（北西より）



でも遺構・遺物は検出されなかった.

Ⅱ－5　本荘南地区　（図6参照）

1．（本荘南）体育館改修機械設備工事に伴う立会調査（1420）

＜調査期間＞

2014年10月14日

＜調査面積＞

26㎡（0.16㎡）

＜調査員＞

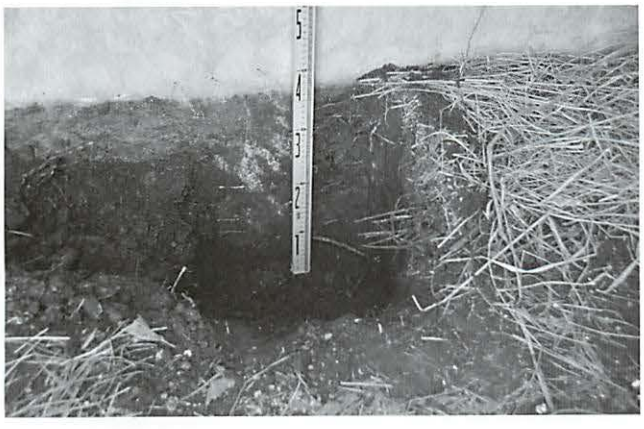
大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区の体育館改修に伴う屋外排水・給水工事である．掘削予定範囲は，体育館の南側でスロープ設置・手洗い場設置箇所と重複する．体育館北東角の給水管撤去の掘削について立会を実施した．建物に沿って0.4×0.4mの範囲を試掘した．その結果地表下0.25mで撤去予定の管を検出した．管の埋設深度が浅く，建物の掘方内でもあるため，遺物包含層や遺構面には影響ないと判断した．遺物の出土もない．

写真221　作業風景（北より）

写真222　掘削状況（北より）



2．（本荘南）体育館改修工事に伴う立会調査（1421）

＜調査期間＞

2014年10月14・15日

＜調査面積＞

320.02㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区にある体育館の改修工事のなかで，掘削深度が最も深い手洗い場設置部分，スロープ新設部分の掘削に立会った．

第2体育館南側入り口にある階段を挟んで西側にスロープを，東側に手洗い場を新しく設置する工事である．地表下0.85mまで掘削をおこなった．いずれも埋土内に収まり，遺物包含層および遺構面には達しなかった．このほかのインターロッキング・土間設置・アスファルト舗装等の工事は，掘削深度が0.85mより浅く，既往の調査成果からも遺物包含層・遺構面には達しないと判断し，施工よしとした．

写真223　作業風景（東より）

写真224　調査範囲東側掘削状況（東より）

写真225　調査範囲西側掘削状況（南東より）

3．（本荘南）体育館改修電気設備工事に伴う立会調査（1422）

＜調査期間＞

2014年10月14日

＜調査面積＞

6.48㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

第二体育館の東南角から，東南側道路上に設置されている桝の間に電線を通す工事である．幅0.8m，深さ0.7m前後で掘削をおこなった．古代の遺物包含層および遺構面は検出されなかった．全体として砂質の綺麗な土層で，本荘南地区の遺構面はこのような土層である可能性も考えたが，今回の掘削範囲で遺構は検出されなかった．

写真226　作業風景（南東より）

写真227　掘削状況（南西より）

4．（本荘南）ポンプ室設備及び給水設備取替工事に伴う立会調査（1451）

＜調査期間＞

2014年５月２日

＜調査面積＞

180㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

本荘南地区において，ガスおよび井水配管のために，総延長360mを掘削した．

テニスコート周辺，楷樹会館周辺，体育館周辺，医学部保健学科Ａ棟周辺について14地点で試掘をおこなった．いずれも，地表下0.8m前後の掘削をおこなった．既往の配管工事と重なる地点も多く，建物に隣接し掘方におさまる箇所もあった．全ての地点で埋土内であり，包含層及び遺構面に影響は与えないと判断した．遺物の出土もなかった．

写真228　楷樹開館西側掘削状況（南より）

写真229　A 棟東側作業風景（北より）

写真230　⑦ A 棟東側掘削状況（北より）

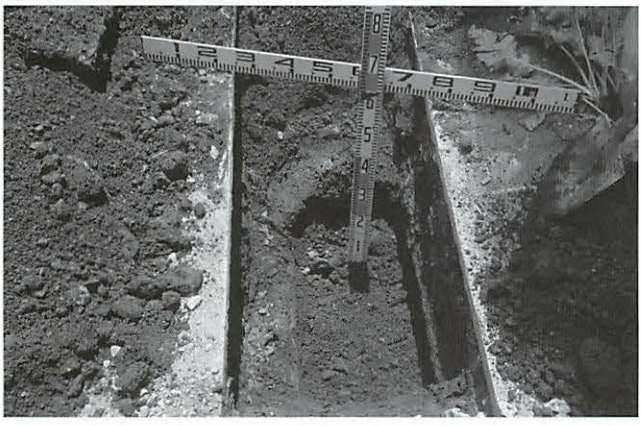


写真231　体育館東側作業風景（南より）

写真232　体育館東側作業風景（東より）

Ⅱ－6　大江地区（薬学部）（図7参照）

1．（大江北）体育館改修その他工事に伴う立会調査（1402）

＜調査期間＞

2014年4月11日

＜調査面積＞

60.80㎡（0.64㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育館の西側南部にスロープを設置する予定の箇所で，試掘をおこなった．既存の階段のコンクリート基礎を撤去して，その下の砕石をある程度除去したが，今回の工事で必要な掘削深度では砕石の中でおさまった．文化財への影響はなく，施工良しとした．

体育館南側のフェンス基礎の撤去について，一か所試掘・撤去をおこなった．基礎の周囲を0.9×0.4mの範囲，地表下0.5mまで掘削して基礎を引き抜いた．作業は埋土内におさまった．他の基礎も同様に撤去するよう指示し，立会を終了した．

写真233　スロープ部作業風景（西より）

写真234　スロープ部試掘状況（西より）

写真235　フェンス基礎撤去掘削状況（東より）

2．（大江北）体育館改修その他工事（機械設備工事）に伴う立会調査（1403）

＜調査期間＞

2014年4月14日～16日

＜調査面積＞

414.00㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

体育館周辺に，ガス管・給水管・汚水管・雨水管・消火管・桝類を埋設する工事である．汚水管以外については11箇所に試掘地点を設けて調査をおこなった．

体育館西側では6箇所において試掘をおこなった．地表下0.8mまで掘削したがいずれも埋土内であった．④は水道管の接続のためで，作業に十分な深さで掘削は終了した．⑤はガス管の接続のため，作業に十分な1.4mまで掘削して終了した．⑥も止水した水道管を検出して終了した．いずれも掘削は埋土内である．

体育館南側では，3箇所において試掘をおこなった．汚水管が最も深く，そのルート上2箇所（⑦⑧）で地表

写真236　④体育館西1作業風景（北西より）

図7　大江地区（薬学部）における調査地点配置図（1/2000）

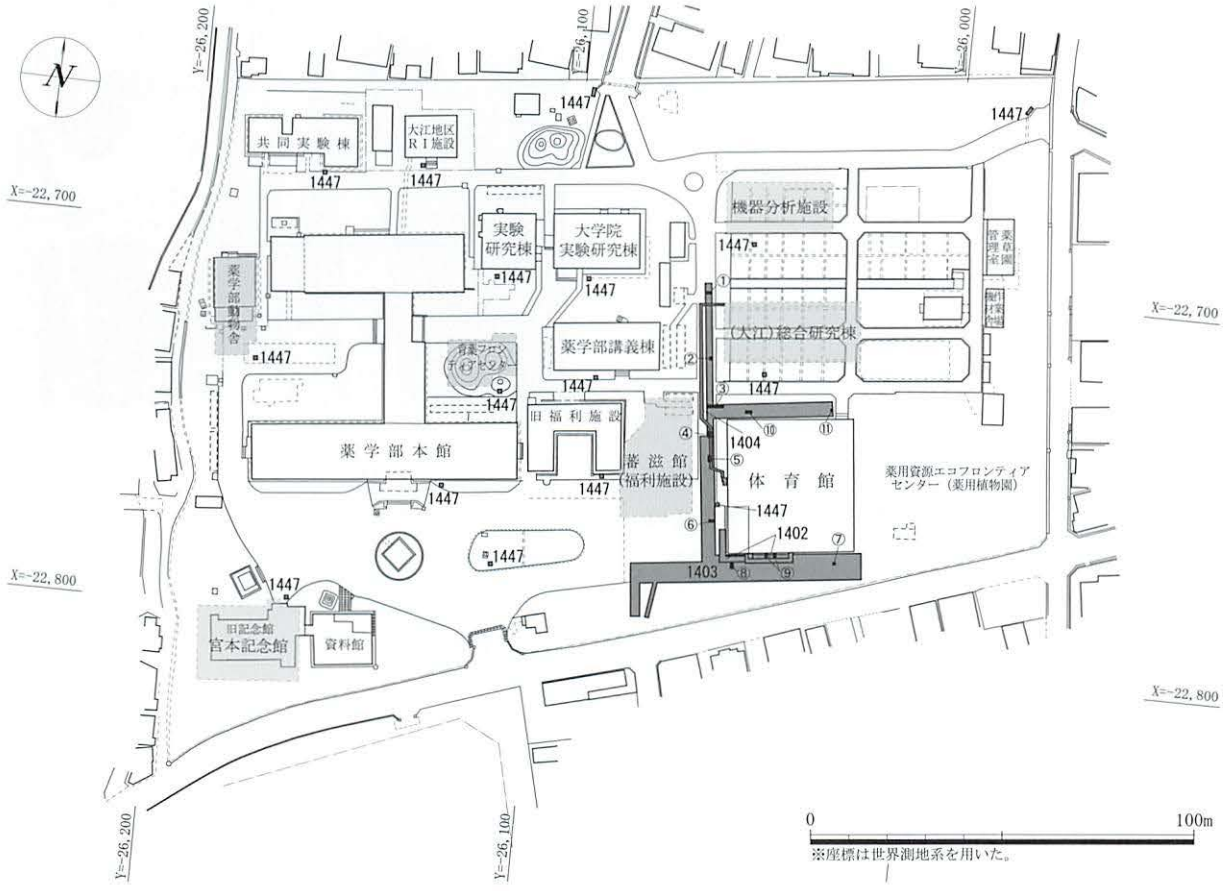


写真237　④体育館西１掘削状況（北より）

写真238　⑤体育館西２掘削状況（西より）

写真239　⑧体育館南西部試掘作業風景（東より）

写真240　⑧体育館南西部掘削状況（南より）

下0.65m前後まで掘削したが埋土内であった．体育館への管類の引き込みは，体育館建設時の掘方内で，やはり埋土内であった（⑨）．

体育館北側では，雨水桝の撤去を行い２箇所で試掘をおこなった．⑩⑪ともに埋土内である．北側に通す雨水管・汚水管は西側ほど深くなる．このため③で最も深くなるため，③での試掘結果から判断した．

体育館南西部の汚水桝は，地表下約1.1mで包含層を検出した．さらに掘削すると地表下1.65mで遺構面を検出した．調査区東壁下で幅0.2m，深さ0.1m程度の溝状の掘り込みを検出したが，遺構であるか判断できない．遺物は出土しなかった．

この桝から西側へ管路を掘削した．地表下0.9～1.0mまで掘削し，包含層上面を検出した．遺構は検出されなかった．工事としてはさらに掘削し，地表下1.3mまで掘削した．遺構面には達しなかった．

次の桝も地表下1.0mで包含層を検出し，さらに掘削して1.4mで遺構面を検出した．遺構は確認されなかった．

遺物としては，埋土と包含層から古代の土師器・須恵器の砕片が出土した．

写真241　汚水桝掘削作業風景（西より）

写真242　汚水桝遺構面検出状況（南より）

写真243　汚水管路掘削状況（西より）

３．（大江北）体育館改修電気設備工事に伴う立会調査（1404）

＜調査期間＞

2014年４月14日

＜調査面積＞

44.29㎡（0.6㎡）

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

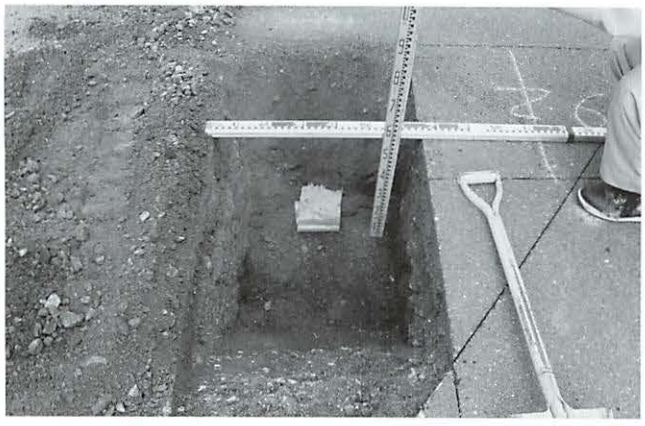
総合研究棟と体育館第一体育室西側の間を繋ぐ通信ケーブルを埋設する工事である．

それぞれ建物の西側から取り出し，道路を縦断するルートで繋ぐ．このうち，体育館付近は機械設備工事で同様の地点を掘削し，また電気工事より深いので，総合研究棟付近を試掘することにした．南北のルートの北端部を0.6×1.0m，深さ0.55㎥掘削した．この下に，別の電気配線が敷設されており，ルートの半分はこの配線の掘方内におさまることが判明した．

体育館付近は，電気の掘削予定地表下0.6mでは，埋土内であることが確認されたため，施工良しとした．

写真244　作業風景（北東より）

写真245　掘削状況（南より）



4．（黒髪他）屋外サイン設置工事（大江）に伴う立会調査（1447）

＜調査期間＞

2015年３月３日

＜調査面積＞

32.6㎡（3.91㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

大江地区のサイン設置工事は，全部で16箇所に設置したが，このうち文化層に影響が及ぶ可能性がある北門と東門付近の２か所について立会を実施した.

北門前は，北門から南に3.5m程の地点の緑地帯を掘削した．掘削途中で電気配線が検出されたため，北へ0.5m位置を変更した．0.9×2.3m の範囲を0.6mの深さまで掘削したが，埋土内でおさまった.

東門前は，東門から東に５m程の地点の緑地帯を掘削した．掘削途中でヒューム管が検出されたため，北側へ0.5m位置を変更した．0.8×2.3mの範囲を0.55mの深さまで掘削したが，埋土内でおさまった.

遺構・遺物の検出はない.

写真246　北門前作業風景（南東より）

写真247　北門前掘削状況（南より）

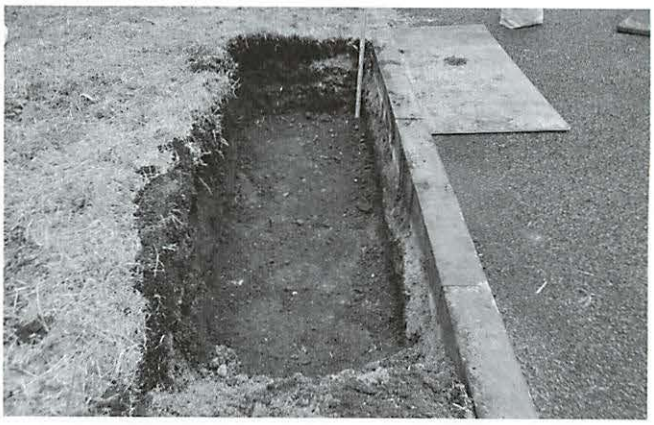


写真248　東門前作業風景（南東より）

写真249　東門前掘削状況（東より）

Ⅱ－7　京町地区　（図８参照）

１．（京町）教育学部附属中学校卒業記念樹再植樹に伴う立会調査（1405）

＜調査期間＞

2014年4月17日

＜調査面積＞

4.0㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

附属教育実践総合センターの東側花壇への記念樹再植樹に係る工事に伴う立会である.

約5.4m または９m 間隔で南北方向に４箇所, 直径0.4m, 深さ0.3～0.45m の掘削を実施した. 人力による掘削をおこなったところ, 全て近代瓦やガラス, 礫を含む現代の撹乱土で, 文化層への影響は一切なく, 遺構・遺物は確認できなかった.

写真250　作業風景（南より）

写真251　掘削状況（東より）

２．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわしに伴う支障配管撤去工事に伴う立会調査（1407）

＜調査期間＞

2014年5月30日

＜調査面積＞

3.5㎡（1.2㎡）

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

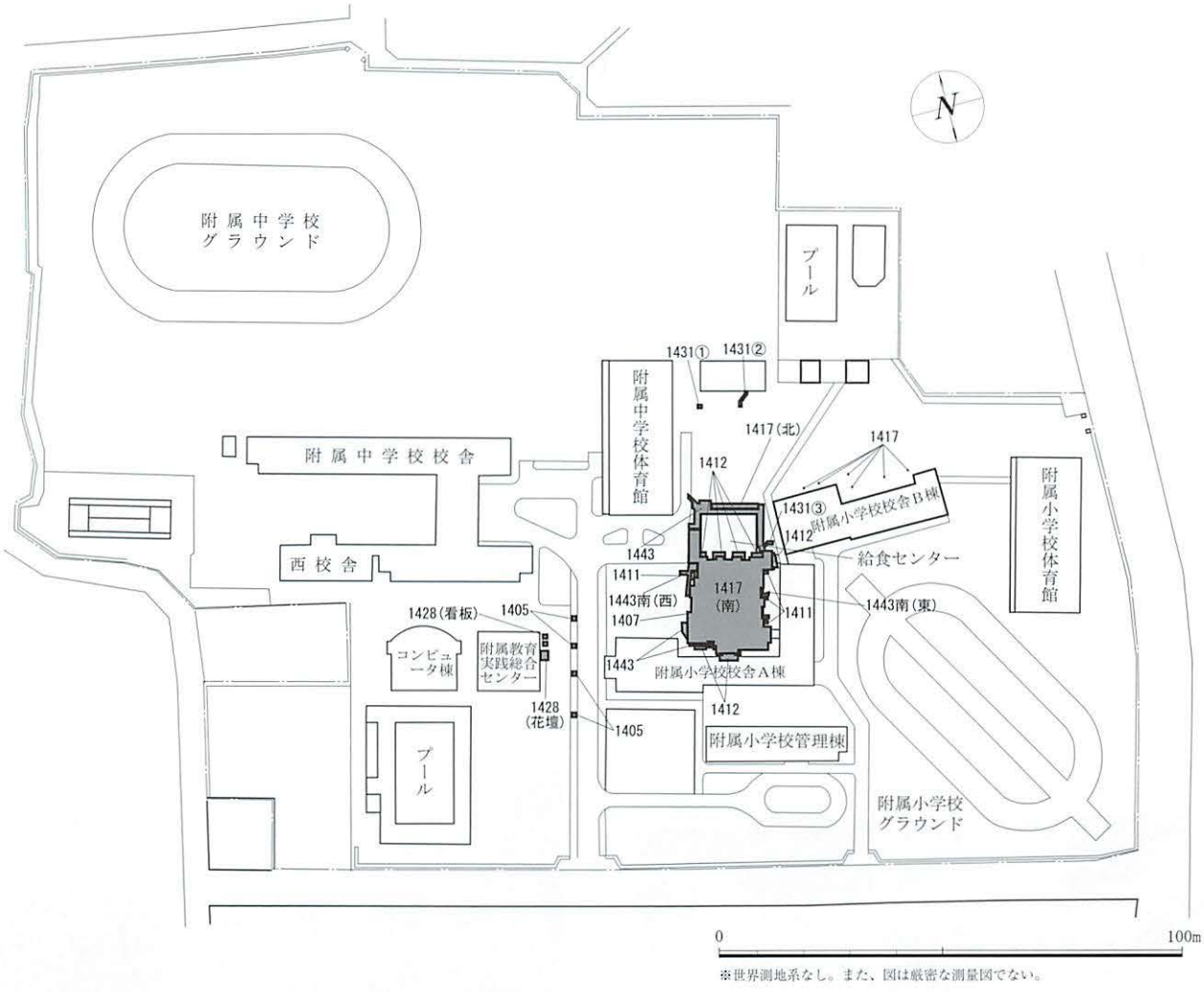
給食センターから西に延びる給水管を止めるための工事に伴う立会をおこなった.

地表下0.4mで既設管を検出し, 建物から2.4mほどまで確認した. 北へ曲がっている部分は, 0.2mほど深くなっていた. 配管を確認し, 作業に必要な深さまで掘削したが, 埋土内におさまり遺構・遺物は検出されなかった.

写真252　作業風景（西より）

写真253　掘削状況（西より）

図8　京町地区における調査地点配置図（1/1500）



※世界測地系なし。また、図は厳密な測量図でない。

3．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事（機械設備）に伴う立会調査（1411）

＜調査期間＞

2014年６月19日，26日

＜調査面積＞

16.0㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

給食センターとりこわしに伴い，給水管を止め，排水管を３本撤去する工事に立会った．

建物西側北側で，既設の給水管を検出するための掘削をおこなった．建物より2.2m付近，深さ1.2mで給水管本管と分岐管を検出した．切断作業に必要なスペースを掘削し，埋土内におさまることを確認した．

建物東側の排水管３本については，全て地表下0.3m前後で排水管を検出した．桝への接続部は，管を抜いた後に穴をふさぐ作業をおこなうため，地表下0.5mまで掘削した．いずれも埋土内でおさまり，遺構・遺物の検出はない．

写真254　給水止掘削状況（北東より）

写真255　給水管周辺掘削状況（南より）

写真256　排水管①作業風景（南西より）

写真257　排水管①掘削状況（西より）

4．（京町）教育学部附属小学校給食センターとりこわし工事に伴う立会調査（1412）

＜調査期間＞

2014年６月19日，26日

＜調査面積＞

396.7㎡

＜調査員＞

大坪志子．

＜調査概要・結果＞

給食センター取りとりこわし工事に伴い，建物基礎の撤去について立会を実施した．立会は建物の南東隅，建物中央北東より，西側中央の３箇所の基礎について立会った．

南東隅の基礎では，地表下1.2mで1.5×1.5mの布基礎が検出された．施工時の掘方は基礎の周囲0.3mの幅である．その外周では，地表下1.0mで包含層を確認できた．重機のバケット幅で芯を中心に掘削すれば，周辺の文化層には影響がないことを確認した．検出した基礎は鋏型重機で破砕しつつ引き上げるため，これ以上の掘削も伴わない．こうした掘削法と撤去法により作業を進めるように指示した．

建物中央東北よりの基礎撤去では，地表下0.5mで基礎を検出した．建物周囲の基礎よりだいぶ浅い．1.2×1.2mの布基礎の周囲0.3mはやはり掘方である．南側は地山であるロームが埋まっており，施工時にロームまで掘削していると考えられる．この基礎についても，破砕しつつ鋏型重機で引き上げることを確認した．

西側の基礎も地中梁に沿って掘削し，地表下1.2mで1.5×1.5mの布基礎を検出した．ほかの基礎と同様に，破砕しつつ鋏型重機で引き上げることを確認した．

その他の部分は機械設備工事に伴う立会の範囲（1443

写真258　南東隅基礎撤去作業風景（西より）

写真259　南東隅基礎掘削状況（西より）

写真260　基礎撤去作業風景（北より）

調査地点）と重複しており，重複する部分は機械設備工事の掘削の方が深かったので，そちらの工事の際に調査した．調査は断続的に３月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

給食センター西側に植栽されていた５本の樹木の撤去をおこなった．最も大きい中央の樹木は，周囲を0.5m掘削したところで，包含層を検出したため，これ以上の掘削はおこなわず，鋏型重機で引き抜いた．ほかの４本については，周囲を掘削することなく，鋏型重機で引き抜いた．遺構の検出はない．

写真261　樹木①撤去作業風景（北西より）

写真262　樹木①撤去状況（西より）

５．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他工事（建築工事）に伴う立会・発掘調査（1417）

＜調査期間＞

2014年９月11日，11月５日～12月17日，２月26日～３月16日，３月27～31日（継続中）

＜調査面積＞

747.9㎡

＜調査員＞

大坪志子・松田光太郎・島浦健生・宮崎拓（株式会社有明測量開発社）・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

給食センター跡地に新たに校舎を建築する工事に伴う立会である．給食センター南側の校舎新築部と同北側の調理室外周部に大きく分けられる．

給食センター南側の校舎新築部は建物の壁に位置する基礎掘削部，建物の西・南側の外縁に位置するスロープ基礎掘削部，建物中央の中央部，建物西側のアスファルト舗装部からなる．

基礎掘削部は基礎部と基礎梁部からなる．基礎部は長方形の建物の東西南北の各辺に合わせて，約３×３ｍの正方形ないしは約３×５ｍの長方形の桝を，17箇所掘削するものであった．掘削深度は調査区北側の地表付近の

写真263　調査区近景（北西より）

写真264　桝３遺構確認状況（南より）

基準面から約1.6mであった．南辺では５箇所の基礎とその南側の２箇所の小基礎があり，５箇所の基礎は東から桝１～５，小基礎は西側から桝16・17とした．東辺には３箇所の基礎があり，南側から桝６～８とした．北辺には４箇所の基礎があり，東側から桝９～12と命名した．西辺には３箇所の基礎があり，南側より桝13～15と命名した．

掘削の結果，複数の桝においてピットの存在が確認された．そこで熊本市教育委員会文化振興課および熊本県教育庁文化課の許可を得，11月５日，発掘調査へ切り替えて調査することになった．

基礎部は給食センターの建物基礎があったため，いずれの掘削部も中央は大きく攪乱を受けており，基礎部の周縁のみ撹乱を受けていない土が残存していた．調査の結果，調査区北西部の桝12・15で弥生時代の竪穴住居と思われる床面と掘り込みを確認した．ここは削平を受けているためか，地表下約0.3mで住居床面が検出された．住居は部分的に検出したにすぎないが，平面形は方形プランをなすと思われた．住居内からは弥生土器が多く出土した．

また南辺の桝４では須恵器片が入った柱穴が検出された．この柱穴は径0.3m以上，深さも0.5mほどあり，掘り込みの下底は黄褐色ローム層まで達していた．このような柱穴は桝３や桝14などでもみつかっている．これらを含め，ピットは各桝で確認された．しかし東側の桝６～８のピットは掘り込みが浅く，柱穴の可能性は低いものであった．

基礎部では土層の記録もおこなった．表土下に部分的に褐色気味の暗褐色土が厚さ0.1mほどあったが，本層は調査区東側に限って存在した．古代～近世に相当する土は遺構埋土を除き，存在しなかった．その下地表下0.3mで全域的に暗褐色土が厚さ0.2mほどあった．さらにその下に暗褐色粘質土－通称ニガ－が0.2～0.3mの厚さで存在した．調査区東側では本層の黒味が強い土が存在した．そして漸移層をはさんで，黄褐色ローム層に移行する．黄褐色ローム層は調査区北西部において地表下0.7mで確認された．黄褐色ローム層上面は北西部を頂点にして，東側および南側へ緩やかに高度を下げることがとらえられた．

また基礎梁部は基礎の桝間をつなぐように幅約1.7m，深さ約0.8m掘削するものであった．調査区北側では攪乱が浅く，地表下0.2～0.3mで暗褐色土が存在した．暗褐色土上面ではピットが数基確認されるとともに，桝９と10の間で暗褐色粘質土まで掘り込んだ溝状遺構が確認

写真265　桝12住居遺物出土状況（北より）

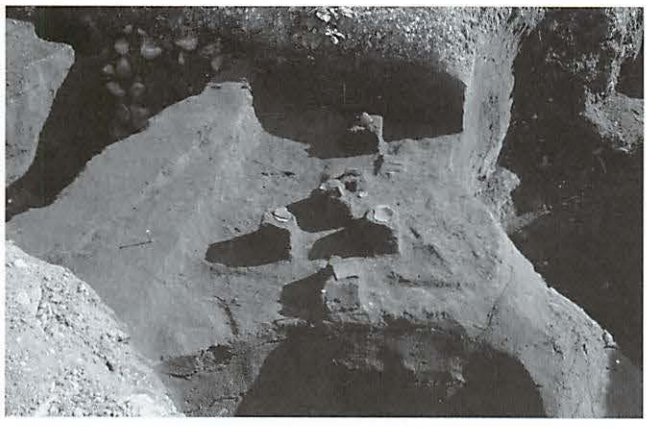


写真266　桝15住居遺物出土状況（東より）

写真267　桝４柱穴遺物出土状況（南西より）

写真268　桝３北壁断面（南より）

写真269　調査区北側基礎梁部遺構分布状況（西より）

写真270　桝９・10溝状遺構完掘状況（南より）

された．またその後，暗褐色粘質土を掘り下げ，地表下0.7～0.8mで黄褐色ローム層が検出された．ローム層上面では，ピットなどの遺構を調査し，当該部分の調査を終了した．

基礎梁部のうち調査区西側は攪乱が深く，攪乱を除去すると暗褐色粘質土が現れた．ここは本層を少し掘削したところで，工事掘削深度に到達し，調査を終了した．

基礎梁部のうち調査区東側は攪乱が浅く，撹乱下に暗褐色土が残存していた．暗褐色土および暗褐色粘質土上面で遺構確認をしたが，遺構は検出されなかった．そこで暗褐色粘質土を工事掘削深度まで掘削して調査を終了した．暗褐色粘質土からは遺物は出土しなかった．

基礎梁部のうち調査区南側は全て現代埋土からなっていた．

スロープ基礎掘削部は建物の外縁部に位置し，建物南側と西側および，北西側の３箇所からなっていた．南側は攪乱埋土を地表下0.9mまで掘削して終了した．西側の南半は幅約2.5m，長さ約10mの範囲を地表下0.8mまで掘削した．全て攪乱埋土であった．一方西側の北半では，桝14・15の間の幅3.7m，長さ約７mの範囲において，現代埋土下に遺構および暗褐色粘質土の存在を確認した．遺構は床面と思われる硬化面が２枚重なって存在してお

写真271　スロープ基礎掘削部住居床面（北より）

写真272　プラットフォーム部硬化面検出状況（南より）

写真273　プラットフォーム部調査終了状況（南西より）

り，弥生時代の竪穴住居２基があったものと考えられた．攪乱の存在により，住居の北および西の辺の一部を確認したにとどまったが，主軸を西北西－東南東にとる方形基調の住居と思われた．

スロープ基礎掘削部の北西側は給食センター北側の調理室外周部の南西部にもつながる部分で，幅3.7m，長さ13.5mの範囲を，プラットフォーム部と称して調査した．地表下0.4mまでは現代埋土，その下に暗褐色土が検出され，それを５cmほど掘削すると硬化面が確認された．この硬化面は暗褐色粘質土の上面に存在し，出土土

写真274　中央部遺構確認状況（北より）

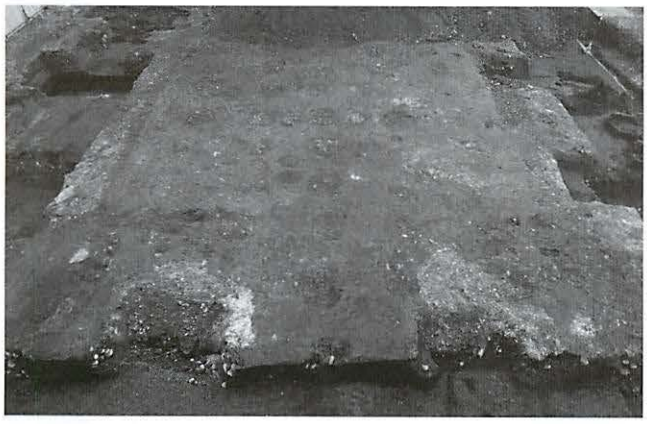


写真275　アスファルト舗装部掘削状況（北より）

写真276　北側基礎掘削部掘削作業状況（西より）

写真277　北東部基礎掘削終了（東より）

器により，弥生時代の住居の床面の可能性が考えられた．しかし住居の掘り込みは確認できなかったので，住居とは断定できなかった．硬化面の調査後，暗褐色粘質土を掘り下げた．同層からは縄文土器片がわずかに出土した．同層の掘削を進め，地表下0.9mで黄褐色ローム層が確認された．ローム層上面では径0.15～0.2mのピットが3基検出された．

給食センター南側の中央部は基礎と基礎梁に囲まれた範囲に相当し，地表下0.2m掘り下げた．方形基調の掘り込みに栗石を入れた建物基礎と思われるものが発見された．建物基礎1個の大きさは0.4～0.6m四方の規模を有し，基礎は東西南北に並び，東西方向に5ないし8列，南北方向に9列確認された．基礎間の間隔は1.6～1.8mほどであった．栗石の間には砂が入っていた．遺物は出土していないので時代は不明である．

給食センター南側のアスファルト舗装部は建物西側のスロープ基礎掘削部の西隣にあたり，長さ24.1m，幅1.5～2.8mの範囲を，地表下0.12～0.44mまで掘り下げた．全て現代埋土であった．

給食センター北側の調理室外周部のうち南西部は前述のプラットフォーム部分として調査した．それ以外の部分は大部分が1443調査地点と重複していたので，重複しない部分である調理室の北東側部分に所在する小規模な基礎掘削部の掘削に立ち会った．ここでは一辺約1m四方，深さ0.5mの桝の掘削を5箇所おこなった．全て現代埋土内の掘削で終わった．

調査は断続的に3月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

6．（京町）教育学部附属教育実践総合センター等外部改修工事に伴う立会調査（1428）

＜調査期間＞

2014年11月19日

＜調査面積＞

7㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

教育学部附属教育実践総合センター建物東際の看板基礎2個とコンクリート製花壇1個の撤去に伴う立会である．

看板基礎のうち北側のものは径0.3mの円形，南側のものは径0.45mの円形のものであった．どちらも基礎の周りを幅約0.2m，深さ0.25m，人力で掘削した．その後，

写真278　調査区近景（北東より）

写真279　看板北側基礎掘削状況（東より）

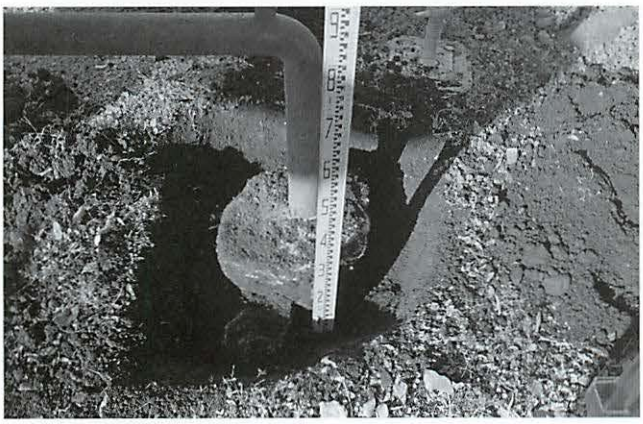


写真280　花壇掘削状況（東より）

基礎を重機で釣り上げ，撤去した．撤去後，地表下約0.5mの凹みができたが，全て現代埋土内の工事で済んだ．また花壇は半円形をなし，これについては，外周に沿って，幅約0.3m，深さ0.2mの土を人力掘削した．掘削は現代埋土であった．掘削後，花壇を重機で釣り上げ，撤去した．遺構・遺物の検出はなかった．

7．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他電気設備工事に伴う立会調査（1431）

＜調査期間＞

2014年12月15・16日

＜調査面積＞

12.5㎡

＜調査員＞

松田光太郎・島浦健生（株式会社有明測量開発社）．

＜調査概要・結果＞

教育学部附属小学校校舎建設に伴う電気設備工事に伴う立会である．

立会いは３箇所で実施した．①地点は附属中学校体育館東側のボイラー室の南西隅から南へ2.9mの位置である．地表下に所在するマンホールの蓋を探すための掘削で，アスファルトを５cm剥がした段階で蓋が検出され，掘削は終了した．

②地点はボイラー室中央やや東寄りにあり，ボイラー室の南壁直下から南へ延ばす管路の掘削に立ち会った．掘削は同地点北側を幅0.6m，長さ0.9mの範囲を直線的に掘削した後，中央部は南西方向に直線的に長さ2.1m掘り，その後，南側は南方向へ直線的に長さ1.6m掘削した．掘削深度は北側・中央部で地表下0.6m，南側で

写真281　①・②地点調査区近景（南西より）

写真282　②地点掘削状況（南より）

写真283　③地点調査区近景（南西より）

写真284　③地点ピット検出状況（西より）

地表下0.8～1.0mであった．北側・南側は掘削底面まで全て現代埋土であった．中央部も掘削した地表下0.6mまでは現代埋土であったが，掘削底面において黄褐色ローム層が検出された．ローム面において遺構確認作業をおこなったが，遺構の検出はなかった．

③地点は附属小学校校舎Ｂ棟西側のコンクリート張り廊下から新営校舎までの間3.8mの管路の掘削に伴うものであった．廊下より西側1.4mに南北に走るコンクリート製の梁があり，それを境に東側1.4mと西側2.4mに分けられる．東側は地表下0.6m掘削した．配管もあり，攪乱が多く，掘削したのは現代埋土であった．西側は地表下0.9mまでの掘削であった．西端は工事掘削深度より深い攪乱が入っていたが，それ以外の所では，現代埋土を除去したところ，地表下0.8mでローム層が検出された．そしてローム層上面で遺構確認作業をおこなったところ，コンクリート製梁の西側0.8mの場所において，直径0.2mのピットが１基確認された．ピット部分は工事の掘削深度を浅くして，保存措置を講じた．ピット以西は遺構が無かったので，工事掘削深度である地表下0.9mまで慎重に掘り下げ，掘削を終了した．

３地点とも遺物の検出はなかった．

８．（京町）教育学部附属小学校校舎新営その他機械設備工事（その２）に伴う立会調査（1443）

＜調査期間＞

2015年２月26日～３月16日，３月31日（継続中）

＜調査面積＞

241.8㎡

＜調査員＞

松田光太郎・阿比留士朗（株式会社イビソク）．

＜調査概要・結果＞

給食センターの跡地に新たに建設する校舎に関係する機械設備を設置する工事に伴う立会である．給食センター南側の校舎新築部と同北側の調理室外周部に大きく分けられる．

給食センター南側の校舎新築部については，新築校舎の東側と西側に分けて説明する．

新築校舎東側は３箇所からなるが，全て既存の桝と建物の間に管路を通すための掘削であった．掘削は幅0.3m，長さ0.1～0.5m，深さ地表下0.4～0.5mまで掘削した．掘削した土は現代埋土であった．

新築校舎西側はその北西端を起点として幅0.7m，長さ13.3mの範囲を地表下0.7～0.8mまで掘削した．当該地区の北半はほとんどが攪乱を受け，一箇所，掘削底面

写真285　新築校舎東側近景（北より）

写真286　新築校舎東側掘削状況（北西より）

写真287　新築校舎西側遺物出土状況（北より）

写真288　新築校舎西側マンホール部掘削状況（東より）

写真289　調理室外周西部近景（南より）

写真290　調理室外周西部掘削状況（南より）

において南北0.5m幅の範囲で暗褐色土が確認されただけであった．掘削したのは攪乱埋土だけであった．

当該地区の南半6.0mも大半が攪乱を受け，掘削底面である地表下0.8mにおいて，0.5×0.35mの範囲にわずかに暗褐色粘質土を確認した．掘削したのは攪乱埋土のみであった．

当該地区の中央部は西側2.5mにあるマンホールから東に延びる管路とT字状に交差していた．この交差点付近において，地表下0.55mで弥生時代の遺物包含層の存在が確認された．包含層は遺物が出土するため，人力掘削をおこない，弥生土器が数点出土した．遺物包含層の下部には一部硬化面が認められたが，遺構のプランは捉えられず，住居かどうかは判断できなかった．その後，ここは地表下0.8mまで掘削して終了した．

西側にあるマンホールを結ぶ管路は幅0.8m，長さ2.5mであった．この管路の東側は攪乱により壊されていたが，その西側は地表下0.5mで暗褐色土が存在した．管路西側ではピットのような遺構が確認されたため，熊本市教育委員会文化振興課へ連絡し，３月30日現地確認を得，立会調査の中で記録することになった．調査の結果，ピットと思われる遺構は攪乱であることが判明した．マンホールを結ぶ管路部分は地表下0.6mまで掘削し，終了した．

一方，給食センター北側の調理室外周部は西部・北部・東部に分けて説明する．西部と北部は1417調査地点と多くの部分において重複していた．

調理室外周の西部のうち，南西部は1417調査地点のプラットフォーム部分として調査した．南西部以外の部分は配管ルートに合わせ，幅1.3～3.0m，長さは全体で約７m掘削した．掘削深度は概ね約0.8m．掘削したのは大部分が現代埋土であった．一箇所，幅0.1m・長さ1.0mにわたり暗褐色粘質土を検出した．暗褐色粘質土を慎重に掘削したが，遺物・遺構は検出されなかった．暗褐色粘質土の下は黄褐色ローム層が検出された．

調理室外周の北部は長さ約23mにわたり，幅0.7m，深さ0.5～1.0m掘削した．北部の西端は排水設備を設置するため，幅2.3m，深さ1.9mまで掘削した．全面的に撹乱が入っており，掘削したのは大半が現代埋土であったが，北部の東端で攪乱は途切れ，暗褐色土が地表下0.85mで確認された．遺構確認したところ，ピット２基と溝状遺構１基が検出されため，それを調査した．ピットは径が0.2m程のものが２基存在した．溝状遺構は幅0.46m，深さ約0.20mで，東西方向に走り，東側が浅くなって途切れていた．

また北部として掘削した部分の北西隅を起点に，体育館に向かって管路を通す必要があったので，幅0.7m，長さ4.1mの範囲を地表下0.8mまで掘削した．掘削域内には水道管があるなど攪乱が多く，現代埋土のみの掘削であった．また当管路の接続部分を深さ地表下1.6mまで掘削した．底面で黄褐色ロームが検出された．

調理室外周の東部は幅1.5m，長さ13.3m，深さ地表下0.5～0.7m掘削した．掘削範囲の中央部に北西から南東にかけて使用中の配管が横断しており，配管直下およびその両脇付近には黄褐色ローム層が検出された．配管から離れると攪乱が深くまでおよんでおり，掘削底面に至っても攪乱埋土やコンクリートが存在していた．今回の工事で掘削したのは現代埋土のみであった．

調査は３月31日まで実施し，残りは次年度継続調査となった．

写真291　調理室外周北部掘削状況（西より）

写真292　調理室外周北部遺構全景（北西より）

写真293　調理室外周東部掘削状況（北より）

Ⅱ－8　渡鹿地区

1．（渡鹿２）渡鹿宿舎駐車場増設工事に伴う立会調査（1450）

＜調査期間＞

2015年３月16日

＜調査面積＞

213.6㎡

＜調査員＞

山野ケン陽次郎.

＜調査概要・結果＞

渡鹿宿舎の駐車場増設に伴う樹木撤去および舗装に係る立会である.

調査範囲は約26.2×7.2m，掘削深度が0.4m で，この北端にキンモクセイ１本とツバキ４本が植えられている.はじめにキンモクセイの抜根を重機によっておこなった.掘削では重機によって根の間の土を掘削しつつチェーンソウで根を切断しながら堀下げた．地表下0.9mあたりで根が上がったため，全体清掃をおこなったが，壁も含めて全てガラスなどが混入する現代埋土におさまっていた.

写真294　キンモクセイ抜根部分重機掘削作業風景(北より)

写真295　キンモクセイ抜根部分掘削状況（北西より）

写真296　塗装中央部掘削状況（東より）

写真297　塗装南東部掘削状況（東より）

４本のツバキの抜根では全てが1.5×1.5m 程，深さ0.3m 程で重機により抜根することができた．舗装のための掘削深度は0.4m と浅いため，調査範囲の中央部と南東部に４×１m と2.5×1.75m の試掘坑を設けて目標の深度まで掘削したが，全て現代埋土であった．そのため工事業者に掘削深度について指導を行い，立会を終了している.

遺構・遺物は検出されず，文化層も確認できなかった.

Ⅱ－９　城東地区

１．附属幼稚園プール遮光ネット取付に伴う立会調査（1409）

＜調査期間＞

2014年６月24日

＜調査面積＞

1.8㎡

＜調査員＞

大坪志子.

＜調査概要・結果＞

附属幼稚園のプール遮光ネットを設置するために，プールの南側５か所の基礎設置部分のうち，２か所について試掘・立会をおこなった.

西から２本目の試掘①では，0.5×0.5mの範囲を地表下0.4mまで掘削した．北側0.3mはプール本体のコンクリートがあり，南側はその掘方である．コンクリートの上に基礎を設置するため，これ以上の掘削はおこなわなかった.

もっとも東の試掘②は，プール本体から0.34m離れたところを0.5×0.5m，地表下0.5mまで掘削した．南側には既設の電気配線があり，その他の部分も埋土である.

遺構・遺物の検出はなかった.

写真298　試掘①作業風景（南より）

写真299　試掘①掘削状況（東より）

跋　文

遺跡の発掘調査では，調査地点付近の地下の情報を事前にできるだけ多く集め，内容を予想して調査するが，地下には時に想定を越えた事実が潜んでいる．この「想定外」にどれだけ気づきどう掘るかが現場担当者の腕だ．しかし現場作業は工事期間の約束によってしばしば急がされる．そんな中でも「想定外」を想定して緩急おさえた調査をし，相応の成果をだし，契約期間内に終了することが求められる．今回発見された縄文時代後期の人骨と江戸期の井手は，そんな中で見事に引き出された過去の風景である．

二つの発見は，大学の広報戦略ユニットを通して学内外に周知され，現場説明会をおこなって多くの方々に見ていただくことができた．学内の自然科学系の先生方からはさまざまのご指導をいただき，今後の共同研究の基礎を準備することもできた．縄文人骨については，谷口学長（当時）に学長裁量経費を手当していただき，出土状況とともに３次元計測で記録し，展示の説明に結びつけることができた．それぞれの遺構は，施設企画・管理両ユニットの理解を得て，周囲を養生して地下に埋め戻された．

遺跡の価値が調査者によって変わるものであってはならないが，やはり調査者の意識は重要だ．その価値をより高めるのは，調査者の学術的・行政的な熱意とこれを支える組織の連携とバックアップ，そして遺跡を理解し興味をもつ人々の広がりだろう．今回はこうした連携がうまく機能したと思う．学会や文化庁で熊本大学の姿勢が評価されたのは，誇らしいことであった．山野助教と大坪助教の労をねぎらいたい．

一般に埋蔵文化財調査は，早く開発を進めたい人々にとっては「やっかいもの」である．疎まれながら調査を急がされるのはつらい．しかし，たとえささやかな成果であってもこれを工事担当者に伝え，調査の意味を理解してもらうことができれば，遺跡の価値は少し上がる，本センターのスタッフはそう考えている．現在の人々に理解され支持されてこその文化財保護だと思うからだ．

昨年度は五高記念館でテーマ展示を開催した．センターとしては初めての展覧会で準備も大変だったし，経費もかかったがよい経験であった．これに合わせて発掘調査成果の速報展も開催した．これも初めての試みである．文化財散歩，ホームカミングデーの催しも継続した．講義への活用も徐々に増えてきている．これらの展示・広報活動は松田准教授がリードした．一連の活動は，本号の編集者である山野助教によってまとめられている．センターの息づかいが伝わる文章をご一読願いたい．

これからも，センター職員と知恵を絞りつつ，熊本大学らしい活動を進めてゆきたいと思う．関係各位のご理解とご協力をお願いする次第である．最後に，激動のセンターの事務を一手に支えてくれた大崎事務補佐員に感謝したい．

2016年１月

埋蔵文化財調査センター長

文学部教授　木　下　尚　子

Summary

The number of investigations in the fiscal year 2014 is the following: 7 excavation, 51 presence investigation. The main results are the following.

At 1310 excavation spot in the Kurokamimachi sites (south area), we excavated the site before the performing the lifeline renovation. It is continued from previous fiscal year investigation scope extends eastern half of Kurokami south area. We detected the ruins and relics of ancient in most all points. We detected artifacts such as pottery of Jomon period late preceding page from the under of the layer of ancient. In addition, we detected the graves and human bones of the first half of Jomon period late, so it became the important result in thinking about graveyard and settlement constitution of the time concerned.

At 1321, 1322, 1325 excavation spots in the Honjo site (north area), we excavated the site before maintaining a parking and drainage. It is continued from previous fiscal year, the investigation scope is located on the east side of old first aid building and the new outpatient care building. We found the ruins of ancient village, as with conventional investigation in this investigation. And we found the stone wall of "sannoide" which is in the Edo period latter at 1321 excavation spot.

At 1423 excavation spot in the Honjo site (north area), we excavated the site before performing cable repair work. We found the ancient ditch of the north and south axis, at this investigation spot equal to the northeast corner of the Honjo north area. There were few conventional investigations at this investigation spot, and existence of relics was not clear, but we were able to recognize the expanse of the ancient relic, at this investigation spot.

At 1417 excavation spot in the Kyomachidai sites, we excavated the site before building the department of education elementary school attached school building. We found several pit dwellings of the Yayoi period from the lunch center ruins. Pit dwellings of the Yayoi period were discovered in the conventional investigation at the south side of the accessory junior high school building of the west side of the lunch center, the possibility rose that a village of the Yayoi period spread out in this place.

In addition, at 1429,1430,1436,1437 excavation spot in the Kurokamimachi sites(south area), we found the red brickwork basics in modern period, before performing repair work of the headquarters. After the next fiscal year, we will carry out excavation.

In this year, we was able to get much result from all over the layer that we were not surveyed in the past. About the deep construction which is building in particular, we have to pay attention about existence of cultural layer. We should arrange result of this excavation, and we would like to meet with future's investigation.

2014 년도에 실시된 조사 건수는, 발굴 조사 7 건, 입회 조사 51 건이다. 주된 조사의 결과는 다음과 같다.

구로카미마치 (黒髪町) 유적군 1310 조사 지점에서는, 라이프라인 개수공사를 하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 작년도에 이어서 조사 범위는 구로카미 남쪽 지구 동반에 이르렀다. 대부분의 조사구에서 고대 (역사 시대) 의 유구와 유물이 검출되었다. 고대의 문화층의 하층에서는 죠몬 시대 후기 전엽의 토기등의 유물이 많이 출토되었다. 또, 죠몬 시대 후기 전반의 무덤과 인골이 발견되어서, 당시의 묘역이나 취락 구성을 고찰하는 데 있어서 중요한 성과가 되었다.

혼조 (本庄) 유적 1321·1322·1325 조사 지점은, 주차장이나 배수 시설등을 정비하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 작년도부터 계속된 조사구는 구구급동 및 신외래진료동의 동쪽에 위치한다. 조사는 종전의 조사와 같이, 고대의 취락지가 확인되었다. 또, 1321 조사 지점에서는 에도 (江戸) 시대 후기의「산노이데 (三の井手)」의 돌담이 발견되었다.

혼조 유적 1423 조사 지점에서는, 케이블 개수공사를 하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 혼조 북쪽 지구의 북동 귀퉁이에 위치하는 이 조사 지점에서는, 남북축의 고대 도랑이 발견되었다.

이 조사 지점은 지금까지 조사 횟수가 적어서, 유구의 유무가 명확하지 않았지만, 이번의 조사로, 고대의 유구의 범위를 인식할 수 있었다.

교마치다이 (京町臺) 유적군 1417 조사 지점은, 교육 학부 부속 초등학교 교사를 건설하기 전에 발굴 조사를 실시했다. 급식 센터였던 장소에서는, 야요이 시대의 수혈 주거가 몇기 발견되었다. 종전의 조사로 급식 센터 서쪽의 부속 중학교 남교사 남쪽에서도 야요이 시대의 수혈 주거가 발견되어서, 해당 지구에 야요이 시대의 취락이 분포되어 있을 가능성이 높아졌다.

또 구로카미마치 유적군 1429 · 1430 · 1436 · 1437 조사 지점에서는, 본부 개수공사 전의 입회 조사로, 근대의 붉은 벽돌을 쌓은 기초가 발견되었다. 차년도부터, 발굴 조사를 실시하고 있다.

금년도는, 지금까지 조사 대상으로 하지 않은 토층안에서 많은 성과를 얻을 수 있었다. 특히 시공 심도가 깊은 공사에 대해서는, 문화층의 유무를 주시 할 필요가 있다. 이번의 조사 결과를 정리해, 앞으로의 조사를 실시할 생각이다.

付篇１　2014年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

１．熊本大学埋蔵文化財調査センター規則（H23.9.22～）

（趣　旨）

第１条　この規則は，熊本大学学則（平成16年４月１日制定）第９条第２項の規定に基づき，熊本大学埋蔵文化財調査センター（以下「センター」という．）に関し必要な事項を定める．

（設置目的）

第２条　センターは，熊本大学（以下「本学」という．）に所在する遺跡を発掘調査するとともに，出土した埋蔵文化財を記録，保存及び活用し，もって本学の教育研究に寄与することを目的とする．

（業　務）

第３条　センターは，次に掲げる業務をおこなう．

⑴　埋蔵文化財調査の実施計画の立案及び実施に関すること．

⑵　出土した埋蔵文化財の整理，保管及び保存に関すること．

⑶　文化庁等に提出する報告書の作成に関すること．

⑷　その他センターの目的を達成するために必要な事項．

（職　員）

第４条　センターに，次に掲げる職員を置く．

⑴　センター長

⑵　専任教員

⑶　その他必要な職員

（センター長）

第５条　センター長の選考は，本学の専任の教授のうちから，第７条に規定する委員会の推薦に基づき，学長がおこなう．

２　センター長は，センターの業務を掌理する．

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない．

４　センター長に欠員が生じた場合の補欠のセンター長の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．

（専任教員）

第６条　専任教員の選考は，熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会の議に基づき，学長がおこなう．

２　専任教員の選考に関し必要な事項は，別に定める．

（委員会の設置）

第７条　センターの管理運営に関する事項を審議するため，熊本大学埋蔵文化財調査センター運営委員会（以下「委員会」という．）を置く．

（委員会の組織）

第８条　委員会は，次に掲げる委員をもって組織する．

⑴　センター長

⑵　センターの専任教員

⑶　文学部及び教育学部から選出された教授又は准教授　各１人

⑷　法学部，大学院社会文化科学研究科又は大学院法曹養成研究科から選出された教授又は准教授　１人

⑸　大学院自然科学研究科から選出された教授又は准教授　各1人

⑹　大学院生命科学研究部の医学系又は医学部附属病院から選出された教授又は准教授　１人

⑺　大学院生命科学研究部の保健学系及び薬学系から選出された教授又は准教授　各１人

⑻　発生医学研究所，生命資源研究・支援センター又はエイズ学研究センターから選出された教授又は准教授　１人

⑼　運営基盤管理部施設管理ユニット長

⑽　その他センター長が必要と認めた者　若干人

２　前項第３号から第８号まで及び第10号の委員は，学長が委嘱する．

３　第1項第３号から第８号までの委員の任期は，２年とし，再任を妨げない．

4　第１項第３号から第８号までの委員に欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は，前項の規定にかかわらず，前任者の残任期間とする．
5　第１項第10号の委員の任期は，学長が委嘱の都度定めるものとし，再任を妨げない．
（委員会の審議事項）
第９条　委員会は，センターに関する次に掲げる事項（熊本大学学内共同教育研究施設等の人事等に関する委員会規則（平成16年４月１日制定）第３条に定める事項を除く．）を審議する．
⑴　センターの業務に関すること．
⑵　センター長候補者の推薦に関すること．
⑶　施設及び予算に関すること．
⑷　その他センターの管理運営に関すること．
（委員長）
第10条　委員会に，委員長を置き，センター長をもって充てる．
2　委員長は，委員会を招集し，その議長となる．
3　委員長に事故があるときは，委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する．
（議　事）
第11条　委員会は，委員の過半数が出席しなければ，議事を開き，議決をすることができない．
2　委員会の議事は，出席した委員の過半数をもって決し，可否同数のときは，議長の決するところによる．
（意見の聴取）
第12条　委員長は，必要があるときは，委員以外の者を委員会に出席させ，意見を聴くことができる．
（事　務）
第13条　センター及び委員会の事務は，運営基盤管理部施設企画ユニットにおいて処理する．
（雑　則）
第14条　この規則に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，センター長が別に定める．

附　則
1　この規則は，平成23年10月１日から施行する．
2　国立大学法人熊本大学埋蔵文化財調査委員会規則（平成16年４月１日制定）及び熊本大学埋蔵文化財調査室要項（平成16年４月１日制定）は，廃止する．
3　この規則施行後，最初に任命されるセンター長は，第５条第１項の規定にかかわらず，この規則により選考　されたものとみなす．
4　この規則施行後，最初に任命されるセンター長の任期は，第５条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
5　この規則施行後，最初に委嘱される第８条第１項第３号及び第４号の委員の任期は，同条第３項の規定にかかわらず，平成25年３月31日までとする．
附　則（平成24年12月27日規則第142号）
この規則は，平成25年４月１日から施行する．

2．2014年度熊本大学埋蔵文化財保護対策組織

1　埋蔵文化財調査センター組織

＜センター長＞	（併・文学部教授）	木下　尚子（2011.10.1～）
＜専任教員＞		松田　光太郎
		大坪　志子
		山野　ケン陽次郎
＜事務補佐員＞		大崎　喜美子
＜室内作業員＞（2014年６月～2015年２月）		江口　路
		鬼塚　美枝
		小山　正子
		首藤　優子

		末吉　美紀
		増井　弘子
	（2014年６月～2015年３月）	井上　裕美
	（2014年11月～2015年３月）	宮崎　大和
	（2015年３月）	與嶺　友紀也

２　埋蔵文化財調査センター運営委員会

委員長	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	任期（2013.4.1～2015.3.31）
委員	杉井　健	（文学部准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	黛　武彦	（教育学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大澤　博明	（法学部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	副島　顕子	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	伊東　龍一	（大学院自然科学研究科教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	宇宿　功市郎	（大学院生命科学研究部教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大森　久光	（大学院生命科学研究部（保健学系）教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	本山　敬一	（大学院生命科学研究部（薬学系）准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	大村谷　昌樹	（生命資源研究・支援センター准教授）	（2013.4.1～2015.3.31）
	佐藤　治行	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2013.4.1～2014.9.30）
	齊藤　正実	（運営基盤管理部施設管理ユニット長）	（2014.10.1～2015.3.31）
	木下　尚子	（埋蔵文化財調査センター長）	（2013.4.1～2015.3.31）
	松田　光太郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	大坪　志子	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.4.1～）
	山野　ケン陽次郎	（埋蔵文化財調査センター専任教員）	（2013.10.15～）

審議事項

2014年６月12日　議題

１）平成26年度埋蔵文化財包蔵地における土木工事について

２）平成26年度埋蔵文化財調査センター予算配分（案）について

３）その他

報告

１）平成25年度埋蔵文化財発掘調査結果について

２）平成25年度埋蔵文化財調査センター運営経費実績について

３）その他

2015年２月17日　審議事項

１）埋蔵文化財調査センター長候補者推薦について

2015年３月９日　審議事項

１）埋蔵文化財調査センター規則の一部改正（案）について

付篇２　埋蔵文化財調査センター2014年度調査・研究活動記録

【調査員】

松田光太郎

・「北白川下層Ⅱｃ式・Ⅲ式土器の変遷－東海・近畿地方における縄文時代前期後葉の土器様相」『型式論の実践的研究Ⅲ』，人文社会科学研究科研究プロジェクト報告書第290集，千葉大学大学院人文社会科学研究科，pp.17-35.
・「刈羽式土器の成立とその展開－縄文時代前期後半の北陸地方東部の土器様相」『考古学論攷Ⅱ』，千葉大学文学部考古学研究室，pp.103-124.
・「大宰府へつながる官道」，2014年10月５日，熊本日日新聞，19面.
・熊大チャンネル　第４話「遺跡の宝庫！熊大ミステリーツアー」，2015年１月10日，KAB熊本朝日放送.（共同：大坪志子）

大坪志子

・「熊本大学構内遺跡における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」『平成26年度九州考古学会総会研究発表資料集』，九州考古学会，pp.47-56.（共同：山野ケン陽次郎）
・平成26年度九州考古学会総会　研究発表「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」，2014年11月30日，福岡大学.（共同：山野ケン陽次郎）
・熊本史学会　研究発表「江戸時代の三の井手発見について」，2014年12月６日，熊本県婦人会館.
・熊大チャンネル　第４話「遺跡の宝庫！熊大ミステリーツアー」，2015年１月10日，KAB熊本朝日放送.（共同：松田光太郎）

山野ケン陽次郎

・「２　藤原京の調査　左京五条三方の調査」『奈良文化財研究所紀要』2014，独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所，pp.96-99.（共同：清野孝之）
・日本鉱物学会　ポスターセッション「熊本大学黒髪南地区構内の表層堆積物における風化・変質生成物」，2014年９月19日，熊本大学.（共同：那須啓・鳥井真之・磯部博士）
・「熊本大学構内遺跡における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」『平成26年度九州考古学会総会研究発表資料集』，九州考古学会，pp.47-56.（共同：大坪志子）
・平成26年度九州考古学会総会　研究発表「熊本大学構内における縄文時代後期遺跡の発見とその意義」，2014年11月30日，福岡大学.（共同：大坪志子）
・熊大ラジオ公開授業「知的冒険の旅」第13回，2015年１月26日，FMK.
・WEBマガジン　KUMADAI NOW「熊大ラボ Knock on the laboratory's door」，2015年３月６日.

付篇３　埋蔵文化財調査センター2014年度文化財活用活動記録

本年度，埋蔵文化財調査センターでは，大学内外に向けた構内遺跡の重要性の周知や，生涯教育での活用を目的とし，遺跡の現地説明会や展示の開催など，様々な文化財活用活動を実施した.

主な活動として，①「地下と地上の文化財散歩」の開催，②黒髪南地区1310調査地点の現地説明会の開催，③五高記念館でのテーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」および速報展示「地下の文化財速報展示」の開催，④本荘北地区1321調査地点の現地説明会の開催，⑤埋蔵文化財調査センターにおける「地下の文化財速報展示」の開催，⑥授業等への協力，などが挙げられる.

５月12～16日には，昨年度から継続して「地下と地上の文化財散歩」を実施した．黒髪南キャンパスおよび本荘北キャンパスにおいて，重要な遺構や遺物がみつかった調査地点を散策し，調査員によるパネルを用いた解説もおこなった．５日間で大学内外から48名の参加者があり，熊本大学が遺跡の上に立っていることを実感して頂くことができた.

黒髪南地区1310調査地点では，縄文時代後期前半の人骨と墓が発見され，その調査成果を公表するために記者会見と現地説明会を実施した．大学内で縄文時代の人骨が出土したという珍しさや，新聞への掲載，テレビ放送の効果もあり，５月31日に開催された現地説明会では，大学内外から約300名の方々にご参加頂いた．本センターにおける大学外に向けての現地説明会の開催は初めての試みで，担当者は発掘調査を続けながらの準備に大変な苦労を要したが，参加された方々が熱心に質問する様子をみて，現地説明会の重要性を実感した．現地説明会当日は，2013年11月に完成したセン

ター展示室の常設展示も開放し，周知することができた．

８月６日から10月20日にかけては，五高記念館において，テーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」と速報展示「地下の文化財速報展」を同時に開催した．テーマ展示では，古代の官道や関連遺跡の概要をパネルで示し，大学構内遺跡だけでなく，熊本県内外から借用した官道関連遺物の展示を実施した．一方，速報展示では，2013年度の発掘調査で大学構内から出土した遺物を展示した．開催期間中，10月９日から４回にわたり展示ガイドやガイドツアーを開催したことで，参加者には官道や構内遺跡に対する理解を深めて頂くことができた．開催期間中は五高記念館に約2944名の来館者があり，熊本大学の遺跡の調査成果と古代官道の歴史を伝えることができた．

本荘北地区1321調査地点では，江戸時代の用水路である「井手」の石垣が検出され，その調査成果を広く公表するために，記者会見と現地説明会を実施した．江戸時代の加藤清正公に関連する遺跡ということで，周知期間が短いながらも10月26日に開催された現地説明会には，30名の参加者にお越し頂いた．本年度２度目の現地説明会であったため，前回の反省を活かしながら説明会を開催することができた．今年度は黒髪キャンパスだけでなく，本荘キャンパスでも現地説明会を開催できたことで，大学敷地内の埋蔵文化財の重要性を周知する契機となった．

11月４日から2015年２月27日にかけては，本センター展示室において，「地下の文化財速報展」を開催した．展示の目玉となったのは，黒髪南地区1310調査地点でみつかった縄文時代の人骨である．調査後，一時的に修復を終えた縄文人骨は，多くの人々の関心を集めた．このほか，同地点でみつかった縄文時代後期の土器を主体とし，黒髪南地区1309調査地点における近代墓の出土資料も展示した．１月24日，27日には速報展の説明会をおこなうなどし，展示期間が短いながらも163名の来館者があった．

また，４月から６月にかけては，本学の文学部，教育学部，工学部の先生方から依頼を受け，発掘現場やセンター展示室の見学に対応した．これまで本大学が遺跡の上に立っていることは，とくに学生に対して周知が行き届いていなかった．調査成果や常設展示の公開は，学生に対する文化財の周知に貢献しており，授業内容を充実化させることができた．次年度以降も，こうした授業等への協力を積極的に受け入れたい．

この他，熊本大学構内において重要な成果を得た調査地点を示したパンフレット『熊本大学地下の文化財』の作成をおこなった．以前には，黒髪地区の日本語・英語・中国語・韓国語版を作成しており，これによって大学構内を歩きながら遺跡の概要を把握することが可能となった．本年度は，『熊本大学地下の文化財　本荘地区（本庄遺跡）』の日本語版と英語版の作成を行っており，現地説明会や展示を見学にいらした方々に配布している．３月には，大学構内でとりわけ重要な成果を得た調査地点の周辺に，「学内サイン（地下の文化財案内板）」が設置された．黒髪北・南地区に計10箇所設置し，各地点でみつかった遺物や遺構の概要についてわかりやすく説明している．本学を訪れる方々に，大学が遺跡の上に立っていることを実感して頂き，遺跡をより身近に感じて頂けたら嬉しいかぎりである．今後は，地下の文化財散歩などのイベントでの活用を検討している．

１．地下と地上の文化財散歩の開催

2014年５月12～14日：「地下と地上の文化財散歩」黒髪南コース　開催
2014年５月15・16日：「地下と地上の文化財散歩」本荘北コース　開催
（その他）
2014年春季：熊大通信 vol.52，国立大学法人熊本大学．

２．黒髪南地区1310調査地点の現地説明会の開催

2014年５月29日：「縄文時代後期の埋葬人骨発見」に関する記者会見
会場：熊本大学事務局３階特別会議室
2014年５月31日：熊本大学埋蔵文化財調査センター現地説明会開催　参加者：約300名
（テレビ放送）
2014年５月29日：TKU　スーパーニュース
：NHK　クマロク
：RKK　夕方いちばん
：RKK　夕方いちばん
：KKT　テレビタミン
：KAB　くまパワ
2014年５月30日：NHK　おはよう九州沖縄
（新聞報道）

2014年５月30日：熊本日日新聞　28面
：西日本新聞　28面
：朝日新聞　33面
：毎日新聞　21面
：朝日新聞　31面
：読売新聞　30面
：日経新聞　39面
2014年５月30日　産経新聞　23面
（その他）
2014年夏季：熊大通信　vol.53，国立大学法人熊本大学.
2015年３月：「発見！国立大学」『国立大学』vol.36，p12，国立大学協会.

３．五高記念館におけるテーマ展示「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」および速報展示「地下の文化財速報展示」の開催

開催期間：2014年８月６日～10月20日　会場：熊本大学五高記念館　来館者：2944名
2014年10月９・15日：ガイドツアー「肥後官道90分の現地小旅行！」開催　参加者：26名
2014年10月10・17日：展示ガイド「15分でわかる肥後官道のツボ！」開催　参加者：14名
（新聞報道）
2014年８月７日：熊本日日新聞　17面

４．本荘北地区1321調査地点の現地説明会の開催

2014年10月25日：「熊本大学病院内で江戸時代の井手発見」に関する記者会見
会場：熊本大学医学部附属病院管理棟２階　第２会議室Ｂ
2014年10月26日：熊本大学埋蔵文化財調査センター現地説明会開催　参加者：約30名
（テレビ放送）
2014年10月25日：TKU　ニュース
（新聞報道）
2014年10月26日：熊本日日新聞　21面
（その他）
2014年冬季　熊大通信 vol.55，国立大学法人熊本大学.

５．埋蔵文化財調査センターにおける「地下の文化財速報展示」の開催

開催期間：2014年11月４日～2015年２月27日　会場：熊本大学埋蔵文化財調査センター　来館者：163名
2015年１月22・27日：展示解説開催　参加者：52名
（新聞報道）
2015年１月20日：熊本日日新聞　15面
2015年１月23日：西日本新聞　29面
2015年１月24日：朝日新聞　32面
（その他）
2014年12月24日：『Espresso』vol.15，p102，くまもと経済.

６．授業等への協力

2014年４月16日：本学文学部の杉井健准教授と授業履修生10名が1310調査地点を見学
2014年４月18日：本学教育学部の山本耕三准教授と授業履修生40名が1310調査地点とセンター展示室を見学
2014年４月24日：本学文学部歴史学科考古学研究室の学生６名が1310調査地点を見学
：本学文学部の木下尚子教授の授業履修生70名がセンター展示室を見学
2014年４月25日：本学文学部の杉井健准教授と授業履修生19名が1310調査地点とセンター展示室を見学
：本学教育学部の宮縁育夫准教授と学生５名が1310調査地点を見学
2014年６月９日：本学文学部の木下尚子教授と授業履修生25名（留学生）がセンター展示室を見学

2014年６月24日：本学工学部の重石光弘准教授と授業履修生73名が1310調査地点とセンター展示室を見学
2014年11月１日：熊本大学ホームカミングデイによる文化財散歩を開催　参加者：17名

写真300　地下と地上の文化財散歩

写真301　黒髪南地区1310調査地点の現地説明会

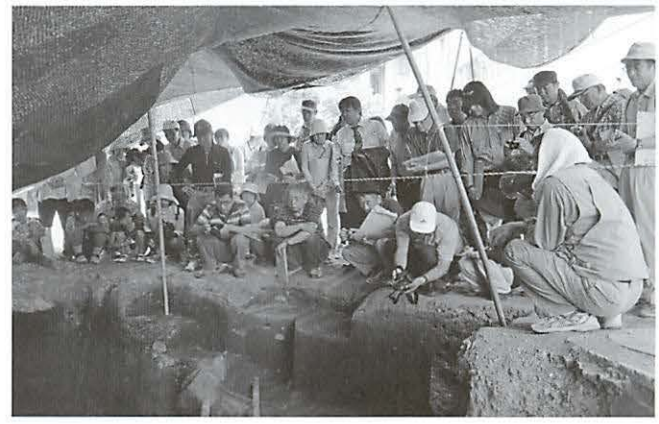


写真302　五高記念館でのテーマ展示展示ガイドツアー

写真303　本荘北地区1321調査地点の現地説明会

写真304　センターでの速報展示展示解説

写真305　授業への協力（黒髪南地区1310調査地点）

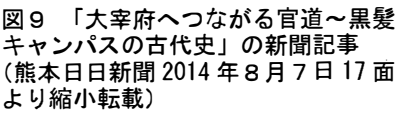


図９　「大宰府へつながる官道～黒髪キャンパスの古代史」の新聞記事
（熊本日日新聞 2014 年８月７日 17 面より縮小転載）

図 10　「縄文時代後期の埋葬人骨発見」の新聞記事
（熊本日日新聞 2014 年 5 月 30 日 28 面より縮小転載）

図 11 「熊本大学病院内で江戸時代の井手発見」の新聞記事
（熊本日日新聞 2014 年 10 月 26 日 21 面より縮小転載）

図 12 「2014 年度地下の文化財速報展示」の新聞記事
（熊本日日新聞 2015 年 1 月 20 日 15 面より縮小転載）

報告書抄録

ふりがな	くまもとだいがくまいぞうぶんかざいちょうさせんたーねんぽう　21
書名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報　21
副書名	
巻次	
シリーズ名	熊本大学埋蔵文化財調査センター年報
シリーズ号	21
編著者名	木下尚子・松田光太郎・大坪志子・山野ケン陽次郎・大崎喜美子
編集機関	熊本大学埋蔵文化財調査センター
所在地	〒860-8555　熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1　TEL.096-342-3832　FAX.096-342-3832
発行年月日	2016年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
くろかみまち 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	くまもと 熊本県 熊本市 くろかみ 黒髪	43 201	278	32° 48′ 47″	130° 43′ 46″	20140401 ～ 20150320	5275.60㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２１地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20140425 ～ 20141209	1551.50㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２２地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20141127 ～ 20141202	230.60㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１３２５地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 49″	130° 42′ 44″	20140603 ～ 20141113	487.70㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
きょうまちだい 京町台遺跡 （１４１７地点）	くまもと 熊本県 熊本市 きょうまち 京町	43 201	238	32° 49′ 05″	130° 42′ 16″	20140911 ～ 継続中	747.90㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１４２３地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 53″	130° 42′ 45″	20141016 ～ 継続中	148.26㎡	学校敷地内の開発事業に伴う
ほんじょう 本庄遺跡 （１４２６地点）	くまもと 熊本県 熊本市 ほんじょう 本荘	43 201	285	32° 47′ 48″	130° 42′ 41″	20141117 ～ 20141224	2141.0㎡	学校敷地内の開発事業に伴う

※北緯・東経の数値は世界測地系に基づく値です

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
くろかみまちいせきぐん 黒髪町遺跡群 （１３１０地点）	集落址	縄文・古代・近世・近現代	竪穴住居・溝・ピット・土坑・土坑墓・配石墓	縄文土器・石器・土師器・須恵器・紡錘車・古銭・鉄製品・銅製品・陶磁器・土製品・人骨	縄文人骨
ほんじょういせき 本庄遺跡 （１３２１地点）	集落址	古代・近世	竪穴住居・溝・ピット・石垣	土師器・須恵器	井手
ほんじょういせき 本庄遺跡 （１３２２地点）	集落址	古代	溝・ピット	土師器・須恵器	
ほんじょういせき 本庄遺跡 （１３２５地点）	集落址	古代	竪穴住居・溝・ピット	土師器・須恵器	
きょうまちだいいせき 京町台遺跡 （１４１７地点）	集落址	弥生・古代・近世	竪穴住居・溝・ピット	弥生土器・土師器・陶磁器	
ほんじょういせき 本庄遺跡 （１４２３地点）	集落址	古代	溝	土師器・須恵器	
ほんじょういせき 本庄遺跡 （１４２６地点）	集落址	古代	竪穴住居・溝・ピット	土師器・須恵器	

熊本大学埋蔵文化財調査センター年報21
—2014年度—

平成28年３月31日　印刷
平成28年３月31日　発行

編集兼発行者　熊本大学埋蔵文化財調査センター
熊本市中央区黒髪２－39－１
電話（096）342－3832
印刷所　シモダ印刷株式会社

Published by
Research Center for Buried Cultural Properties,
Kumamoto University
Kumamoto, 2016